

翔

はばたき

かながわ高文連



総目次

挨拶

神奈川県高等学校文化連盟会長 疋田 武夫

神奈川県高等学校総合文化祭

お祝いのごとば

神奈川県知事 岡崎 洋

開催によせて

挨拶

神奈川県教育委員会教育長 小森 良治

生徒代表のごとば

公文国際学園高等部三年 木水 克典

総合開会式報告・次第

総合開会式報告・次第

総合開会式グラビア

総合開会式グラビア

生徒実行委員会

ポスター・パンフ他

庁内展示

専門部会グラビア

美術・工芸 合唱 吹奏楽 器楽・管弦楽 写真 書道 文芸 放送・情報 囲碁 将棋 ボランティア かるた

鉄道研究 日本音楽 吟詠剣詩舞 郷土芸能 理科 演劇 新聞 アマチュア無線 茶道 弁論 社会科

全国高等学校総合文化祭グラビア

専門部会活動報告

合唱 吹奏楽 器楽・管弦楽 美術・工芸 文芸 放送・情報 囲碁 将棋 ボランティア かるた 鉄道研究

日本音楽 吟詠剣詩舞 郷土芸能 理科 演劇 新聞 アマチュア無線 茶道 弁論 社会科

生徒実行委員会報告

神奈川県高等学校総合文化祭生徒作品集

文芸 ボランティア 社会科 弁論

編集委員会名簿・編集後記

広告

全高総文祭かながわ2002イメージソング かながわ高文連の歌―地球からの贈り物―

73 59 53 33 31 16 2



「全高総文祭かながわ2002」の成功を期して

神奈川県高等学校文化連盟会長 足田 武夫

「翔（はばたき）第十三号」をお手元にお届けします。平成十三年度の高文連の活動の概要を知る手がかりとしてご活用ください。平成十三年は、新しい世紀の始まりの年であり、神奈川県の高文連にとっては、「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会」の前年、つまりブレ総合開会式開催の年でもあって、たいへん忙しい年でありました。一方、それだけ活動の充実した有意義な年でもありました。この「翔（はばたき）第十三号」をご覧いただければよくわかると思います。

さて、いよいよ今年八月には、全国大会が開催されます。これは「全高総文祭かながわ2002」と銘打って、総合開会式、パレード、二十六部門の催しが横浜市をはじめ県内十三市町の後援を得て、各地で繰り広げられます。全国から多くの高校生をお迎えするビッグイベントになるはずで、神奈川県において、高校生の文化・芸術活動がこれほど注目されたことはかつてなかったことであります。文化・芸術の活動はもっぱら精神的な営みで、とらえにくいものであります。私は高校生の文化・芸術活動を一種の「覚醒」であるといったことがあります。自分自身に目覚めていくこと、人間関係の重要性に目覚めていくこと、技術や精神の高さに目覚めていくこと、いずれにしても漠然としたものにかたち、すがたを与え、自己を高めていく精神的な営みが高校生の世代で必要なことであります。そのような意味で、高校生の文化・芸術活動という漠然とした営みにすがた、かたちを与えてみたいと思います。きっと、それは大人が予想できないほどの力強さと優しさと豊かたでおやかな感性に満ち溢れていると考えるからであります。

今年の夏の「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会」が楽しみです。現在、神奈川県高等学校文化連盟は、高校生の主体的、自主的な活動の実現に向けて全力をあげています。加盟している専門部会は二十三のほつています。

「全高総文祭かながわ2002」には、さらに協賛部門を加えて二十六部門が、それぞれの活動を繰り広げます。それを統率する形で生徒実行委員会の活動が期待されます。高校生の手になる自主的な活動にはどのような創意と工夫が凝らされているのでしょうか。「潮風にのり かもめよはばたけ 創造の翼広げて」は大会テーマですが、ことばどおりの思い切った飛翔が期待されています。

最後に、高校生の文化・芸術活動の推進のために、高文連の活動にご理解とご支援をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。県内高校生の文化・芸術活動がますます発展していくようあたたく見守っていただきたいと思います。

神奈川県高等学校総合文化祭

お祝いのことば



神奈川県知事

岡崎 洋

「神奈川県高等学校総合文化祭」の開催を心から
お喜び申し上げます。

この文化祭は、高校生の文化・芸術活動の活性化を目的として、昭和五十七年に始まって以来、今年でちょうど二十回目を迎えました。文化祭に直接参加する生徒の皆さんのみならず、文化・芸術を愛好するたくさんの方々が互いに親睦を深め、啓発しあう幅広い交流の場となっており、たいへん意義深いものと思えます。

今年の総合文化祭のテーマは「輝く心 創造の宇宙へ」です。参加する高校生の皆さんには、日ごろの活動の成果を存分に発揮され、それぞれの部門で創造力に満ちあふれ、さらさらと輝く舞台や競技、そして作品を披露してくださいよう期待して

います。

神奈川県では、今年二〇〇一年を「希望の年」として位置付け、文化・芸術活動を含むさまざまな記念事業を開催しています。若い皆さんの元気一杯のエネルギーで、この二十一世紀のスタートの年を文字どおり希望の光で明るく輝かせてください。

いよいよ、来年、平成十四年には「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会（全高総文祭かながわ2002）」が開催されます。これまで、皆さんが先輩たちから受け継いできた「県高等学校総合文化祭」二十年の成果をしっかりとつなげ、はつらつとした高校生の文化・芸術活動の力強い鼓動を神奈川から全国に伝えてください。

神奈川県高等学校総合文化祭のご成功と、神奈川県高等学校文化連盟のさらなるご発展をお祈りして、お祝いのことばいたします。

開催によせて



神奈川県教育委員会教育長

小森良治

「平成十三年度神奈川県高等学校総合文化祭」が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

今年もこれから来年一月までの三か月間にわたり、県内各地で展示・発表・競技が行われます。「神奈川県高等学校総合文化祭」は、昭和五十七年に第一回「かながわ高校芸術祭」として始まり、年々その規模を拡大して質の充実を重ねてまいりました。平成十年には「神奈川県高等学校総合文化祭」と名称を変え、神奈川県内の高校生の総合的な文化・芸術の祭典として位置づけ、二十年目を迎えた今年は、当初の五部門から二十部門へ、参加高校生数も四万人を越えるまでに発展してきました。これまで先輩から後輩へと成果を引き継いできた多くの高校生の皆さんと、ご指導いただきました先生方、また暖かくご支援・ご協力いただきました関係者の方々に深く感謝いたします。

今年八月には、福岡県で「第二十五回全国高等学校総合文化祭」が開催されました。神奈川県からは、十九部門に五百人余

が参加しました。全国の場合において発表・交流する中で、お互いを認めあい、共に学び共に磨く場となったのではないかと思います。

「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会（愛称：全高総文祭かながわ2002）」の開催までいよいよあと一年足らずに迫ってまいりました。今年の県総文祭の総合開会式は、来年神奈川県で開催される「全高総文祭かながわ2002」のブレ総合開会式を兼ねており、来年の総合開会式と同じパシフィコ横浜国立大ホール（国立横浜国際会議場）を会場としました。「潮風にのり かもめよはばたけ 創造の翼広げ」のテーマのもとに急ピッチで準備を進めているところですが、今年の総文祭が来年の全高総文祭かながわ2002の開催へ向けての大きなステップとなることを期待しています。

今年のテーマの「輝く心 創造の宇宙へ」は、無限の創造力を持つ若い高校生が文化・芸術活動を通して、お互いに競い合いながら交流し、その個性・能力を発揮しようとする心意気を表現しています。新しい文化の担い手となる若い人たちの総文祭でのエネルギーが全高総文祭へ繋がり、社会の大きな活力となることと思います。

一人でも多くの県民の皆さんに高校生の「輝く心」をご覧いただき、この文化・芸術の祭典がより一層充実発展することを願って、お祝いの言葉といたします。

挨拶



神奈川県高等学校総合文化祭実行委員長
(神奈川県高等学校文化連盟会長)

足田 武夫

今年のテーマは「輝く心 創造の宇宙へ」です。簡潔で力強いことばに若々しい精神の息吹が感じられます。二十一世紀の最初の年、新世紀の幕開けにふさわしい意気込みを感じます。新しい時代には、新鮮で意欲的な若者の姿がとても似合います。

神奈川県の高校生の総合文化祭は、昭和五十七年に「かながわ高校芸術祭」という名称でスタートしています。この催しは、その後「神奈川県高等学校総合文化祭」と名称は変わりましたが、今年で二十回目にあたります。二十年という歳月は、ものごとを醸成させるには十分な時間であり、神奈川という風土で育つ高校生がどのような気風をもち、文化をもち、学習しているのか。十分に知りたいところでもあります。

文化・芸術とは一種の覚醒でもあります。漠然としたものにしたが、かたちを与えていく行為でもあります。高校生の文化・芸術活動という漠然とした営みにすがた、かたちを与えてみたいと思います。きつと、それは、大人が予想できないほどの力強さと優しさと、豊かでたおやかな感性に満ち溢れているはずで。

高校生に、文化・芸術活動に向かわせるものはなんだろうと三つほど考えてみました。最初に考えられることは、自分を表現したいという素朴な欲求によるものでしょう。この世の中で一番わかっているようで一番わかっていない自分という人間。

それをどうしても知りたくなるのは当然のことです。次に、模範とすべき者へのあこがれがあります。模倣から創造へのみちのりは厳しいのですが、人は模倣からスタートします。三丁目としては、友とのふれあいですが、同好の友との語らい、交流は、なによりも大切なことでもあります。人はそのようにして温かい心情と、共に響き合う心を養うことになるでしょう。このように勝手に想像してみました。人によって違いはあるでしょうが、それほど遠いものではないと考えます。いずれの理由にせよ、若者が精力的に取り組む姿は、貴く美しいものであります。

今年の「神奈川県高等学校総合文化祭」が楽しみです。楽しみな要素がさらに加わりました。来年の夏には「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会」が開催されます。その大会は「全高総文祭かながわ2002」と銘打ち、今年以前年ということで「プレパレード」と「プレ総合開会式」が行われます。これは例年の高文連の「総合開会式」を兼ねるものであります。

現在、神奈川県高等学校文化連盟は、高校生の主体的・自主的な活動の実現に向けて、全力をあげています。加盟している専門部会は二十三専門部会にのぼっています。総合開会式の後は、各専門部会の展示、発表、競技が続きます。また、生徒実行委員会の活動も期待されます。高校生の手になる自主的な活動には、どのような創意と工夫が凝らされているのでしょうか、楽しみなことであります。

終わりに、この大会の開催にあたり、お力添えをいただきました関係者の方々に、深く感謝申し上げます。また、来年に迫った「神奈川大会」の成功に向けて、今後ともご指導ご支援をお願いするとともに、県内高校生の文化・芸術活動がますます発展していくよう、あたたかく見守っていただきたいと思っております。

「輝く心 創造の宇宙へ」楽しみにしています。

生徒代表のことば



生徒実行委員長
公文国際学園高等部三年

木水克典

いよいよ「平成十三年度神奈川県高等学校総合文化祭」の開幕です。

これから約三ヶ月間、県内各地で「輝く心 創造の宇宙へ」のテーマのもと、私たちは、先輩たちが築き上げた文化・芸術活動をしっかり受け継ぎ、私たちの「輝く心」を精一杯表現していきたいと思います。

さて、今年の「総合開会式」は、来年八月に行われる「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会」の「プレ総合開会式」として位置づけられています。それに先だつて、私は、八月三日から福岡県で開催された「第二十五回全国高等学校総合文化祭」に県代表として参加し、パレードや総合開会式に出演しました。総合開会式の三県交流では、合同合唱団が「神奈川ゆかりの歌メドレー」を合唱し、その後に生徒実行委員会のメンバーと一緒に、神奈川大会イメージソング「地球からの贈り物」の手話コーラスを発表しました。会場となった福岡国際センターは、全国から集まった高校生の熱気で満ちていて、私は、そのスケールの大きさに驚きました。主体的に運営をしている福岡県の大勢の高校生の姿も印象的でした。福岡の生徒実行委員長の水鍋君が控室を訪れ、この大会を来年は神奈川で行うんだということを変更して実感しました。

また、神奈川県は「日韓高校生文化交流事業」として、大韓民国京畿道から安山女子情報産業高校の生徒の皆さんを招へいました。福岡空港での出迎えから約一週間、私たちは行動を

共にし、神奈川県での歓迎レセプションや伝統文化交流会（ワークショップ）など様々な催しを行いました。始めは言葉が通じないのでかなり戸惑いましたが、韓国語の本を片手に、身振り手振りで少しずつ会話をしていきました。言葉が通じないながらもうちとけ、後半には互いに名前で呼び合うほどになりました。私は、文化の基礎となる言葉というものの重要さと同じように、言葉がなくても通じる、人類に共通した何か温かい感情を学ぶことができました。

来年八月には、全国の高校生はもちろんのこと、中国、韓国、アメリカそしてインドネシアの四つの国の高校生が「神奈川大会」に参加します。この夏に私たちが味わった感動をできるだけ多くの人に伝え、来年の「神奈川大会」をより素晴らしい文化交流の場にしたいと、強く感じます。異なる文化をもつ仲間と協力し合うことは非常に難しいことですが、その壁を乗り越えた先に素晴らしい充実感と喜びが待っています。文化とは、異なるもの（物・者）が合わさり、融合するところに生まれるものではないでしょうか。私は、自分と異なる者と触れ合う苦労や喜びなど、それ自体が文化だと思っています。その気持ちや小説に書いたり、音楽として演奏したり、映像として表現したりするのでしよう。文化の本質を形づくっているのは他でもない、私たち自身だということを感じずには、自然と、私たちは、自分の活動に自信と誇りをもつことができると思います。

最後になりましたが、この「神奈川県高等学校総合文化祭」、さらには来年行われる「第二十六回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会」の開催に当たり、日頃からご協力ご支援をいただいている関係者の皆さま、ご来賓の皆さま、そして私たちを温かく見守り、時には厳しく指導して下さる諸先生方、本当に感謝しています。

さあ、この会場に集まった高校生の皆さん、今年のテーマにもあるように、皆さんの「輝く心」でこの会場を一杯にしてみませんか。そして「平成十三年度神奈川県高等学校総合文化祭」が皆さんの人生の中で、最も輝く時間になるよう、がんばりましょう！

「神奈川県高等学校総合文化祭」

総合開会式報告

期日 十月二十八日(日)
会場 パシフィコ横浜 国立大ホール

今年度の「神奈川県高等学校総合文化祭」は「輝く心 創造の宇宙へ」のもとに開催された。特に、今年度の総合開会式は「全高総文祭かながわ2002「ブレ総合開会式」として来年の第二十六回全国高等学校総合文化祭神奈川県大会の開催規定に準じて開催された。県内各地で開催された二十三専門部会の展示、発表、競技もブレを意識するものとなった。

パシフィコ横浜国立大ホールは来年の全高総文祭総合開会式の会場でもあり、例年の規模を上回る総合開会式となった。企画運営した生徒の多くは全高総文祭福岡大会を視察し、その成果を生かした総合開会式で、来年の成功を皆な確信するものとなった。

第一部の式典で、正田武夫会長は「若い高校生の一人ひとりが平和の暁を自覚し、文化芸術活動を通じて自己の人格形成に努めて欲しい」と二十一世紀の創造の宇宙へ元氣よく乗り出すことを期待された。小森良治教育長は「各部門、日頃の成果を発揮し、この神奈川県を全国に向けて力強く発信してくれらるものと確信する」と神奈川県大会の成功に向けた取り組みを強調された。木水克典生徒実行委員長は「生徒実行委員会の活動を通して、文化とは異なるものと異なるものが触れあい融合したところに生まれるものと実感した。新しい文化を築くため夢と希望をふくらましその喜びや感動を生み出すのは自分自身である」と私たち自身の文化を精一杯表現しようと呼びかけた。

第二部の近県交流・国際交流では、全国的に活躍している山梨県の日本航空高等学校の和太鼓「大鷲のごとく」が力強く演奏された。続いて、横浜中華学院は中国伝統の龍舞「夜光龍の舞」を華麗に披露し、サンモールインターナショナルスクールは米国画統のジャズ「マスケナダ」等をバンド演奏した。これらの交流を通して、ことばの違いを越えて音楽は世界をついにし、文化の素晴らしさを共有出来るものとなった。

第三部の交歓会では、生徒実行委員会演劇部の創作劇を進行役にして、創作ダンス、吟詠剣詩舞、マーチングバンド、日本音楽、合唱と次々に演じられた。いずれも日頃の練習成果が発揮され観客にすばらしい感動を与えるものとなった。特に、高体連のダンス部の参加で高文連と高体連の連携が高校生の輪を更に広げていくことを示した。

「花は毎年咲いている、自分自身の手で育てる」「来年神奈川県に花が咲く」「来年神奈川県にやってくる全高総文祭がんばりますか」「はい、がんばるぞー!」力強い声が響いた。

「神奈川県高等学校総合文化祭」

総合開会式 次第

第一部 式典

- オープニング 生徒実行委員会
- 開会宣言 東海大学付属相模高等学校 吹奏楽部
- ファンファーレ 部門代表生徒・近県交流代表生徒・国際交流代表生徒・生徒実行委員入場
- 国歌斉唱 国歌斉唱
- 県高等学校総合文化祭実行委員長 挨拶 県高等学校文化連盟会長 正田 武夫
- 第二十六回全国高等学校総合文化祭 神奈川県実行委員会会長 挨拶 小森 良治
- 県教育長 生徒実行委員長 木水 克典
- 生徒代表のことば
- 全国高文連の歌
- 第一部閉会のことば

休憩(十五分)「かながわ紹介」

- ①「神奈川の四季」写真専門部会
- ②「青春・文化・いま」放送・情報専門部会

第二部 近県交流・国際交流(国際県かながわ 全国に発信)

【近県交流】

和太鼓

【国際交流】

龍舞

ジャズバンド

第三部 交歓会(文化の華 いま神奈川県に出現)

第三部開会

創作ダンス

吟詠剣詩舞

マーチングバンド

第二十五回全国高等学校総合文化祭・福岡大会報告

日本音楽

開催部門紹介

演劇

合唱

大会イメーజソング独唱

大会イメーజソング合唱

大会アピール宣言

ファイナール

「夜光龍の舞」 横浜中華学院

「マスケナダ」他 サンモールインターナショナルスクール

桐蔭学園高等学校 和太鼓同好会

県高等学校体育連盟ダンス部会

吟詠剣詩舞専門部会

鎌倉女子大学高等部 マーチングバンド部

生徒実行委員会 総務・事業班

日本音楽専門部会 県内十一校合同

生徒実行委員会 演劇班

開催部門紹介 1 「僕らのリング2」

開催部門紹介 2 「神奈川ゆかりの歌メドレー」

伴奏：神奈川県立附属高等学校オーケストラ

小野寺祐哉(県立横浜平沼高等学校)

井上麻衣香(県立新磯高等学校)

県高等学校合同合唱団

生徒実行委員会

大会イメーజソング合唱

大会アピール宣言

ファイナール

「神奈川県高等学校総合文化祭」

総合閉会式報告

期 日 一月十九日(土)
会 場 横浜市西公会堂ホール

今年度の「神奈川県高等学校総合文化祭」は、十月二十八日のパシフィコ横浜で行われた総合閉会式でスタートした。来年に開催される「全高総文祭神奈川2002」のプレ大会と銘打ち、「輝く心 創造の宇宙(うみへ)」のテーマを掲げ、二十三専門部会の高校生が県内の各会場においてこれまでの成果を発表してきた。

総合閉会式は、昨年と同じ横浜市西公会堂において、多くの来賓と座席に座りきれないほどの参観者を得て、盛況の裡に行われた。菅原章予副委員長(県立白山高校)の力強い開会のことばに続いて、吉田貴由樹委員長(県立港北高校)、正田武夫高文連会長、白鳥稔県教育委員会教育部長等の挨拶のあと、各専門部会で活躍した生徒に各賞の表彰が行われた。

発表の部では、県下弁論大会で最優秀賞を得た、新美安紀さん(日本大学藤沢高二年)の、自分自身の言葉で「生きた日本文化」を伝える大切さに気づいた体験談を皮切りに、次々に日頃の成果が発表された。どの専門部会も来年度の全国大会に向けた取り組みが実り、この一年間の成長に目を見張るものがあった。中でも相洋高校の和太鼓は、福岡大会で文化庁長官賞に選ばれ、全高総文祭優秀校の東京公演にも出演した自信が漲り、迫力と楽しんでいる様子が伝わった。又、県立川崎高校定時制一年生、中川麻衣さんの教育長賞を得た、「この世界は二千年九月十一日」の、「この世界は綺麗です/たとえ/すべてが悲しみの背に覆われていようと/たとえ/自分の痛みには敏感なくせに/他人の痛みには鈍感な人間がいようと/人間を血の紅で染めようと/希望を込めて/この世界は綺麗です」という詩の朗読は、風に乗って世界中の人々の心に届けようと思っただけであった。「Amazing Grace」の合同合唱からフィナーレへと、「地球からの贈り物」の全高総文祭かながわ2002のイメージソングを全員で合唱して大きな盛り上がりの中に閉会した。最後に、ボランティア専門部会の手話通訳、湘南学院高校の呈茶、県立中央農業高校の花の販売等の貢献にも感謝したい。

「神奈川県高等学校総合文化祭」

総合閉会式 次第

発表の部	発表内容	発表者
式典・表彰の部	開会のことば	司会 県立横浜日野高等学校二年 荒木 光 富士見丘高等学校一年 沖久 真鈴 県立白山高等学校二年 菅原 章子
国歌斉唱	生徒代表のことば	県立港北高等学校二年 吉田貴由樹 県立港北高等学校二年 白鳥 稔
挨拶	県立高等学校文化連盟実行委員長 県立高等学校文化連盟会長 県教育委員会教育部長	正田 武夫 白鳥 稔
来賓紹介	県知事賞、県教育長賞、県立高等学校文化連盟会長賞 県私立中等高等学校協合理事長賞 県立高等学校安全振興会理事長賞	
弁論	「生きた日本を」 日本大学藤沢高等学校二年	新美 安紀
和太鼓	「えっさ!小田原」 「秩父屋台囃子」 明德学園相洋高等学校	和太鼓部
ボランティア作文発表	「こころが伝わる喜び」 県立横浜日野高等学校二年	西脇 綾子
剣舞	「白虎隊」 日本大学高等学校二年	佐々木 嘉大
朗読	「この世界は」二〇〇一年九月十一日 県立川崎高等学校定時制一年	中川 麻衣
神奈川大会紹介	県立高等学校文化連盟生徒実行委員会広報班	
トランペット演奏	カール ビルス作曲 「トランペットとピアノのためのソナタより」 県立光陵高等学校二年	第三楽章 野田 亮
合同合唱	「Amazing Grace」 全高総文祭かながわ2002イメージソング 「地球からの贈り物」(かながわ高文連の歌) 「地球からの贈り物」(かながわ高文連の歌)	
全員合唱	全高総文祭かながわ2002イメージソング 「地球からの贈り物」(かながわ高文連の歌) 県立高等学校文化連盟生徒実行委員会副委員長	山田 黄葉
閉会のことば	県立横浜翠嵐高等学校一年	



総合案内所



PR活動

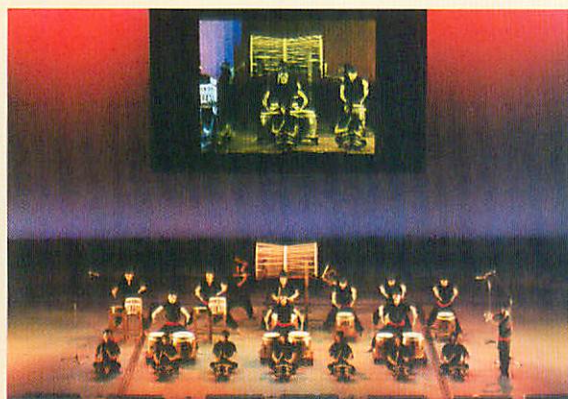
総合開会式

全高総文祭かながわ2002
プレ総合開会式

平成13年10月28日(日)
パシフィコ横浜 国立大ホール



いよいよ総合開会式の開幕 代表生徒入場



近県交流 山梨県 日本航空高校



国際交流 横浜中華学院

総合開会式



県高文連会長
(県立清水ヶ丘高校長 足田武夫)



県教育長
(小森良治)



生徒実行委員長
(公文国際学園高等部3年 木水克典)



開会宣言



国際交流
サンモール・インター
ナショナル・スクール



創作ダンス 県高体連 ダンス部



マーチングバンド 鎌倉女子大学高等部 マーチングバンド部



独吟・詩吟
(県立大師高校2年 荒崎春奈)



箏曲二部合奏 県内11校合同



「地球からの贈り物」合唱



創作劇「僕らのリング2」



フィナーレ



大会アピール宣言



桐蔭学園高校 和太鼓同好会（練習風景）



展示コーナー（マリンロビー）



速報「SEAGULL Express」の編集



呈茶コーナー（マリンロビー）



総合閉会式

平成14年1月19日（土）

横浜市西公会堂

生徒代表のこたば（県立港北高校2年 吉田貴由樹）



知事賞の表彰



私立中学高等学校協会
理事長賞の表彰



高文連会長賞の表彰



県立高等学校
安全振興会理事長賞の表彰



剣舞
(日本大学高校2年 佐々木嘉大)



開会のことば
(県立白山高校2年 菅原章予)



トランペットの演奏 (県立光陵高校2年 野田亮)



和太鼓の演奏
(明德学園相洋高校 和太鼓部)



鉢植えの頒布 (県立中央農業高校)



閉会のことば (県立横浜翠嵐高校1年 山田黄菜)

生徒実行委員会



韓国語講座



生徒実行委員会（全体会）



福岡の生徒実行委員長と



三県交流 がんばるぞ!!



福岡空港での出迎え



伝統文化交流会（ワークショップ）



成田空港での見送り



交流会（BINGO大会）



第25回全高総文祭・福岡大会 派遣激励会



総合閉会式プログラム表紙
石橋武士 県立二宮高校2年



総合プログラム表紙
深谷美智 県立二宮高校3年



神奈川高等学校総合文化祭ポスター
西原愛美 横浜華人高校3年(平成12年度)

ポスター・パンフ他

全高総文祭かながわ
2002 プレ総合閉
会式入場券



生徒新聞「かなぶん」第5号(生徒実行委員会 広報班)



総文祭 案内MAP(生徒実行委員会 広報班)



生徒新聞「かなぶん」第6号(生徒実行委員会 広報班)



ニュースかながわ高文連

庁内展示

短期展示

平成14年1月30日(水)～2月14日(木)
神奈川県庁 新庁舎 1階ロビー



庁内展示



エレベーターホール



教育部長室



会議室

長期展示

平成14年2月～平成15年2月
教育庁舎内

美術・工芸

第四十八回高等学校美術展
十一月二十八日(水)～十二月二日(日)
かながわ県民ホールギャラリー



▲奨励賞「唯願」
県立白山高校 高橋 拓末



◀教育長賞「水打際」
湘南学園高校 星野 温美



◀教育長賞「五首貝紋煉瓦」
県立上矢部高校 高橋 麗子



◀高文連会長賞「碧霞」
県立金井高校 五味 由加里



▲奨励賞「隠者」
県立百合丘高校 門田 貴美子

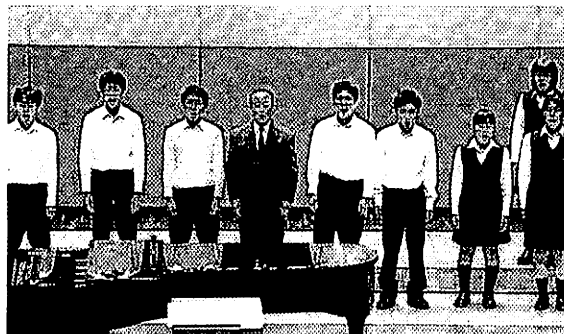


▲高文連会長賞「SELF PORTRAIT」
サンモール・インターナショナル・スクール
JUKA ARAIKAWA

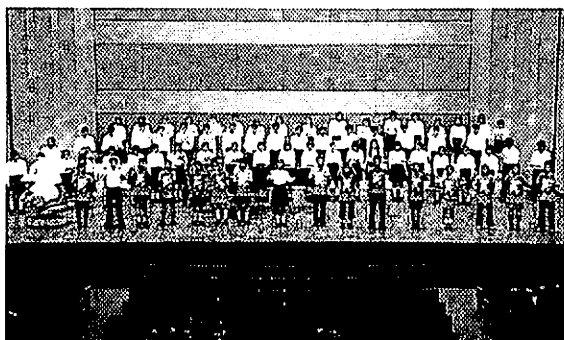


▲高文連会長賞「天秤座Libra」
県立上矢部高校 内田 安奈

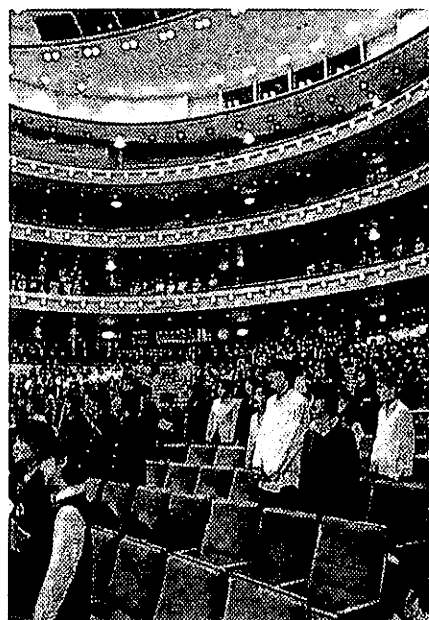
合唱



「先生も一緒！」



「合同合唱団と生徒委員」



「2002年夏は全国の
合唱仲間がここに集まる」

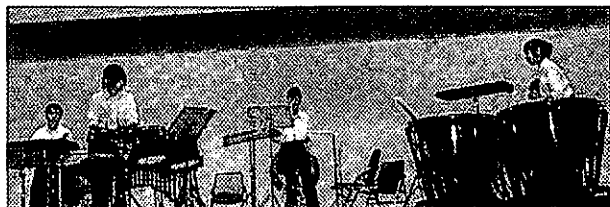
第四十三回高等学校連合音楽会
十月七日(日) よこすか芸術劇場

吹奏楽



十一月二十五日(日)
指揮法講習会

11月4日(日) アンサンブルフェスティバル



「みんな、しまっていくわよ!!」

「さあ、みんなわたしをみて!!」

第二十回高等学校音楽祭
十二月二十七日(木)
ハーモニーホール座間

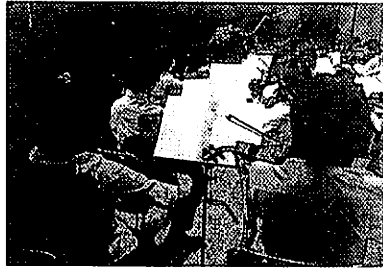


「すばらしい!!感動のフィナーレでした」

器楽・管弦楽

第十三回高文連ソロ・コンテスト
十一月十日(土)
かながわアートホール

12月16日(日) 関内ホール 第1回演奏会



「舞台狭しとがんばって」



「美しいハーモニーの流れ」

「しっかりがんばりました」



「渋〜い
音色だね」



「ちょっぴりあがっちゃった」

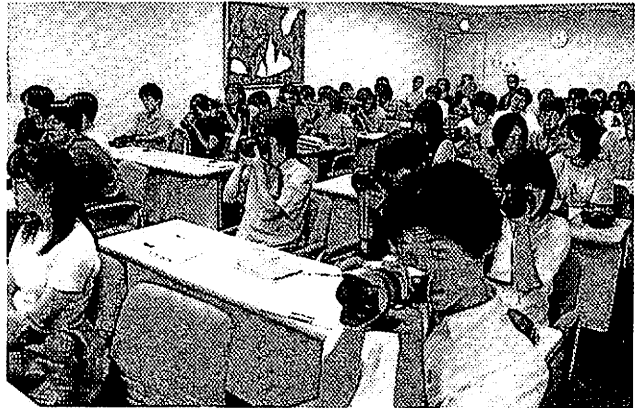


「大きいチューバーに負けないで」



写真

高校写真連盟「夏の勉強会」にて
撮影技術の説明(7月26日(木))→



「高校生写真展」での写真講評↑
(於・海老名市民ギャラリー
12月16日(日))

「高校生写真展」での交流会→
(於・海老名市民ギャラリー
12月16日(日))

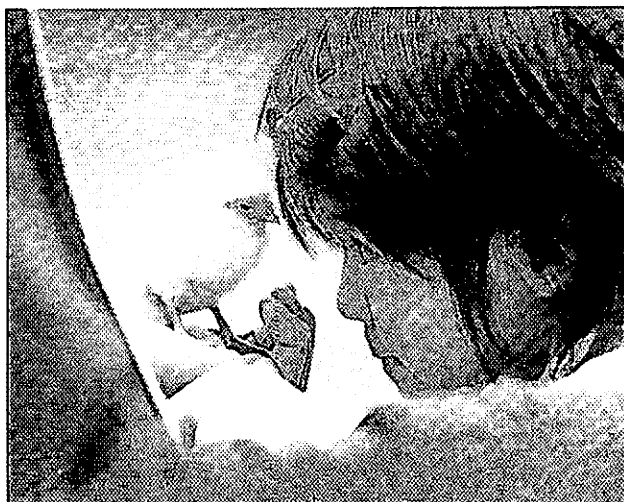


第28回 高校生写真展

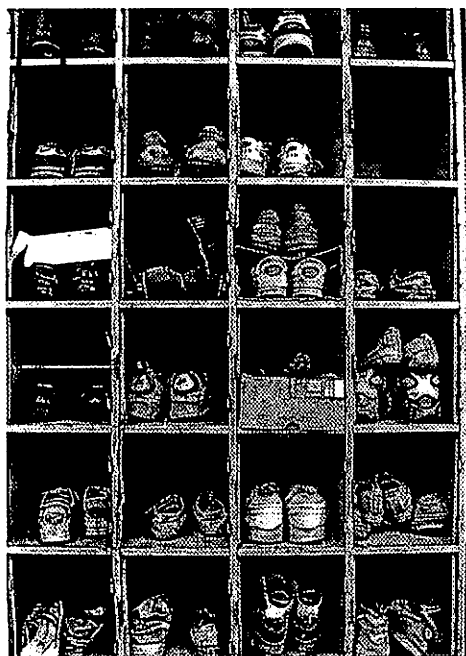
12月13日(木)～16日(日)
海老名市民ギャラリー



「何んでこんなに可愛いのかよ～」
高文連会長賞(高校生写真展「特選」)
県立大岡高校 正村 さやか



「Little pure heart」
知事賞(高校生写真展「推薦」)
県立清水ヶ丘高校 小梅 祐子



「羅列」
高文連会長賞(高校生写真展「特選」)
県立川崎工業高校 田口 雅章



「鬼」
高文連会長賞(高校生写真展「特選」)
県立横須賀工業高校 小田切 祐幸

書道

十一月十三日(火)～十七日(土)

横浜市教育文化センター 市民ギャラリー

第三十八回高等学校書道展

教育長賞 川崎市立高津高校三年 鞍谷 美幸

遠神 蝶紙 鳥居 龍之介

台新 楊林 島田 修博

島田 修博 島田 修博 島田 修博

島田 修博 島田 修博 島田 修博

島田 修博 島田 修博 島田 修博

島田 修博 島田 修博 島田 修博

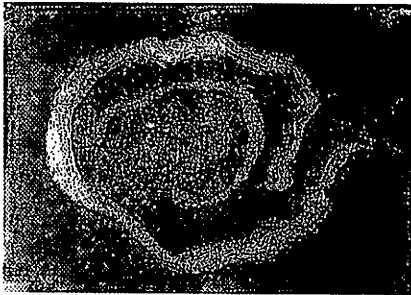
島田 修博 島田 修博 島田 修博

島田 修博 島田 修博 島田 修博

教育長賞 県立横浜緑ヶ丘高校二年 浜野 未帆

一聲 志鶴 日中 東

草堂 沖 遠 下 外 斗



教育長賞 県立川和高校三年 今野 光

昔者善哉善哉... 善哉而成就大哉大悲

教育長賞 湘南学院高校三年 鈴木 沙織

負けないように枯木か
よりに笑って咲く花に
ミスター・チロリンの詞 幹子かく

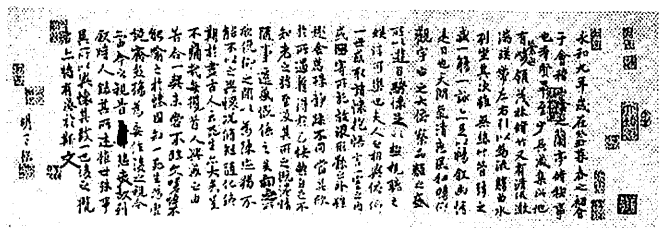
高文連会長賞 白鷗女子高校三年 水野 幹子

世人以樂不... 向上高校二年 宮壘 京子

教育長賞 向上高校二年 宮壘 京子



高文連会長賞 県立小田原養護学校一年 杉山 大助



私学協会理事長賞 県立港北高校三年 松原 明子

高文連会長賞 県立大和高校三年 大平 阿沙美

皇日尊也... 天啓... 萬物...

皇帝在春宮日製此文... 永徽四年歲次癸卯十二月...

高文連會長賞 県立城山高校二年 真山 智美

天地開闢... 皇極經世... 禮記...

高文連会長賞 横浜市立南高校三年 守屋 麻衣

家御雅然... 野堂...

高文連會長賞

横浜市立東高校三年 北野 真由子

高文連會長賞 県立上郷高校二年 松山 なぎさ

高文連會長賞

県立上郷高校二年 松山 なぎさ



高文連會長賞

県立平塚ろう学校二年 岡田 沙織

高文連會長賞

東横学園大倉山高校三年 江川 晶子



高文連會長賞 県立厚木高校一年 石原 弘隆

3回 文芸部交流会・文芸部 芸部交流会・文芸部誌コンクール



生徒委員長の挨拶



神奈川ゆかりの作家クイズ



リレー小説「うーん、
続きはどうしよう…」

文 芸

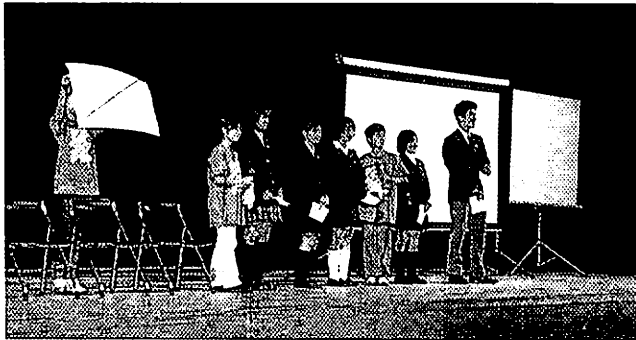
第五回高等学校校文芸部交流会・文芸部誌コンクール
十一月十一日(日) 横浜市西公会堂



難問揃いの4択?



作家研究 班別に真剣に討論!

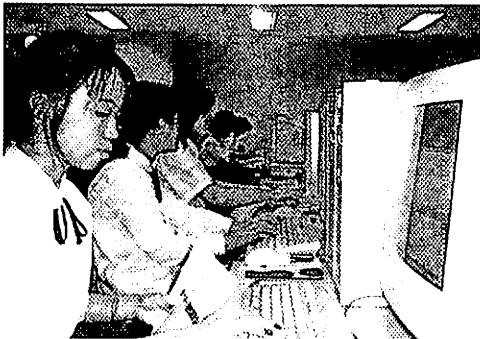


総文祭 生徒交流会



総文祭放送部門開会式

放送・情報



ホームページ作成講習会



総文祭 アナウンス審査

囲碁

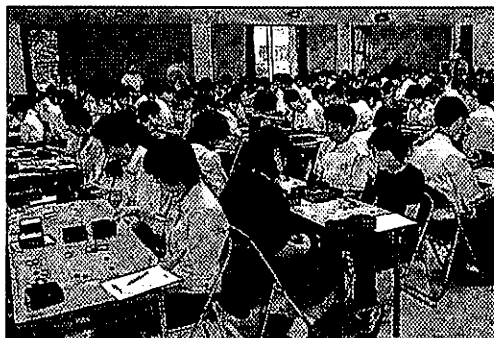
第二十二回高等学校秋季囲碁大会
十一月二十三日(祝)



団体戦もまた楽し



個人戦女子決勝



熱気溢れる段級位認定戦



優勝おめでとう

将棋

第13回総文祭将棋大会

個人戦

予選 11月11日(日) 慶応義塾高校

決勝 11月18日(日) 県立新城高校

団体戦

12月16日(日) 県立永谷高校



「女子個人戦」



「関東地区大会でも大活躍」



「真剣な表情の女子選手」

ボランティア

関東地区高校生ボランティアコンクール
11月10日(土)～11日(日)

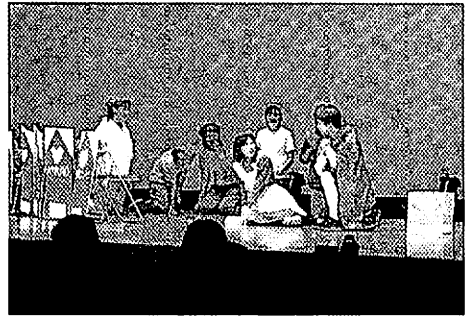
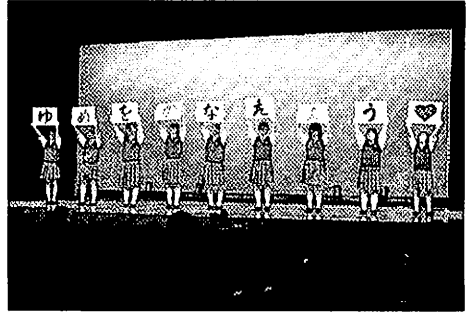
第12回高校生ボランティア研修の集い
8月8日(水)～9日(木) 愛川ふれあいの村



手話の講習

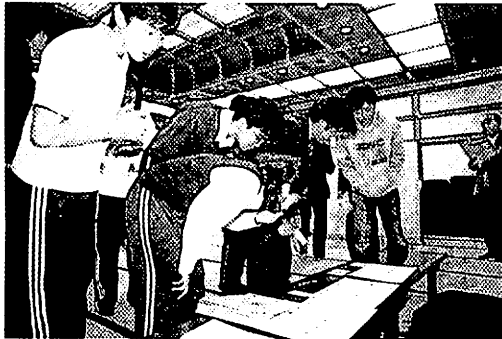


手話コーラス



手話パフォーマンス

研修会参加者



次の対戦相手の発表です



まず札を並べます



さあ、どっちが取ったかな？



あの札の上の句は…

かるた

第十三回高等学校かるた大会
十月十六日(日) 建長寺(鎌倉)

鉄道研究



写真展示列車の出発準備



人車鉄道の勉強会



研究発表

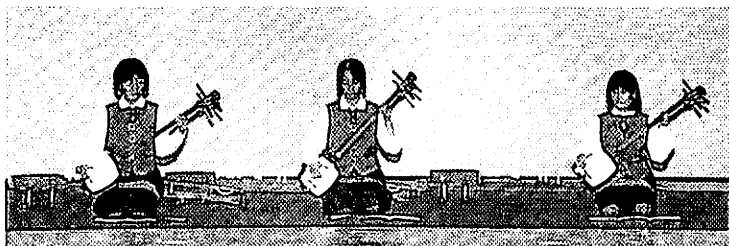


車椅子ガイド製作に向けて

日本音楽

第4回 高等学校日本音楽発表会

11月18日(日) 秦野市文化会館



三絃はしっとりした音色です

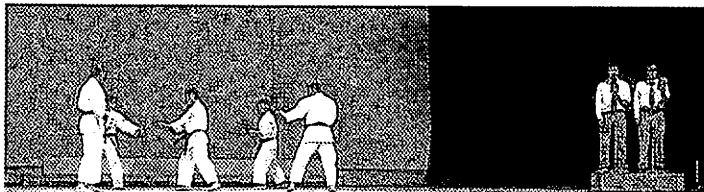


熱演

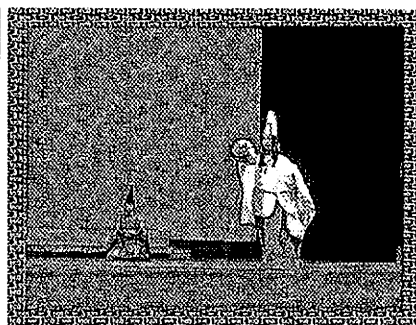


第4回高等学校日本音楽発表会

合同演奏「花筏」は大人数で迫力ある演奏でした



空手吟「空手道の歌」



鎌倉絵巻「静の舞」

日本武尊「吾妻山純情」

吟詠剣詩舞

第2回高等学校吟詠剣詩舞発表会

11月24日(土)横須賀市文化会館大ホール

神奈川大会へ向けて決意表明



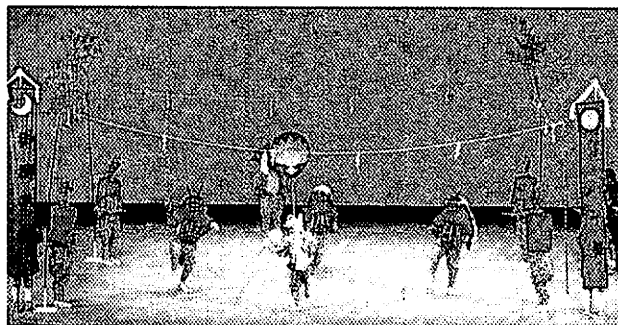
郷土芸能

第12回高等学校伝統芸能発表会

12月26日(水)ハーモニーホール座間



光明学園相模原高校 決め!



県立愛川高校 三増の獅子舞を伝承中



県立高浜高校 私たちは一人遣いの文案です



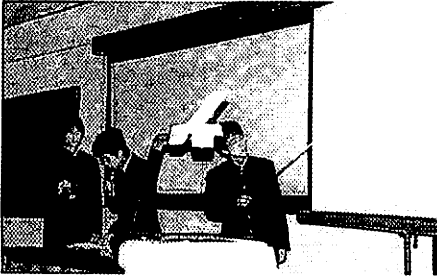
明德学園相洋高校
届け!全国の仲間へ

理科

第12回 高等学校理科部研究発表大会

11月10日(土) 県立青少年センター

「研究発表部門」

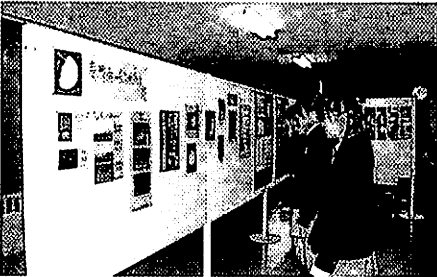


研究成果の口頭発表

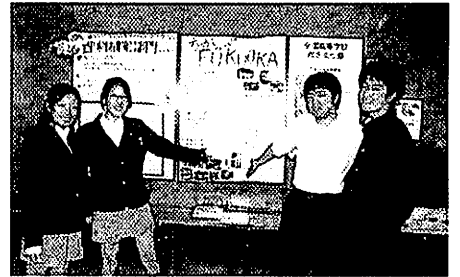


発表に聞き入る聴衆

「ポスターセッション部門」



研究成果をきれいにまとめて展示発表



全高総文祭・福岡大会 視察報告

演劇

第40回高等学校演劇発表会

11月17日(土)・18日(日) 県立青少年センター



麻布大学附属淵野辺高校「九郎～源義経流亡誌～」



県立逗葉高校「GRADUATION」



県立愛川高校
「センチメンタル・アマレット・ポジティブ」



県立平塚江南高校「豆魂～TOhKON」

新聞

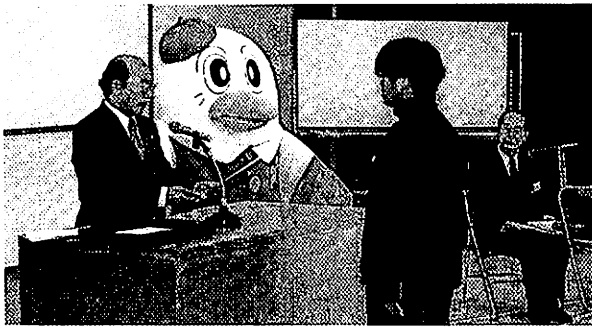
第五十一回神奈川県高等学校
新聞コンクール



優秀賞「こゆるぎ」(向上高校)

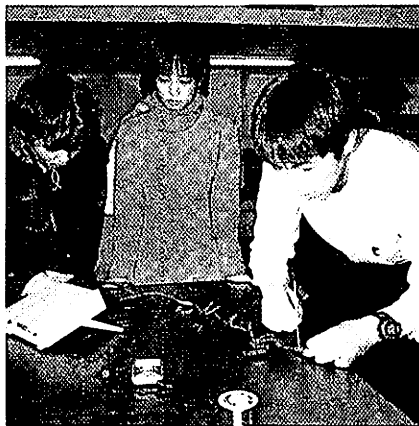


最優秀賞「大船高新聞」(県立大船高校)



「高校コンテスト
表彰式」

第12回高等学校
アマチュア無線大会
12月16日(日)
県立青少年センター



「工作会」
(組み立て後の調整)

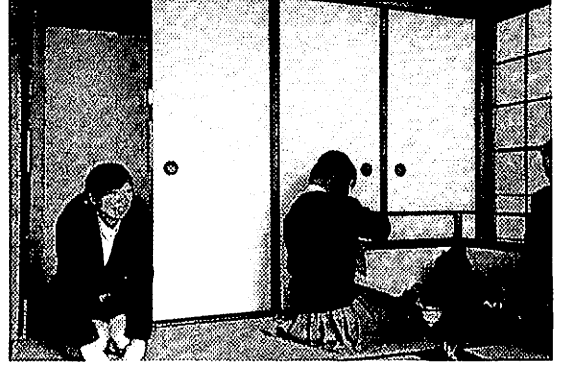
アマチュア無線



「工作会」
(ワイヤレスマイクの組み立て)



柄杓をかまえて心静かに



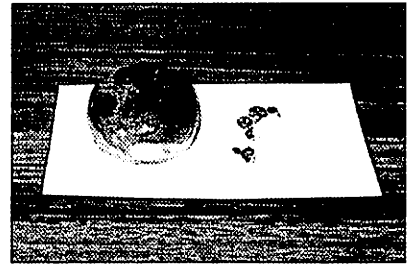
半東さん 笑顔でご案内

第七回高校生茶会
十一月二十三日(祝)
県立平塚江南高校

茶道



水屋の仕事も真剣



お菓子は県立平塚農業高校製の
「まさるクン」でした

弁論

第五十三回県下高等学校弁論大会
十一月十八日(日) 日本大学藤沢高校



日本大学藤沢高校 齋藤久就



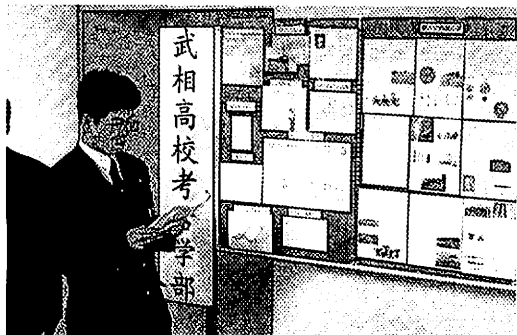
第25回全高総文祭・福岡大会



総文祭総合閉会式
日本大学藤沢高校 新美安紀



県下高校弁論大会
県立中央農業高校 清田浩志

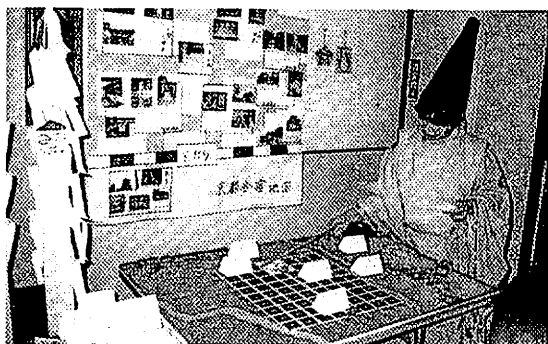


社会科

第七回高等学校
社会科研究発表大会
十一月二十三日(祝)
横浜英和女学院高校

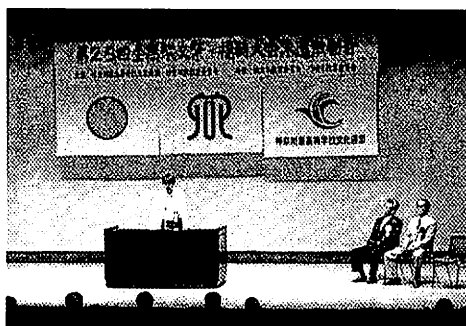
県内の古墳の出土品は… (武相高校)

舞台いっぱいの掛図を背景に (法政大学第二高校)



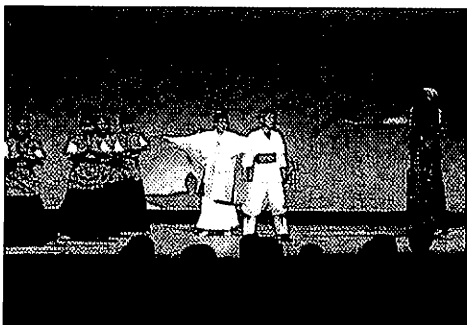
狩衣を着て模型の説明 (横浜英和女学院高校)

教育長賞を受賞 (法政大学第二高校)



かもえもんTシャツの贈呈

生徒実行委員長のことば



派遣団体の発表 (吟詠剣詩舞部門)

会場の様子 (派遣生徒)

第二十五回全高総文祭・福岡大会派遣激励会

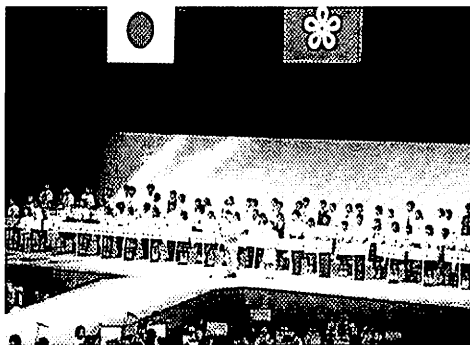
七月二十五日(水) 横浜市西公会堂ホール

第二十五回全国高等学校総合文化祭・福岡大会

八月三日（金）～八月七日（火）



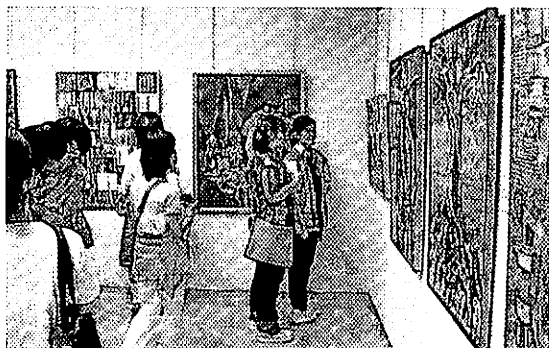
リハーサル



総合開会式



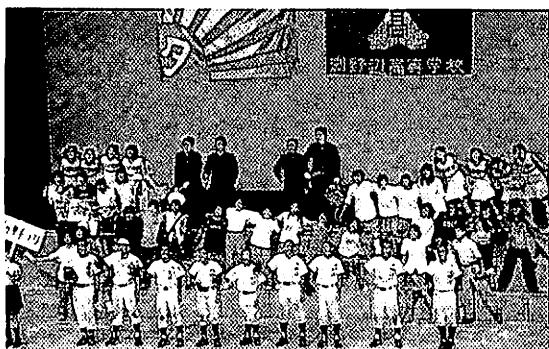
パレード部門



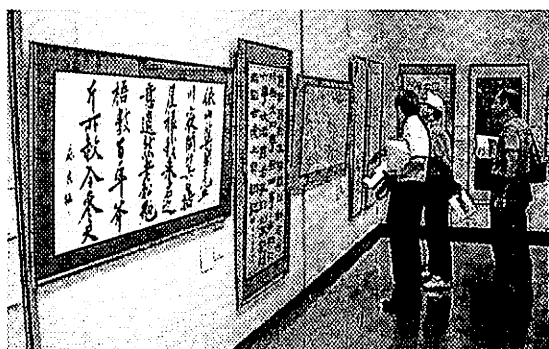
美術・工芸部門



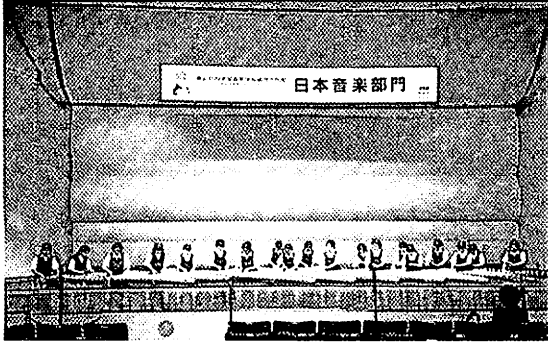
郷土芸能部門



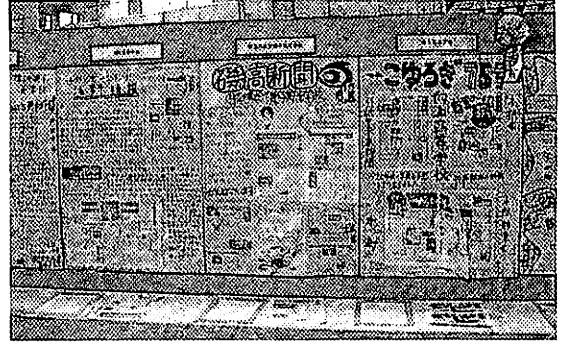
演劇部門



書道部門



日本音楽部門



新聞部門



囲碁部門



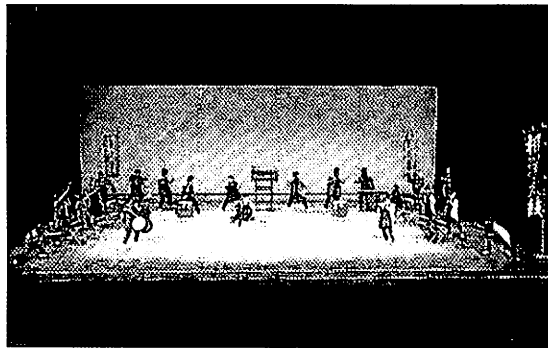
合唱部門



理科研究部門



吟詠剣詩舞部門



優秀校東京公演（国立劇場）



将棋部門

合唱専門部会の活動

○合唱講習会

六月三日 県立青少年センターホール
講師 関屋晋氏。二十九校、百六十三名が参加しました。

○発声法講習会

七月十四日 かながわアートホール
講師 篠崎義昭氏。三十六校、二百五十名が参加しました。

○第二十五回全国高等学校総合文化祭

八月七日 福岡県福岡市

アクロス福岡シンフォニーホール

☆第四十三回連合音楽会

十月七日 よこすか芸術劇場

今年、二十四校と県合同合唱団、合同OB合唱団、横浜国大付属鎌倉中学校、延べ六百三十人もの参加があり、美しい歌声を披露しました。大きな会場には一般のお客様も多数見えて、各校の演奏にも力がこもりました。合唱専門部会の中でも格別に長い歴史を持つこの音楽会の伝統のひとつに各学校が皆の演奏を聴き、お互いに感想を交換し励まし合うことが挙げられます。また、音楽会の終わりに、参加した生徒全員でかながわ高文連の歌「地球からの贈り物」と「大地讃頌」を高らかに合唱する事も伝統となりました。

活動が軌道に乗った生徒委員会は、何度も運営委員会を開き、準備から当日の進行までのすべてが、各校から集まった委員によって行われました。二〇〇二年神奈川大会に向けて着々と準備しています。

参加校 県立（藤沢工業、藤沢養護、藤沢、城郷、保土ヶ谷、秦野、

藤沢西、外語短大付属、五領ヶ台、厚木商業、湘南、大船、

横浜翠嵐、大原、有馬、都岡、多摩、秦野南が丘、霧が丘、

茅ヶ崎、横須賀）高木学園女子、横浜学園、フェリス女学院

☆総文祭総合開会式

十月二十八日 パシフィコ横浜

国立大ホール

☆総文祭総合閉会式

一月十九日

横浜市西公会堂ホール

吹奏楽専門部会の活動

今年度吹奏楽部会が開催した行事は次のとおりです。

○第四回アンサンブルフェスティバル 十一月 四日 鶴見会館

○指揮法講習会 十一月二十五日 市立桜丘高校

☆第二十回高校音楽祭 十二月二十七日 ハーモニー

ホール座間

●第四回アンサンブルフェスティバル

県立厚木商業、県立茅ヶ崎西浜、県立生田東、県立座間、県立荏田、

横浜市立港商業、富士見丘、日本大学藤沢

●指揮法講習会

県立多摩、県立川崎、県立厚木西、県立市ヶ尾、県立上溝南、県立神

奈川総合、県立大原、県立秦野、県立大磯、県立藤沢、県立横浜緑ヶ

丘、県立荏田、県立伊志田、県立綾瀬、県立茅ヶ崎、県立金井、県立

弥栄西、横浜市立金沢、横浜市立桜丘、慶應大学湘南藤沢高等部、聖

光学院、富士見丘

●第二十回高校音楽祭

今回は生徒運営による二度目の演奏会です。みんなも慣れたとあって演奏会の運営はいつも以上にスムーズに行われました。また演奏会が終了した後のプレ懇親会は大変盛況で、本大会へ向けての大きな自信をつけてこの大会を終えたのでした。

参加校は次のとおりです。

県立（大和・西湘合同、厚木、厚木西、大磯・茅ヶ崎・茅ヶ崎西浜合同、伊志田・五領ヶ台合同、座間、多摩、ひばりが丘、大和南、大和西、野庭・小田原合同、大船、金井、鎌倉、元石川、市ヶ尾、横浜緑ヶ丘）、横浜市立桜丘、神奈川学園中学・高校、光明学園相模原、東海大学付属相模、聖光学院中学、神奈川県高校合同

器楽・管弦楽専門部会の活動

第一回神奈川県高等学校器楽・管弦楽演奏会

神奈川県内の器楽・管弦楽を愛好する高校生が集いお互いの演奏を聴きあい交流を図る。全国高等学校総合文化祭を開催するにあたり今年度より県高等学校総合文化祭行事として開催される。

日時 十二月十六日(日) 十二時四十五分
会場 横浜市民文化会館 関内ホール

参加校 県立茅ヶ崎・県立新城・県立横浜翠嵐・県立希望ヶ丘・県立多摩・県立相模原・県立横浜緑ヶ丘・県立神奈川総合・県立相模大野・県立光陵・県立横浜平沼・慶應義塾・神奈川県大学附属・横浜英和女学院
十四校 二九二名

第十三回高文連ソロ・コンテスト

県内の高校生が一堂に会し、演奏をお互いに聴きあうことにより音楽的向上を図る研鑽の場とする。

予選 十月六日(土) 県立横浜平沼高校
本選 十一月十日(土) かながわアートホール
教育長賞

ピアノ部門 中島 温子 (県立横浜平沼高校三年)
管・打楽器部門 野田 亮 (県立光陵高校二年)
声楽部門 大木 瞳 (県立横浜平沼高校一年)

高文連会長賞

ピアノ部門

成瀬 悠希子 (横浜市立桜丘高校三年)
牛山 智美 (県立平塚江南高校一年)

管・打楽器部門

生明 麻衣子 (県立舞岡高校三年)
石田 祥子 (県立弥栄東高校二年)

声楽部門

川辺 茜 (県立横浜緑ヶ丘高校二年)

県私立中学高等学校協会理事長賞

声楽部門

野島 淳 (慶應義塾湘南藤沢高等部二年)

専門部会長賞

ピアノ部門

田久保 舞 (関東学院六浦高校一年)
石崎 晴子 (県立大磯高校三年)

岩坪 真由 (県立厚木西高校三年)

管・打楽器部門

山口 真由子 (県立大和高校三年)
荒木 こずえ (横浜市立金沢高校三年)

声楽部門

杉澤 れい (横浜弥栄東高校二年)
浅沼 友美 (県立小田原高校二年)

奨励賞

ピアノ部門

高橋 奈津子 (県立弥栄東高校三年)
水田 康彦 (県立新栄高校三年)

管・打楽器部門

本山 尚美 (県立伊志田高校三年)
川名 麻由 (県立伊志田高校一年)

声楽部門

津島 朋子 (県立希望ヶ丘高校三年)

美術・工芸専門部会の活動

第四十八回高等学校美術展

十一月二十八日(水)～十二月二日(日)

神奈川県民ホールギャラリー

参加校八十七校 出品数五百八十五点

今年の搬入日は天候にも恵まれ、受付にはカンバスを抱えた生徒や、大切に梱包した作品を携えた生徒であふれました。

さて、君たちの世紀、二十一世紀は大変な幕開けになってしまいました。ニューヨークのテロ事件に始まった戦争や経済不況。しかし、このことによって君たち世代の果たす役割が、はっきりと見えてきたのではないのでしょうか。これらの事件の根底には、世界の富の偏りや、強国の経済・文化の押し付けがあると分析する人々も少なくありません。民族や国の違いから生じる生活習慣や文化の違い、本来その多様性こそが我々人類の財産であるはずです。昔から異文化の交流があつて高次の文化が開いてきたのではないのでしょうか。通信手段が発達して、世界がグローバル化していく中で、お互いの生活習慣や文化を理解・尊重するということが益々大切になってくると思います。それが君たち世代の避けて通れない役割でしょう。

会場を見渡してみると、ここ数年の傾向である表現の多様化は、今年も顕著に表れています。平面・立体ともに写実的表現が少なくなつた分、心象表現が多くなつており、一人一人の個性の違いがはっきりと見えてきます。自分とは違う多種多様な表現を共有できることは素晴らしいと感じながら鑑賞してはどうでしょうか。その心が異文化への理解につながってくると思うのですが。

(総評より抜粋)

第四十五回高等学校夏期美術講習会

七月三十日(月)～八月一日(水) 箱根芦ノ湯

参加校十六校 参加者八十名

今年度は例年の講演会に代えて、実技研修会(スカートの絵付け)をおこないました。これは来年度の全高総文祭の交流会で行われる内容でもあります。絹地に染料で直書きという方法で、短時間での制作ではありましたが、個性あふれる筆づかいに、来年度に向けての手ごたえを感じることができました。天候にも恵まれ、箱根の心地よい自然の中で、集中して思い思いの個人制作に取り組めたようです。

第十回川崎市立高等学校合同芸術祭

二月六日(水)～二月十日(日)

アートガーデンかわさき

出品者数 510名 出品点数 526点 入場者数 731名

授業や部活動での成果を発表する機会を多く、という願いから芸術四科で始めた合同芸術祭も、今年で十周年を迎えました。展示部門・演奏部門とも好評を博し、学校と共に市民の間にも、この催しが定着していることを実感しました。

第十五回藤沢市高等学校美術展

一月二十二日(火)～一月二十七日(日)

藤沢市民ギャラリー

参加十六校 出品者数七七〇名 点数六三八点 入場者数九三二名

天候にも恵まれたとはいえ、昨年を二百名も上回る入場者数が今回の美術展を象徴しています。参加校も増え、昨年に引き続き出品された「30の造形」、ビデオによるアニメーション作品が会場に華を添え、大作の出品も増える等、活気溢れる美術展となりました。

文芸専門部会の活動

県内の高等学校には百二十を超える文芸部・文芸同好会が存在しています。しかし、その活動は、ともすれば仲間内で完結しがちなものです。本年度で五年目を迎えた文芸専門部会は、学校相互の交流の場と、より広がりのある活動を目指して活動しています。

本年度の主な活動は以下の通りです。また、年度ごとに活動と各校の代表作品を収録した文芸冊子「綴(つづり)」を発行しています。加盟校宛に、昨年度のもものが既に郵送されていますので、ぜひ読んでみてください。

◆第一回 きた・える・かい？

七月十四日(土) 於・県立港南台高校
 「第三回全国文芸道場 関東ブロック大会」の県予選会をかねて今年度からスタートした活動です。講師に歌人の野地安伯先生(前県立藤沢高校校長)、作家の森木康一先生(県立柏陽高校教諭)をお招きして作品の合評、推敲、審査を行いました。

★代表作品

【散文の部】 木水克典(公文国際学園)・板東由華(県立港南台)
 角本浩明(県立鶴嶺)

【韻文の部】 詩Ⅱ古藤田瑠奈(県立港南台)・石田周子(県立港南台)

俳句Ⅱ若山貴子(県立鶴嶺)・長谷部理軌(公文国際学園)

短歌Ⅱ今村愛里(公文国際学園)

風間早由紀(県立厚木)・井手友美(県立港南台)

【表紙の部】 久 朝子(公文国際学園)

以上の作品は、「文芸道場 関東ブロック大会」に県代表として出品されました。

◆第一回 文学散歩 く鎌倉コース

八月三十日(木)

夏の終わりの一日。北鎌倉駅に集合し、円覚寺く東慶寺く建長寺く鶴岡八幡宮というコースで鎌倉ゆかりの文学者たちの足跡を岩脇淑郎先生(県立栗原高校教頭)の案内で辿りました。有意義な一日でした。

◆第五回 文芸部交流会・文芸部誌コンクール

十一月十一日(日) 於・横浜市西公会堂

本年度も多くの参加者を得て、盛況のうちに交流会を実施できました。各校の文芸部の活動と文芸部誌の紹介・作家研究討論・リレー小説などの活動を通して、学校間の垣根を超えて大いに盛り上がりました。

★第五回文芸部誌コンクール受賞校

・教育長賞 県立厚木高校 文芸部「群季」六一号

・私学理事長賞 県立鶴嶺高校 文芸部「フェニックス」八号

・高文連会長賞 県立弥栄東・弥栄西高校 合同文芸部「Fate」Ⅲ・Ⅳ

県立久里浜高校 文芸部「佐原沙漠」百一号

県立岡津高校 文芸部「きしせんめい」五七号

桐光学園高校 文芸部「桐光学園文芸部誌」第六号

・専門部会長賞 県立大船高校文芸部・県立港南台高校文芸部・

公文国際学園高等部MMC・県立希望ヶ丘高校文芸部

山手学院高校文芸創作部・県立大和西高校文芸部・

日本大学藤沢高校文芸部

◆第二〇回文芸コンクール

二〇回目を迎えた県下の高校生全員を対象とした文芸コンクール。作品総数は一万二八三三点。応募校数は九三校でした。内訳は次の通り。

●小説Ⅱ二五〇(学校数・三七)

●短歌Ⅱ三〇三九(学校数・五〇)

●詩Ⅱ一四三三四(学校数・四九)

●俳句Ⅱ七六六〇(学校数・五二)

放送・情報専門部会の活動

第四十八回 NHK杯全国高等学校放送コンテスト

放送部会では最大の全国規模の大会です。予選六月十日(日)・本選十七日(日)の両日、県大会が県立神奈川総合高校を会場に開催され、七月のNHKホールの全国大会決勝に向けて日頃の成果を競いました。

◎総合成績

総合優勝 県立多摩高校
 総合準優勝 法政大学第二高校
 総合三位 県立座間高校

◎各部門第一位 アナウンス

朗読 日置 秀馬 (県立六ツ川高校二年)
 ラジオドキュメント 県立足柄高校
 テレビドキュメント 県立座間高校
 創作ラジオドラマ 県立多摩高校
 創作テレビドラマ 県立相模田名高校

第三十五回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会

「アンデパンダン」とは「独立した」という意味ですが、今年も生徒が運営にあたる放送新人戦コンテストが、十一月十一日(日) 県立神奈川総合高校で行なわれました。

◎各部門第一位

アナウンス 斉藤 真純 (県立有馬高校二年)
 朗読A 日置 秀馬 (県立六ツ川高校二年)
 朗読B 田島 真吾 (県立六ツ川高校一年)
 報道 鳥居 紀彦 (法政大学第二高校二年)
 DJ 安田 理絵 (県立追浜高校二年)
 文芸 佐久間 珠理 (県立追浜高校二年)

第十六回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門

十一月十八日(日) 川崎市教育文化会館で、来年の「全高総文祭・神奈川大会」の放送部門のリハーサルをかねて行われました。

◎各部門全国大会推薦者及び団体

アナウンス 山崎 江里子 (県立多摩高校一年)
 子安 由利子 (県立神奈川総合高校一年)
 片倉 ちあき (県立六ツ川高校二年)
 松井 実和子 (捜真女学校高等学校一年)
 城所 友美 (県立元石川高校二年)
 納 美保子 (県立多摩高校二年)
 加藤 裕美 (県立横浜日野高校二年)
 大関 智子 (捜真女学校高等学校二年)
 荒木 光 (県立横浜日野高校二年)
 稲葉 由香 (県立六ツ川高校二年)
 荒川 瑞穂 (県立神奈川総合高校二年)
 平野 賢治 (県立金井高校一年)
 オーディオピクチャー 宮沢 浩美 (相模女子大学高等部二年)
 栗原 麻実 (相模女子大学高等部二年)
 ビデオメッセージ 田中 彬浩 (法政大学第二高校二年)
 石川 正也 (県立座間高校一年)
 富樫 健二 (県立座間高校一年)
 鳥巢 佑香 (県立永谷高校二年)

生徒向けホームページ作成講習会

今年度も「情報専門部会」の活動として約四十名ほどの生徒が参加した講習会を、七月に岩崎学園横浜西口校で実施しました。

囲碁専門部会の活動

本年度の囲碁専門部会の活動は次のとおりです。

四月二十二日(日)

第六回県高校春季囲碁大会

高文連全国大会予選

段級位認定大会

六月二十三日(土)

第二十五回全国高校囲碁選手権県予選

・二十四日(日)

段級位認定大会

七月二十四日(火)

全国高等学校囲碁選手権大会

・二十六日(木)

個人戦 太田 匡彦(桐蔭学園)

佐川 央(県立大船)

青木 夕菜(県立多摩)

団体戦 桐蔭学園

県立汲沢

八月六日(月)

全国高校総文祭囲碁の部

・七日(火)

個人戦 太田 匡彦(桐蔭学園)

青木 夕菜(県立多摩)

団体戦 田仲 亮介(栄光学園)

森田 泰文(県立大磯)

一色ゆかり(県立平塚江南)

十一月二十三日(祝)

第二十二回県高校春季囲碁大会

高文連関東大会予選

段級位認定大会

この一年間を振り返って

県高校囲碁界は、今年も男子は太田匡彦(桐蔭学園)君、女子は青木夕菜(県立多摩)さんの個人戦完全制覇に終わりました。全国の壁は厚いですが、来年も二人には全国優勝を目標にがんばってもらいたいと思います。他の選手の皆さんも、この二人を当面の目標として日々の勉強に励んでください。

団体戦男子では、桐蔭学園と栄光学園の層の厚さが目立ちました。当分はこの両校がしのぎを削ることになるでしょう。女子は高校囲碁選手権団体戦の上位三校は三年生が卒業し、他校でも団体戦のメンバーさえ揃えば十分に優勝のチャンスがあると思います。

また、このところ毎年実施していた県高等学校囲碁連盟夏季合同合宿を、事情により中止せざるを得なかったのはたいへん残念なことでした。楽しみにしていた皆さんにはここで改めてお詫びします。

学校に囲碁部のない生徒の皆さんへ

囲碁専門部会では、囲碁部のない学校に在学している皆さんでも大会に参加できるようにしています。遠慮なく参加して囲碁仲間の輪を広げてください。詳しくは左記にお問い合わせを。

県立磯子工業高等学校 吉岡 光矢

〒二三五―〇〇二三 横浜市磯子区森五―二四―一

電話 〇四五―七六一―〇二五一

FAX 〇四五―七五四―三二七一

将棋専門部会の活動

全高総文祭将棋部門 (全国高校将棋選手権) 神奈川大会

〈男子団体戦〉四月三十日(月) 県立相模台工業 三十一校参加
 優勝 栄光学園 準優勝 慶應義塾 三位 桐蔭学園

〈女子団体戦〉全国大会代表 県立新城
 〈個人戦〉予選 五月三日(祝) 県立相模台工業 百八十九名参加
 決勝 五月六日(日) 神奈川新聞社

男子 優勝 奈良 俊一(公文国際学園 三年)
 準優勝 齋藤 優(慶應義塾 三年)

女子 優勝 鈴木 真里(桐光学園 二年)
 準優勝 稲葉佳代子(県立柏陽 一年)

夏季将棋大会

〈団体戦〉予選 六月三日(日) 県立秦野南が丘、横浜
 決勝 六月十七日(日) 栄光学園 二十八校参加

優勝 慶應義塾高校、準優勝 鎌倉学園、三位 公文国際学園
 〈個人戦〉予選 七月二十日(祝) レブラザ 二百二十七名参加
 決勝 七月二十一日(土) 県立柏陽高校

A級 優勝 奈良 俊一(公文国際学園 三年)
 準優勝 森本 泰介(慶應大学湘南藤沢 一年)

B級 優勝 宮田 文久(県立湘南 一年)
 準優勝 金丸 誠(法政大学第二 二年)

C級 優勝 小山 敏之(栄光学園 一年)
 準優勝 須山 公夫(県立山北 二年)

第一回生徒研修会 七月二十九日(日) レブラザ

指導 プロ棋士 北島 忠雄 五段 六十一名参加
 全高総文祭将棋部門 八月四日(土)、五日(日) 福岡県北九州市

〈男子団体〉栄光学園 三回戦
 〈男子個人〉奈良俊一(公文国際学園 三年) 三回戦(敢闘賞)
 〈女子団体〉県立新城高校 一回戦
 〈女子個人〉鈴木真里(桐光学園 一年) 三回戦

稲葉佳代子(県立柏陽 一年) 一回戦
 宮崎亜友美(県立新城 一年) 二回戦

総文祭将棋大会
 〈個人戦〉予選 十一月十一日(日) 慶應義塾 百七十五名参加

男子 決勝 十一月十八日(日) 県立新城

A級 優勝 森本 泰介(慶應大学湘南藤沢 一年)
 準優勝 高木 晋(慶應義塾 二年)

B級 優勝 武田健太郎(県立柏陽 二年)
 準優勝 林 峻平(県立厚木西 一年)

C級 優勝 小味潤浩一(横浜 一年)
 準優勝 梅本 亮(横浜 一年)

女子 優勝 鈴木 真里(桐光学園 二年)
 準優勝 宮崎亜友美(県立新城 一年)

松本 淑希(県立新城 一年)
 稲葉佳代子(県立柏陽 一年) (同率順位)

〈団体戦〉十二月十八日(日) 県立永谷 四十チーム参加
 優勝 慶應義塾、準優勝 慶應大学湘南藤沢、三位 横浜

関東地区大会 十二月二十三日(日)、二十四日(月) 神奈川県

〈男子個人〉
 優勝 森本 泰介(慶應大学湘南藤沢 一年)
 準優勝 高木 晋(慶應義塾 二年)

八位 古田 暁人(慶應義塾 二年)
 十三位 田中 祐一(横浜 二年)

〈女子個人〉
 準優勝 鈴木 真里(桐光学園 二年)

四位 稲葉佳代子(県立柏陽 一年)
 八位 宮崎亜友美(県立新城 一年)

十一位 松本 淑希(県立新城 一年)

第二回生徒研修会 一月十四日(祝) 開港記念会館
 指導 プロ棋士 北島忠雄五段 九十二名参加
 全国高文連新人大会 一月二十六日(土)、二十七日(日) 大阪府

〈男子個人〉
 森本 泰介(慶應大学湘南藤沢 一年) 一回戦、
 高木 晋(慶應義塾 二年) 四回戦

鈴木 真里(桐光学園 二年) 第五位
 稲葉佳代子(県立柏陽 一年) 二回戦

宮崎亜友美(県立新城 一年) 二回戦
 松本 淑希(県立新城 一年) 二回戦

会報発行 年二回(四月・十一月)

ボランティア専門部会の活動

ボランティア専門部会では、大きな行事として「高校生ボランティア研修の集い」と「高校生ボランティアコンクール」を行いました。

一、第十二回高校生ボランティア研修の集い

今年度も夏休みを利用して、県下十校、三十五名の生徒が参加し、愛川ふれあいの村において、八月八、九日に行われました。今年の大きなテーマは「ボランティア活動に対する意欲の高揚と実践的な援助技術の定着」でした。

〈研修の内容〉一日目 ○障害者援助 ○手話講習 ○手話通訳練習

二日目 ○手話通訳練習 ○要約筆記 ○手話通訳発表

今年度は県手話通訳者協会より三名の講師をお招きし、援助技術として手話を集中的に学びました。生徒たちは研修を通して「ボランティアの大切さ」を学び、また、手話の技術も大きく向上したようです。研修を終えた生徒たちの表情には充実感が溢れ、今回学んだことを色々な場面で見かしてくれると思います。

研修に参加した生徒たちは今年度の総文祭総合開会式や閉会式で熟達した手話を披露し、拍手を浴びました。さらに二〇〇二年の神奈川全高総文祭でもボランティア専門部会による手話が随所で見られるはずです。

二、第十三回高校生ボランティアコンクール（関東地区高校生ボランティアコンクール）

例年は県内の「高校生ボランティアコンクール」という形で実施してきましたが、二〇〇二年度の全高総文祭・神奈川大会を目前にして、今年度は「第十三回ボランティアコンクール」を「関東地区高校生ボランティアコンクール」という形で行いました。ボランティア活動をよく理解し、その活動を普及させるために関東地区の各県より参加者を広く募り、ボランティアに関する作文と手話などのパフォーマンスのコンクールを行いました。

○県内の関東大会出場者選考会

作文の部

パフォーマンスの部

九月二十九日 富士見丘高校
十月七日 富士見丘高校

○第十三回高校生ボランティアコンクール

十一月十一日 県立かながわ女性センター
関東の各県より、その県の代表ということで多数の応募があり、約百

名の参加者を得て、コンクールが行われました。日頃の活動の評価とボランティア活動の普及に努めるために、作文だけではなく、手話コーラスなどのパフォーマンス部門も募集致しました。

前日の十一月十日には各県の出場者の交流会も催され、交流とともに親睦を深めることが出来ました。県内の受賞者は次の通りでした。

平成十三年度

○教育長賞

西脇 綾子 県立横浜日野高校 二年

「ところが伝わる喜び」

齋藤久美子 県立高浜高校 三年

「ひとりひとりを大切に」

県立高浜高校 手話コミュニケーション部

手話コーラス「いつか」他

県立大和高校 手話愛好会

手話コーラス「タッチ」他

中谷 琴美 富士見丘高校 一年

「今、私にできること」

鈴木 麻由 県立横浜日野高校 二年

「純粹な心と姿」

中野 圭子 県立横浜日野 二年

「誰もが恋をする」

県立中央農業高校 草花部「農業高校の特色を生かした地域活動の実践を目指して」

県立高浜高校 手話コミュニケーション部

手話コーラス「優しさにつつまれたなら」

川崎市立川崎高校 福祉ボランティア部

手話コーラス「明日があるさ・青春編」他

なお、教育長賞の横浜日野高校西脇綾子さんの作品は、総文祭の閉会式において、本人の朗読と手話通訳により発表されました。西脇さんはこれまでのボランティア活動の中で、「ところが伝わる喜び」を感じた経験やこれからのボランティア活動への夢を熱く語りかけ、会場より惜しまない拍手がおくられました。総文祭では司会や挨拶の手話通訳として、ボランティア専門部会の生徒たちが大活躍しました。

閉会式の最後に「地球からの贈り物」を参加者全員で合唱したときにはボランティア専門部会の生徒たちが会場いっぱいになり、熱達した手話コーラスを披露しました。

かるた専門部会の活動

私たちの部会では、今年度も「神奈川県かるた協会」の協力を得て、大会および合同練習会、初心者講習会を行ってきました。いよいよ全高総文祭・神奈川大会が近づいてきて、(社)全日本かるた協会主催の大会にも県内高校生の姿が目立ってきています。「小倉百人一首かるた部門」が全高総文祭の部門になってちょうど十回目となる、神奈川大会に向けて、神奈川のかるたは盛り上がっています。

◆第二十五回全高総文祭(福岡大会) 県代表選手選考会

かるたは一对一で試合をする「個人戦」が基本ですが、それを五組同時に行い三勝以上した方を勝ちとする「団体戦」もあります。全高総文祭は各都府県代表による団体戦で、その神奈川県代表選手の選考試合が、五月に小田原で行われました。成績上位の八人が代表になるのですが、今年もA級(四段)選手が参加して、緊張感ある選考会になりました。

〔全高総文祭県代表選手〕

中島幸子・大久保みずき・古賀桜子・梅田篤子・岩持逸美(県立藤沢西)、鳥羽亜由美(県立湘南)、増田洋希(慶應義塾湘南藤沢)、高橋麻由子(県立西湘)

◆神奈川県高等学校小倉百人一首かるた選手権大会(兼全国大会予選)

六月に行われたこの大会は、学校対抗の団体戦です。そして優勝校が、県代表として七月に滋賀県・近江神宮で行われる全国大会に出場するのです。昨年まで六年連続して県代表になっている藤沢西に、どこが

ストップをかけるのが、例年の興味となっています。昨秋の新人戦決勝でその藤沢西にストレート負けを喫した慶應藤沢が、実力校・西湘などを破って再び決勝に進出し、藤沢西に挑戦しましたが、結果はまたもや藤沢西の完勝でした。今年の藤沢西チームは遂に県内では「無敗」。チームとしてだけでなく、個人成績でも全勝でした。これは神奈川県では史上初めての出来事です。

◆第八回神奈川県小倉百人一首かるた秋季大会(兼関東大会予選)

新人戦となるこの十一月の大会も、学校対抗の団体戦です。しかし、この大会は関東大会予選も兼ねており、関東へは県選抜チームで出場するので、この大会で優勝できなかった学校の選手も選抜チームの一員として関東へ出場するチャンスがあります。今年はこの関東大会が神奈川県での開催となるため、この大会の結果をふまえて三チーム(例年二チーム)が編成されました。県大会の結果は人数が一人足りないながらも藤沢西が見事に優勝。関東大会では県選抜チームは今ひとつ奮わない成績でしたが、次夏の全高総文祭神奈川大会の運営を視野に入れた、生徒が運営の主体となった大会でした。

◆総文祭行事・第十三回高等学校かるた大会

個人戦で行うこの大会は、昨年と同じ鎌倉・建長寺をお借りすることができました。いつも暖かいご配慮をいただき感謝しております。さて、今年も参加者が例年に比べるとやや少ない大会でしたが、大会参加の「常連校」に加えて、新たに参加してきた学校の生徒もおり、またその学校の生徒が、大会終了後に「講習会に参加したい」「全高総文祭のお手伝いをしたい」などと申し出てくれ、役員一同にとって大変嬉しい出来事もありました。

鉄道研究専門部会の活動

今年度の主な活動は、次の通りでした。

五月 写真展示列車（JR八高線：高麗川—高崎）

写真展示列車とは、わたしたちの撮影した沿線風景の写真を列車内に展示して、乗客のみなさんに見ていただくというものです。ゴールデンウィーク中、埼玉県の高麗川と群馬県の高崎を結ぶディーゼルカーの車内に、私たちの力作が約八十枚展示されました。

十月 写真展示列車（伊豆箱根鉄道大雄山線：小田原—大雄山）

伊豆箱根鉄道でも毎年写真展示列車を運行させていただいており、二十日から二十八日まで、約七十枚の写真を載せた電車がこの区間を走りました。また、来年度に向けての撮影会を、六月と一月に行いました。

十一月十八日（日） 鉄道研究発表会

今回は、来年度の神奈川大会を意識して、その会場となる新百合台ウエントイワンで行われました。その成果は後述の通りですが、特に注目を集めたのは、レイアウト委員会が中心になって製作したNゲージ鉄道模型大ジオラマでした。これは、神奈川大会に向けて一昨年から製作していたもので、「神奈川らしさ」を随所に取り入れたレイアウトになっています。会場に集まったちびっ子たちは、山あり、鉄橋ありのレイアウト上を走る新幹線やブルートレイン、ロマンスカーに大喜び！夏の大会でもまた見に来て下さいね。

三月 車椅子ガイド「レール&ステーション」

県内の鉄道の駅が、車椅子を利用する方々にとって、利用しやすいようにできているかどうかを一駅ずつ調査してまとめた冊子「レール&ステーション」の第十三号、横浜鶴見&湘南台地区版が完成しました。これまで同様、有意義に利用していただければ幸いです。

第十三回高等学校鉄道研究発表会 結果報告

*研究発表（私学理事賞は、該当校なし）

- 教育長賞 超幅広車両は実現可能か 県立 神奈川工業高校
- 教育長賞 鉄道の中・長距離輸送の限界を考える 浅野 学園
- 教育長賞 江ノ電の魅力 県立 長後 高校

*テーマ研究（神奈川の鉄道）

- ・みなとみらい21線 これからの役割 浅野 学園
- ・人と電車（小田急線版） 旭丘 高校
- ・小田急電鉄3000系車両 県立 小田原城北工業高校
- ・「天下の険に挑む鉄道」 県立 神奈川工業高校
- ・相模鉄道の歴史 県立 相模台工業高校
- ・神奈川県にある鉄道の日本一はこれだ！ 県立 長後 高校
- ・南武線 法政大学第二高校

*写真コンテスト（一位：高文連会長賞 二・三位：専門部会長賞）

- 一位 沿線に咲く菜の花 高田剛吏（法政大学第二高校 一年）
- 二位 桜の中の207系 高田剛吏（法政大学第二高校 一年）
- 三位 快速一村一山号 下村昌也（法政大学第二高校 一年）

（専門部会長奨励賞）

*車両コンテスト（同）

- 快走！683系 渡辺 俊（海城 高校 一年）
- 一位 快速むさしのドリーム 古澤悠一（浅野学園 高等部 一年）
- 二位 営団05 三橋 涉（浅野学園 高等部 三年）
- 三位 東急8500系 坂田洋昭（浅野 学園）

*ジオラマコンテスト（同）

- 一位 棚田風景 白井健太（県立 大船工業技術高校機械科 三年）
- 二位 「雪」 久保善孝（県立 神奈川工業高校電気科 二年）
- 三位 「廃線と新線」 加藤 裕（浅野 学園）

日本音楽専門部会の活動

第二十六回全高総文祭・神奈川県大会を来年度に控え、各校がより一層練習に励み、演奏技術も向上した、実りある一年だったと思います。

☆ 第二十五回全国高等学校総合文化祭（福岡大会）

八月五日（日）～六日（月） 石橋文化ホール

六校が二団体に分かれ出場しました。県立小田原・県立小田原城内の「神奈川県西合同」が「さらし風手事」、県立弥栄東・県立弥栄西・県立藤沢・県立平塚育の「神奈川県中央合同」が「陽炎」を演奏しました。各団体とも、皆の心を合わせた良い演奏ができました。また、閉会式では、本県日本音楽専門部会を代表して、部会長の早野先生と生徒委員会委員の森脇愛さんが挨拶をし、来年の神奈川県大会をアピールしました。

☆ 生徒研修会（第十一回全高総文祭優秀校東京公演 鑑賞）

八月二十五日（土）・二十六日（日） 国立劇場

日本音楽・郷土芸能・演劇部門の優れた発表を鑑賞しました。特に、日本音楽の演奏は技術・表現力共に優れ、参考になりました。

☆ 部門講習会 十月十三日（土） 県立藤沢高校

合同演奏の強化練習を行いました。専門の先生方のご指導を受け、多人数での合奏をする上での技術や心構えを学ぶことができました。

☆ 総文祭総合開会式 合同演奏 十月二十八日（日） パンフィコ横浜

神奈川県・湘南学院・県立厚木商業・県立小田原・県立小田原城内・県立小田原城内・県立藤沢・県立三崎・県立弥栄東・県立弥栄西・県立大和東の計十一校七十六人での合同演奏を行いました。演奏曲「花筏」は掛け合いが美しい曲ですが、大人数での合奏は大変でした。が、本番では皆の気持ちがいまより、美しい音色を聴いていただけたと思います。

☆ 第四回高等学校日本音楽発表会

十一月十八日（日） 秦野市文化会館

会場となった秦野市文化会館は、来年度全高総文祭日本音楽部門の会場でもあり、ホールの広さや音響効果の素晴らしさが印象に残りました。十三校、百余名の生徒が出演し、練習の成果を披露しました。

・ 県立大和東高校 箏曲部 「荒城の月変奏曲」

・ 県立小田原城内高校 箏曲部 「箏の為の小品集Ⅰ小品Ⅲ 「風」

・ 神奈川県西合同 箏曲部 「螺鈿 第一章 第二章」

・ 湘南学院高校 琴部 「島唄」「ものけ姫」

・ 県立藤沢高校 箏曲部 「金襴」

・ 県立三崎高校 箏曲部 「湧きいづる力」

・ 県立小田原高校 箏曲部 「春の詩集」

・ 県立厚木商業高校 箏曲部 「矢部の郷」

・ 県立弥栄東・弥栄西高校 箏曲部 「光のしづく」

・ 県立小田原東高校 邦楽部 「色は匂へど 唯是震一教則本より」

「夕べのロンド」

・ 県立平塚育学校 箏曲部 「五十鈴川」

・ 桐蔭学園高校女子部 箏曲部 「G線上のアリア ジーク」

・ 合同演奏 「花筏」

御来場者から「美しい音色に感動しました」「各高校ともに真心とパワーがある大変素晴らしい演奏でした」等のご感想を頂き、大変励みになりました。また、演奏終了後は生徒委員会による交流会を全員で楽しみ、生徒同士の結束力も増しました。なお、教育長賞は県立弥栄東・弥栄西高校、私学協会理事長賞は県立小田原高校が受賞しました。

今年度、皆それぞれが培った演奏技術や表現力、そして日本音楽を愛する気持ちのまとまりを今後も忘れずに日々の練習に励み、来年の全高総文祭で美しい音色を響かせたいと思います。

吟詠剣詩舞専門部会の活動

○吟は心の鍛練

本専門部会は、古今の詩歌を吟詠し、剣舞、詩舞、さらに空手、柔道、書道、茶道、等々の立体的な構成吟を創作して、伝統的な精神文化を高揚し、正義と気迫に満ちた心を育むことを活動目的としています。

○今年度の活動

◆全高総文祭・福岡大会派遣激励会

(七月二十五日於 横浜市西公会堂)

「楓橋夜泊」張繼 作 県立二宮他九校

◆国際交流レセプション

(八月五日 於 ホテルコスモ横浜)

「空手吟」(空手道の歌) 県立湘南高校通信制(少年工科学校)

◆第二十五回全高総文祭・福岡大会

(八月七日 於 飯塚市嘉穂劇場) 参加生徒十校三十一名

「剣詩舞構成吟」(鉢の木)松口月城 作 県立湘南通信制

◆県高総文祭総合開会式

(十月二十八日 於 パシフィコ横浜国立大ホール)

独吟、詩舞「楓橋夜泊」県立大師 県立寒川 県立茅ヶ崎北陵
吟者の県立大師高校の荒崎春奈さんは、平成十三年度全国吟詠コンクール決勝大会少年の部で優勝、文部科学大臣賞を受賞しました。

◆第二回高等学校吟詠剣詩舞発表会

(十一月二十四日 於 横須賀市文化会館大ホール)

参加生徒十七校七十名

発表会次第(司会進行 県立厚木東)

- 一、開会のことば 県立川崎南 日下 弘昭
- 一、挨拶 高等学校文化連盟会長 疋田 武夫
- 一、大合吟「修学」夢窓疎石 先導 県立茅ヶ崎 山本 高大
- 一、修成清め演武「柔道吟」三浦国尚 県立川崎南詩吟部・柔道部
- 一、独吟の部 県立川崎南 西郷 優
- (1)「中庸」元田東野 県立川崎南 日下 弘昭
- (2)「金州城」乃木希典 県立寒川 小林 樹映
- (3)「山行」杜牧 県立茅ヶ崎北陵 古谷亜希子
- (4)「早に白帝城を発す」李白 県立茅ヶ崎北陵 岡村 吉紘
- (5)「偶成」朱熹

(6)「九月十三夜陣中の作」上杉謙信 県立茅ヶ崎 小沢 雄太

(7)「山行同志に示す」草場佩川 県立茅ヶ崎 重田隆一郎

(8)「富士山」石川丈山 県立茅ヶ崎 鈴木 智之

(9)「涼州詞」王翰 県立鶴嶺 菊地 川

(10)「太平洋」安達漢 県立相模田名 山田 啓一

(11)「漢江」杜牧 日本大学藤沢 山本 大介

(12)「富嶽」乃木希典 県立湘南 諸本 圭祐

(13)「青葉の笛」松口月城 県立茅ヶ崎西浜 高橋真理子

(14)「桂林莊雜詠諸生に示す」広瀬淡窓 県立茅ヶ崎 山本 高大

(15)「偶成」大鳥圭介 県立横浜翠風 藤重 清洋

(16)「春日家に還る」正岡子規 県立大師 荒崎 春奈

一、合吟・剣詩舞の部

(1)「楓橋夜泊」張繼 聖和学院 八名

(2)「新涼書を読む」菊地三溪 県立相模田名 四名

(3)「富士山」石川丈山 県立川崎南 十名

(4)「神奈川讚歌」峰章山 県立川崎南 十名

(5)「偶成」朱熹 県立茅ヶ崎他五校 八名

(6)「九月十日」菅原道真 県立相模田名 二名

(7)「道灌菫を借るの図に題贊」大槻盤溪 県立湘南通信制 二十六名

(8)「楓橋夜泊」張繼 県立寒川・県立茅ヶ崎北陵 県立茅ヶ崎西浜 三名

(9)「白虎隊」佐原盛純 日本大学 佐々木嘉大

一、構成吟の部 県立湘南通信制 二十八名

(1)「剣舞書道吟」(西南の役) 県立湘南通信制 九名

(2)「茶道吟」(悠久の時を越えて) 県立相模田名

一、第二十五回全国大会発表報告

一、特別企画

第二十六回全国高総文祭神奈川大会参加作品

(1)構成吟「日本の夜明け黒船ペリー来航」三浦国尚 参加連合チーム 聖和学院高校 他

(2)構成吟「鎌倉絵巻静の舞」三浦国尚 吟詠剣詩舞部会長 三浦 光廣

一、閉会のことば 県立湘南通信制 三村 慶典

◆県高総文祭総合開会式

(一月十九日 於 横浜市西公会堂)

剣舞「白虎隊」佐原盛純 日本大学 佐々木嘉大

○「神奈川讚」を全国発信

第二十六回全国高総文祭吟詠剣詩舞発表会(横須賀文化会館)に向け、さらに関係各位のご指導、ご協力をお願い申し上げます。玉となって神奈川大会を成功させたいと思います。

郷土芸能専門部会の活動

○元気な「伝承者」たち

毎年、夏休みに行く夏季合同練習会を、今年は「伝統芸能ライブ高校生大会 in 座間」と名付け、午後の部を一般公開しました。「伝統芸能はカッコイイ」とばかり、熱演が続き、閉会后、生徒交流会をステージでおこないました。

○磨き上げた演技 伝統芸能発表会

総文祭行事として、十二月二十六日ハーモニホール座間で行った、「第十二回伝統芸能発表会」では、広報で知って来場された一般の方も多く、アンケートには熱心な演技へのおほめのことをたくさんいただきましたのは何よりです。

和太鼓の関係では、新しい仲間、宮澤学園星槿国際高校を迎えました。「第二十五回全国総文祭・福岡大会」で、明德学園相洋高校和太鼓部が、優秀賞及び文化庁長官賞を受賞するなど、充実した一年の活動を、この発表会で締めくくることができました。

人形の関係では、二宮高校の相模人形部が、義太夫も三味線も生徒自身でこなし、黒い皮のケースの三味線を運ぶ姿に、「本物だー」「カッコイイ！」と、熱い視線を浴びていました。

各校の演目は以下の通りです。

- 一 県立茅ヶ崎高校文楽部 「寿式」二人三番叟
- 二 県立高浜高校文楽部 「傾城阿波之鳴門 巡礼唄の段」
- 三 宮澤学園星槿国際高校和太鼓部 「響」 「桜太鼓」 「鼓舞」 「響流」
- 四 桐蔭学園高校和太鼓同好会 「息吹」 「風招」 「叢雲」
- 五 明德学園相洋高校和太鼓部 「えっさー小田原」 「秩父屋台囃子」
- 六 県立二宮高校相模人形部 「壺坂靈験記 山の段」

七 県立愛川高校 教科「伝統文化」 「三増の獅子舞」

八 光明学園相模原高校和太鼓部 「静かなる光」 「彩」

九 県立中央農業高校和太鼓部 「うたまる太鼓」 「秩父屋台囃子」

○終演後の生徒交流会

今回は夏以上に、ますます生徒間の交流が深まりました。かもえもん君の登場もあって、和気あいあい。「落ーちた、落ちたゲーム」や「間違いない探しクイズ」に熱中すれば、ガッツポーズあり、悲鳴あり。演目の中では、しとやかな役柄・凛々しい役柄の部員たちも、たちまち高校生に戻って素顔の交流。とっぷりと日の暮れた街を駅に急ぐ頃には、大きな声で「さようなら」「がんばってね」と手を振り合っていました。

○地元で活発に活動

専門部会行事としての、県立二宮高校三味線講座が続く他、太鼓四校が合同発表会を行うなど、この一年は、地元での活動も活発でした。和太鼓の各部が独自のライブ・演奏会をおこなった他、一人遣い文楽の二校は合同で施設慰問公演をおこない、デイケアセンターや福祉施設利用者のみなさんと心のこもった交流をすることができました。大きなホールでの公演とは違った、観て下さる方との気持ちの通い合いを体験することができたのは、貴重な経験です。

○全高総文祭・神奈川大会に向けて

来夏の大会に向けて、今回の伝統芸能発表会は搬出入などを本番を想定しながら行いました。アンケートにもその角度からの助言をいただき、一般のお客様にとって快適な場所であること、道路状況をよく把握して、きめ細かい案内をすることが、よくわかりました。舞台発表が命である専門部会として、出演団体の力を十分發揮していただけるよう、準備をしたいと思えます。以下は一般来場者の感想です。

「全国大会、楽しみにしております。今日は一日楽しく過ごしました。高校生のみなさん、ありがとう。」

理科専門部会の活動

理科に関する部活動生徒の研究発表と研修・交流を目的に、次のような活動を行い、多くの成果を得ることができました。

◆第十二回高等学校理科部研究発表大会

十一月十日(土) 会場・県立青少年センター

◇研究発表部門

・教育長賞

「街のチョウは二〇年間でどう変わったか」 県立上溝南高校

・私立中学高等学校協会理事長賞

「アゲハ蝶の変態」 県立柏陽高校

・高文連会長賞

「神奈川県園校庭の植物のデータベース化」 神奈川学園高校

「土壌細菌によるNH₃の吸収」 麻布大学附属測野辺高校

「セメント片から流出するイオンによる植物の影響」 麻布大学附属測野辺高校

「活性炭の基礎的調査」 県立柏陽高校

「水質浄化に向けての基礎的研究」 県立大和西高校

「引地川のCOD調査による水質の変遷」 県立湘南高校

「ポケモン・カワゲラを探る」 県立足柄高校

「環境放射線の原因物質の探求」 立花学園高校

「二〇〇一年度太陽黒点観測報告」 県立秦野南が丘高校

「光合成の研究」 県立川和高校

「土壌微生物の調査研究」 県立川和高校

「変形菌クリブリアの形態に関するいくつかの考察」 県立湘南高校

「サカマキガイの生態に関する基礎的研究」 藤沢翔陵高校

「松田町におけるツバメ・アマツバメ類の巣の分布と変化」 立花学園高校

「樹林内の蜻蛉目昆虫と周辺の水環境」 県立弥栄東高校

「二〇〇一年の平塚市におけるスギ・ヒノキ科花粉の飛散状況」 県立平塚江南高校

「気象条件との関係」 県立平塚江南高校

「ジロウグモの網におけるシロカネイソウロウグモの行動と生態」 横浜高校

◇ポスターセッション部門

・奨励賞

「鎌倉市のタイワンリスについて」 県立湘南高校

「藤沢市のタイワンリスについて」 県立藤沢高校

「相模川流域に生育する2、3の植物の光合成」 麻布大学附属測野辺高校

「土壌細菌によるリン酸イオンの吸収」 麻布大学附属測野辺高校

「運動性肥料としての炭の効果」 麻布大学附属測野辺高校

「土壌中の窒素循環」 県立久里浜高校

「ルミノール発光の見せ方の工夫」 日本大学高校

「ピーマンの色素について」 県立平塚江南高校

「ベルセウス座流星群観測報告」 県立秦野南が丘高校

「天体写真」 県立秦野南が丘高校

◆第十二回 理科部研修大会

◇天体観測 十二月 会場・県立秦野南が丘高校

◇解剖実習 十月 会場・県立青少年センター

◇冬鳥観察 十二月 会場・光明学園相模原高校

◇ロボット制作講習会 七月 会場・県立城郷高校

◆プレゼンテーション技法講習会

六月 会場・県立青少年センター

演劇専門部会の活動

夏季講習会

八月十日・十一日、県立青少年センターで行われた。今年は劇作家・演出家・俳優の生田萬先生を始め三名の方を講師に招いた。初日午前は県立津久井浜高校の教材劇を素材に生田氏の指導。初日午後はビデオでドラマのシーンを鑑賞しながら演技についての講習を受けた。二日目は三班に分かれての講習で、十名程度のグループで課題の台詞のイメージをふくらませ、体と声とで表現し構成したものをお互いに鑑賞し、講師からアドバイスを受けた。その後、県立相模大野高校の三上先生から「著作権について」というテーマで講習があった。これは県内外を問わず毎年何かしら問題が起きているため、生徒達の関心も高かった。各校の垣根を越えて生徒同士が交流し互いに刺激し合うことができ、今年も非常に有意義な講習であった。

第四十回神奈川県高等学校演劇発表会

十一月十七・十八日、県立青少年センターで行われた。参加総数一九校の中から、県内六地区の大会を経て選出されたのは、県立湯河原、県立横浜緑ヶ丘、鶴見女子、県立大船、県立湘南定時制、県立逗葉、山手学院、慶應義塾、川崎市立高津、県立愛川、麻布大学附属瀨野辺、県立上溝南、県立平塚江南の十三校。うち八校が創作台本であった。

審査講師には、俳優の高山真樹氏、演出家の鈴木龍男氏、高校演劇指導者の田井中善夫氏を迎え、二日間にわたる熱演の結果、以下の四校が最優秀賞を獲得した。

麻布大学附属瀨野辺高校 菅原正志作「九郎・源義経流亡誌」
 県立逗葉高校 宮本星美作「GRADUATION」
 県立愛川高校 前川麻子作

県立平塚江南高校

「センチメンタルアマレットポジティブ」
 石井彩子作「豆魂TOKKON」

このうち、県立逗葉、県立愛川両校は一月二十六・二十七日に静岡県三島市で行われた関東高等学校演劇研究大会に出場した。麻布大学附属瀨野辺高校は、今年八月神奈川県で開かれる全国大会に推薦された。

生徒実行委員会の活動

演劇専門部では、毎年各地区の有志生徒が生徒実行委員会を組織し活動している。主な仕事は秋季大会上演校リストの作成と県大会運営の係分担である。特に県大会の運営では、司会進行・舞台・受付・場内整理・広報記録に分かれて二日間を支えている。広報記録係の発行する速報「あかいくつ」は大会記録としても貴重である。また生徒実行委員による講評も引き続き実施している。

この生徒実行委員会は、昨年の関東大会においても運営に携わりその成功に大きく貢献した。今年（二〇〇二年度）八月の全国大会に向けて、すでに準備を進めている。他県からの多数の観客に対応できるように、生徒実行委員会のいっそうの拡充が期待される。

新聞専門部会の活動

神奈川県高校新聞連盟について

本連盟は、高校新聞の活動を見守っている顧問教師の全体的な組織で、高文連の新聞専門部会となっています。本年度の加盟校は約五十校。これを横浜・川崎・湘南・横須賀・県央・平塚・小田原・西湘の八地区に分け、各地区から理事を選出して運営にあたっています。加盟校は年々増えてきていますが、さらに多くの高校の参加を願っています。

主な活動

夏季新聞生徒合宿講習会

「県立三浦ふれあいの村」を会場にして、毎年七月下旬に合宿講習会を実施しています。

今年度も県内十数校から、五十名程の生徒が参加しました。本連盟理事の指導のもと、文章・見出し・レイアウト・写真・企画・取材など、新聞作りの基礎を講義と実習によって学びました。

その他にもゲーム・レク大会など盛りだくさんの内容で、参加した生徒は新聞作りへの意欲を高め、同じ目標を持った他校生との交流を深めていました。この合宿講習会は、神奈川県の高校新聞を基礎から支える歴史と伝統のある行事です。

神奈川県中学校高等学校新聞コンクール

本年度で五十一回目となる伝統ある行事です。
毎年一回（十月末日締切り）、応募された高校新聞について、新聞作り

への意欲・対象への切り込み方・新聞作りの技術など様々な観点から審査しています。

本年度の審査対象は二〇〇〇年十一月一日から二〇〇一年十月三十日まで発行された学校新聞一作品（活版・謄写・ファックス新聞を含む）。応募は全紙（各校一ページ）を縮刷し、寸評とともに「コンクール収録」としてまとめています。

新聞生徒地区研修会

年に数回、不定期で開催しています。土曜日の午後、県内の高等学校を会場に、会場校の生徒が中心となって運営します。参加校数や参加人数に制限はありません。

パソコンを使った新聞作りなど、各校の長所を学び互いに切磋琢磨しあえる良い機会です。また技術の向上だけではなく、お互いの活動を報告しそれぞれの悩みを相談するなど、県内の生徒たちの交流を深める場ともなっています。

K A F E

第二十七回全国高等学校総合文化祭に向け、県内新聞部の生徒たちが作っている広報誌の名前です。創刊号は、昨年十一月に行われたプレ大会を取材し発行しました。

第五十一会神奈川県高等学校新聞コンクール上位入賞校

最優秀賞 「大船校新聞」 県立大船高等学校

優秀賞 「こゆるぎ」 向上高等学校

優良賞 「生田東新聞」 県立生田東高等学校

「磯高新聞」 県立磯子高等学校

アマチュア無線専門部会の活動

今年は、日本アマチュア無線連盟、同連盟神奈川支部、県立青少年センター主催の各行事に参加し、以下の行事を行いました。

高校コンテスト 七月八日(日)

(本件高校社団局のみ)

マルチオベレータマルチバンド部門

第一位 県立磯子工業高校無線部

第二位 県立横須賀工業高校電子研究部

マルチオベレータ7MHzバンド部門

第一位 県立神奈川総合高校アマチュア無線部

マルチオベレータ430MHzバンド部門

第一位 向上高校無線部

高文連会長賞 表彰 一月十九日(土)

県立磯子工業高校無線部

県立神奈川総合高校アマチュア無線部

県立希望ヶ丘高校電気部

向上高校無線部

県立横須賀工業高校電子研究部

県立二宮高校科学部

第十二回神奈川県高等学校アマチュア無線大会

本大会は、十二月十六日(日) 県立青少年センター第二分館講堂において開催されました。昨年同様、同センターとの共催となり、会場設営などに多大なご協力をいただきました。本専門部会生徒委員である県立横須賀工業高等学校平川智也君の開会宣言により始まり、左記の流れで

進行了しました。司会は弁論専門部会から応援をいただき日本大学藤沢高校の大河原実奈さんがつとめました。

・第十二回高等学校アマチュア無線コンテスト表彰

・講演 「だからハムは面白い！」 J A I A Y C 松本正雄氏

松本先生は日本アマチュア無線連盟(JARL)の理事を八年間も務められた方で、国際アマチュア無線連合第三地域総会にもJARL代表団の一員として五回も参加されたそうです。今回は私たち高校生のためにアマチュア無線再開当時の貴重な資料を示しながら、工作などの楽しいお話をしてくださいました。

(県立横須賀工業高校 二年 下山政則)

・ハムフェア出展報告

初めて見た「ハムフェア」。さすがアマチュア無線の祭典ということだけあって最新の無線機器などを見ることができました。また、クラブ・ブースでは様々なジャンク品が売られ、非常に安くパソコンを買うことができました。さらに、乾パンと缶入りの水のセットが配布されて、我々のお昼ご飯になりました。

(県立横須賀工業高校 一年 石渡英次)

・部活動報告

参加した各校から近況報告をしていただきました。今回は東京都、茨城県の学校からの参加がありました。また、静岡県から個人で参加した方からも地域の様子などを話していただきました。

・第二十五回全国高等学校総合文化祭福岡大会視察報告

・無線工作会

工作会では、本校二年の下山政則先輩・平川智也先輩が自作の掛け図などを使って「ワイヤレス・マイク」の製作を指導してくれました。普段使っている無線機の原点となる発信回路などを組み立て、基本原理の理解に役立ちました。

(県立横須賀工業高校 一年 大城将司)

茶道専門部会の活動

◎今年度の主な行事

- ・部門講習会茶碗作り 七月二十三、二十四日 於 湘南学院高校
- ・福岡大会派遣激励会呈茶 七月二十五日 於 横浜市公会堂
- ・参加校 湘南学院高校 光明学園相模原高校
- ・国際交流茶会（韓国来日訪問団） 八月五日 於 ホテルコスモ横浜
- ・参加校 県立追浜高校 県立平塚江南高校 慶應義塾高校
- ・強化合宿 八月下旬 於 京都
- ・参加校 高木学園高校 湘南学院高校
- ・総文祭（ブレイVENT）総合開会式呈茶 十月二十八日 於 国立国際会議場
- ・部門講習会呈茶用菓子作り 十一月十七日 於 県立平塚江南高校
- ・第七回高校生茶会 十一月二十三日 於 県立平塚江南高校
- 席持校 県立平塚江南高校 県立大磯高校 県立大原高校
- 県立神田高校 県立平塚農業高校 県立湘南高校
- 県立伊勢原高校 県立秦野南が丘高校
- ・福祉マラソン大会呈茶 一月六日 於 根岸森林公園
- ・総文祭総合開会式呈茶 一月十九日 於 横浜西公会堂
- ◎「第七回高校生茶会」に参加した部員二人の感想を紹介します。
- 渡部さんは茶室で、新明さんは立礼の席でお点前を担当しました。

みのり

県立平塚江南高校 二年 渡部 美和

初めての高校生茶会。それも江南で行われるなんて、どうしたらいいのか全然わからなかった。全体を通して私が学んだことは、「精神を集中

させる」ということ。茶道では当たり前のことだけど普段の練習ではそこまで真剣にやっていたような気がする。今回の茶会で私は点前と席主を任された。重要な役を任された少しプレッシャーを感じていた。

当日。テーマ「みのり」のとおり練習の成果が実った高校生らしい茶会となった。今までの私は、茶道は一人でやるものと勝手に思っていた。水屋の人がいて、半東、席主、お客さんがいて初めて茶会が成立するのだ、と点前をしながら強く思った。私だけが重要な役じゃない。私だけが大変なんじゃない。そう思ったらすごく楽しくなった。仲間がいるから茶会ができる。みんなと食べるお菓子はいつもより中味が詰まっています、甘くて、なんだかうれしかった。

足りないもの

県立平塚農業高校 新明 彩加

扇形の真新しい机。中国風の服を着たお人形が手を繋いでいる蓋置き。大きすぎて置くのが困難な建水。この日の為に買った茶筌も、既に用意されていたので、私のは学校でのお稽古用になってしまった。「うちの学校も結構道具が揃ってる方だと思うけど、こんなの見たくないよ。」

着物姿の顧問をどこかの貴婦人かと勘違いした朝、数分間、お道具のあまりの素晴らしさに見とれてしまった。

そして、お茶会開始の時刻。来るのは学生ばかり。自分のお点前のウデがお道具に負けてしまいそうだった。他校より早い時間での点前でもあったから、緊張は頂点に達していた。だが、「よくできてたわよ。」と、お点前を終えた後、囑託の先生がおっしゃった。どうやら足りなかったのは「自信」らしい。今回参加できた経験を今後活かして、茶道を続けていきたい。

弁論専門部会の活動

今年度の活動は以下の通りです。

◇第五十三回県下高等学校弁論大会

今年度は十一月十八日(日)に、日本大学藤沢高校を会場として開催しました。県教委と県中学生弁論連盟(現・神奈川県高等学校弁論連盟)の共催で開催されて以来、第五十三回を迎えました。

最優秀(知事賞)には、「生きた日本を」との演題で熱弁をふるった日本大学藤沢高校二年新美安紀さんが選ばれました。その他入賞者は以下の通りです。

優秀一席(教育長賞)

県立中央農業高校二年 清田 浩志

優秀二席 日本大学藤沢高校一年 山本 美幸

優秀三席 日本大学藤沢高校一年 飯島 裕基

なお、今大会の結果により、日本大学藤沢高校二年新美安紀さんと県立中央農業高校二年清田浩志さんの二人が、来年度(今年八月)ここ神奈川県三浦市民ホールで開催される第二十六回全国高等学校総合文化祭弁論部門(第四十九回文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会)へ、神奈川県代表として出場することになりました。

◇第二十五回全国高等学校総合文化祭弁論部門(第四十八回文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会)

今年度は八月六日(日)・七日(月)に、福岡県久留米市文化会館にて開催され、県代表として日本大学藤沢高校三年齋藤久就さんと県立中央農業高校三年宮崎匠大さんが出場しました。

◇第七回高等学校社会提言作文コンクール

「日本の将来を担う高校生が、作文を通して社会に目を向け、その問題を考えることによって、自分自身の社会への関わり方を問う一つのステップとする。」ことを目的として、題および内容は自由とし、作文の長さを四〇〇字詰め原稿用紙三枚程度として募集しました。

第一回は終戦五十周年で「平和」、第二回は「環境」、第三回は「夢」や「これから」、第四回は「身近な人」や「周囲の様子」、第五回は「自分自身の将来について」、今年の第七回は昨年に引き続き、何かに偏ることなく身近な問題から社会的問題等様々なことに敏感に反応した作文が集まりました。作文には、自分の将来を見据えて今をどう生きていくか

を真剣に考えている高校生の姿が、浮き彫りなっていたように思います。

表彰式は「神奈川県高等学校総合文化祭」の総合閉会式にて行われました。入賞者は以下の通りです。

《教育長賞》

高橋 真未(日本大学藤沢二年) 「文化芸術に対する見直し」

《私学中学高等学校協合理事長賞》

松島 佳那(横浜共立学園二年) 「フリーター」

《高文連会長賞》

鈴木 匠子(県立麻溝台三年) 「移植医療について思うこと」

大井 泰輔(県立中央農業一年) 「バイオ技術が救う地球の未来」

宮崎 楓(横浜隼人一年) 「前進へとながる後退」

《弁論部会長賞》

長塚麻理子(県立麻溝台三年) 「学ぶということ」

野口 幸作(県立麻溝台三年) 「文化を観る日」

平林 範子(県立麻溝台三年) 「脳死は人の死といえるだろうか」

本多 裕(県立麻溝台三年) 「遺伝子組換え技術の安全性について」

増田麻里奈(県立麻溝台三年) 「異文化理解」

山田 千晴(県立麻溝台三年) 「機械と人間との新しい関係」

荒木 力州(県立中央農業一年) 「私達の地球」

小笠原直樹(県立中央農業一年) 「園芸、日々の生活の中に安らぎを」

杉山 瑛子(日本大学藤沢三年) 「学校再生」

庄子 紀子(横浜共立学園二年) 「ハンセン病と隔離政策」

野村 香菜(横浜共立学園二年) 「学級崩壊」

平川可奈子(横浜共立学園二年) 「国際社会の中で生きる日本への課題」

◇弁論研究会

今年度は、十一月十八日(日)に日本大学藤沢高校を会場として開催しました。弁論全般のこと、特に発声練習の方法や表現方法について、研究協議しました。

◇第五十三回県下中学校弁論大会

高文連としての活動とはいえませんが、中学生への弁論の普及ということもあり、弁論専門部会としてこの中学生弁論大会を後援しており、神奈川県高等学校弁論連盟として大会の運営もしております。今年度は十一月十八日(日)に、日本大学藤沢高校を会場として開催いたしました。

社会科学専門部会の活動

一 今年度の主な活動

今年社会科学専門部会は二〇〇二年の全国大会に備えて、大会へのイメージ作りの年となりました。毎年行なわれている社会科学研究発表大会は、全国に合わせて、地理社会部門、歴史考古部門、民俗文化部門の三部門で参加を呼びかけました。また発足以来続けてきた神奈川県内の史跡見学も、全国大会での巡検コースのプレ見学として、六月には鎌倉を見学し、三月には横浜の開港関係の史跡を見学する予定です。神奈川県に全国から仲間を迎えるための、大会準備が少しずつ進んでいます。

六月十日 第二十九回合同見学会（鎌倉）

シルバーガイドの方に案内をお願いして円覚寺、建長寺、鶴岡八幡宮などを見学。文化祭開催中の鎌倉学園考古学部と交流。

七月十四日 第一回加盟校生徒代表者会・交流ニュース三十号発行

第七回研究発表大会のイメージ作り。（横浜英和女学院高校）

十月六日 第二回加盟校生徒代表者会

研究発表大会の順序抽選と役割分担など。（横浜英和女学院高校）

十一月二十三日 第七回社会科学研究発表大会（第三十回合同活動）

一月十九日 総文祭総合閉会式参加（横浜市西公会堂）

三月二十一日 第三十一回合同見学会（横浜予定）

二 第七回社会科学研究発表大会

全国大会の会場にも予定されている横浜英和女学院プリテンホールで、十一月二十三日第七回社会科学研究発表大会が行なわれました。今年度は研究発表大会に共通テーマを設けず、神奈川に関係のあるものとい

う条件だけを示して発表を募り、五校六クラブが参加しました。

法政大学第二高校社会科学研究部は、地域を歩いて体験者の話を聞くという地道な研究の成果を、舞台いっぱい巨大な掛図を使って力強く訴えました。武相高校考古学部と鎌倉学園高校考古学部は、自作の時代衣装を身につけての発表で、会場を沸かせました。横浜英和女学院高校歴史部は、コンピュータを駆使して資料の写真や地図を映像で示しました。また今年は県立伊志田高校の民俗研究グループが初参加し、デジタルカメラで撮った写真をスクリーンに写し、聞き取りテープを流すという新鮮な発表をしました。いずれも日頃の研究成果を十分に練った方法で発表した、素晴らしい内容でした。各賞受賞校は次の通りです。

教育長賞

法政大学第二高校 社会科学研究部

「川崎の中の沖繩く豊かな居場所を求めた人たち」

武相高校 考古学部

「神奈川の古墳く四世紀の古墳を中心に」

私学協会理事賞

横浜英和女学院高校 歴史部「呪術と平安時代の人々」

高文連会長賞

鎌倉学園高校 考古学部「霜月騒動について」

法政大学第二高校 歴史研究部「本土決戦体制と神奈川」

県立伊志田高校 民族研究グループ

「読谷探訪―国吉トミ姫 語りの世界」

（展示）県立相模原工業技術高校 歴史工作部

（歴史新聞）県立座間高校 県立相模原高校 県立厚木東高校

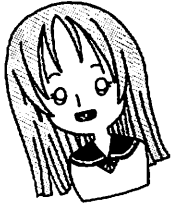
生徒実行委員会報告

私の世界を大きく拡げてくれた福岡大会

県立横浜翠嵐高校一年 山田 黄葉

見るもの、聞くもの全てが私にとって初めてだった福岡大会。初めての事はかりで戸惑うことも多々ありましたが、福岡で過ごした四日間はとても有意義な時間だったと思います。総合開会式前日、リハーサルで初めて上がった国際センターのステージは自分の想像以上に大きく、その広さに圧倒されてしまいました。ステージ中央に立つと自分がとても小さく感じられ、まだリハーサルだというのに、足が竦んでしまったのを覚えています。ただステージの上の張り詰めた雰囲気は、私に「やる気」を起こさせてくれました。そして本番当日。総合開会式では前年度開催地の静岡県、今年度の福岡県、そして中国、ハワイ、韓国の代表生徒によるそれぞれ魅力的で息の合った素晴らしい発表を見ることができました。開会式も中盤に差し掛かり、私達も舞台袖に移動し、出番を待っていました。その時、私の中では失敗したらどうしようという不安と緊張感が体を駆け巡り、もう立っていることも辛く感じられました。いよいよステージに向かって歩き出しました。眩しいほどのライトに照らされて正面を向くと、そこには大勢の人の姿が。もう頭の中は真っ白になり、覚えていた歌も手話もどこかへ飛んで行きそうでした。それでも終わった時の達成感は何ものにも代え難いものでした。先生方、そして先輩達と何かをやり逃げたという今回の経験は、私の世界を大きく拡げてくれたように思います。

来年はいよいよ地元、神奈川県で開催される全国高等学校総合文化祭。多くの高校生の素晴らしい交流の場になるように、今回福岡大会で私を感じた以上の感動を味わってもらえるように、来年の開催に向けて頑張りたいと思います。



福岡大会三県交流（手話コーラス）に出演して

県立港南台高校二年 権田 真理

私は、福岡大会の総合開会式に「三県交流」として出演しました。来年度開催される神奈川県大会のイメージソング「地球からの贈り物」の手話コーラスを行うということで、初めて手話を習うことになりました。手話には、いろいろな例えがあることや、手だけを動かすのではなく顔の表情でも自分の言いたいことを表現するという難しさがあった、始めはとても大変でした。そのうえ、合同合唱団の歌と合わせなければなりません。けれど、福岡へ行く前日の練習では、「もう、ほとんど完璧」と先生から言われるほどうまくできるようになりました。

福岡に着いたら一日めは、各団体のリハーサルがあり、そして通しのリハーサルも無事に終わりました。しかし、本番当日の朝の練習で「描く」や「くれた」という部分の手話がみんなと揃ってできなくなっていました。出演する仲間四人は、私のうまくできなくなってしまった部分を、本番直前までずっと一緒に練習してくれました。そのおかげか本番は、これまでの練習の中で一番自信をもって演じることができました。この時私は、今まで体験したことのない達成感を味わうことができ、特にフィナーレの舞台上に福岡の高校生と一緒に立った時、私たち高校生の力が一つになるとこんなになすことが成し遂げられるんだということを実感しました。

来年はいよいよ神奈川県でこの大会が開催されます。参加した高校生すべてがこのような達成感を実感することができるように、私たち自身もたくさんの方の意見を出し合って盛り上げていきたいと思っています。

着ぐるみ「かもえもん」福岡の旅

県立城郷高校二年 矢野 哲也

JAS三〇三便八時三十五分発。久しぶりの飛行機なのでかなり緊張した。隣の席では吉田君がなぜかすぐくはしゃいでいるが、僕は睡魔に勝てず熟睡。

福岡空港に到着。外の温度計は三十三度というのを目撃。嫌になる。しかしいざ外に出てみると予想したほどでもなかった。ひと安心。これならパレードでもかもえもんを着られるのではないかと思った。

（後に、自分がどれほど身の程知らずか思い知るようになったが。）福岡空港に着くと国際線に移動して訪日団の出迎え。しばらく待たされた後、安山女子高の生徒とやっと会える。バスに乗るために移動する

が、自分だけ出遅れ、エレベーターに自分一人と安山女子高の生徒たちで乗ることになってしまった。ものすごい緊張。俺が何をしたらっていうんだっていう気分だった。

全日のリハーサルも無事終了し、いよいよ当日となった。客(？)の出入りはまあまあで少し緊張。でも自分は着ぐるみの中だったので、他のみんなと比べれば気が楽。本番が始まる前に安山女子高の生徒たちが激励に来てくれてうれしかった。全体の感想としては、高校生は一生懸命働いていてすごくよかったですと思う。パレードとは、とにかく暑かったということぐらいしか覚えていない。パレードのスタートを待っている時にすごく暑くて、緊張もしていたので、やはりかもえもんを着なくて助かったと思った。

日韓高校生文化交流事業に参加して

法政大学第二高校三年 田端 崇幸

日韓高校生文化交流事業に参加するまでは、期待と同時に不安も多かったです。特に教科書問題で韓国では日本文化の規制が強くなっているというので、うまく言えませんが、イメージが先行していたのかもしれない。伝統文化交流会の当日は、もちろん両国(韓国も日本も)の発表もすばらしいものですが、その後の高校生同士の交流の方が強く心に残っています。こんなことを書くといかにも普通の高校生だなんて思いますが、でもこういうのって、頭ではわかっていても、実際に体験しないとわからないことではないかと思えます。

韓国と日本の間には長い歴史がありますが、日本が異民族に侵略されなかったのも、東アジア独特のバックスーシニカが長く平和を保つことができたのも韓国(朝鮮半島)の人々が大きな役割を果たしています。日韓の歴史をこの機会に見直してみるのがいいと思います。今回の経験を活かし、これからも韓国の人たちと親密な交流を続けていきたいと思っています。

がんばれ 広報班!

県立市ヶ尾高校二年 黒沼 卓信

「いよいよ今年の夏に神奈川大会が開催されるのか」そんな鼓動が高まるなか、私は広報班の仕事を始めて三年目を迎えようとしています。昨年は、広報班の班長として、私なりの自覚と責任をもち、さまざま活動に取り組んできました。総合開会式では、全高総文祭かながわ2

002のマスケットキャラクターかもえもんの着ぐるみと一緒にPR活動をしました。歩いている人にちらしを配ったり、総合案内所を設置したり、苦勞もいろいろありました。総合開会式では、ステージで神奈川大会の紹介をしました。仲間と練習する時間がほとんどなくて大変でした。私が高文連の生徒実行委員会に入ろう思ったきっかけは、先生から全国高等学校総合文化祭の記録集を見せられたことです。それを初めて見た時、何か高校生の迫力のようなものを感じ、自分もこのような大きな行事に参加し、総合文化祭を創り上げたい、この記録集を開いた時に自分が受けた感動を他の人々にも伝えることができたかなと思ったからです。そしてより多くの人にこの活動を伝達したいという夢をもって広報班の仕事を選びました。

この八月は、いよいよ神奈川大会の開幕です。鳥肌の立つような感動を多くの人々が感じてくれたら私の夢が実現します。広報班の皆さん、神奈川大会の成功に向かって、一緒に全力をあげて取り組みましょう。

SEA GULL logo and event poster for '高校生文化祭' (High School Student Cultural Festival). The poster features the text '高校生文化祭' and '文化の結集 目指して' (Aiming for the gathering of culture). It also includes a small photo of a person and some text about the event.

SEA GULL logo and event poster for '文化の結集 目指して' (Aiming for the gathering of culture). The poster features the text '文化の結集 目指して' and '総合開会式' (General Opening Ceremony). It also includes a small photo of a person and some text about the event.

私の存在を表明できることゝ総文祭総合開会式に出演して

県立小田原城内高校二年 熊谷 絵里

始めは何か私の存在を表明できることをしてみたい、他の高校の人と交流したいという理由でこの劇に参加した。最初はこんな大人数でまとまるわけじゃないんじゃないかと思ったりすることもあり、案の定、先生方やOB、OGの方たちにいっぱいいしかられたりした。私自身もいつしかこんな雰囲気がいやだなあと思うようになっていた。しかしその後、私たちは私たちだけの話し合いをもつようになった。やつとお互いの考えていることとか、抱えている問題が私にも理解できた。

本番中は無我夢中で、時間なんか気にしている余裕はなかったけど、なかなか切れなかった時間も切れ、劇も成功してよかったと思います。

私は演劇が好きなんだ

県立外語短期大学付属高校一年 鳥羽 沙穂里

演劇班での最初の日。少し緊張気味だったあの日からたった三ヶ月後に行われた総合開会式。練習日ごとびとびとで気持ちもたまるんでしまつて何度もOBの方や仲間たちから叱咤されて本番を迎えた。暑い中、汗を流しながら演技したこと。かもえもんの着ぐるみを見て舞台への闘志を燃やしたこと。数え切れない練習時の思い出と演技上の注意を胸に、私は舞台上上がった。広い広い明るい場所。演劇を始めてわずか半年の私は、半分「自分」で半分「おつき」だった。五千人分の客席を前に心地よい緊張感があった。そして総合開会式のフィナーレが盛大に終わった時、達成感と少しの寂しさを感じたのを今でも忘れていない。

今回のことで、私は改めて演劇が好きなんだと実感できた。またフィナーレで、演劇班以外の生徒実行委員とも一体感を味わえた時、私は幸せだと思った。

今年の素晴らしい経験を生かして、来年はさらに良いものを仲間と共に創っていききたい。

この仲間と劇ができてよかった

県立横浜立野高校一年 磯本 明日香

二〇〇一年十月二十八日、私は改めて劇の楽しさと仲間の大切さを実感した。私が所属していた演劇班では練習する回数がとても少ないうえ

に、それぞれのつこうで練習に参加できないこともあって、なかなか人数がそろわなく、カリカリしたり不安になったりすることがよくあった。でも練習する時はみんなとても仲がよくて楽しかった。そのせいか、始めうまく合わなくて練習日数が少ないからかなと思ったことも、後半は自分たちの目標を達成することができたのでよかった。本番はそれまでの中で最高のものができ、劇が終わって、観客席からの拍手を聞いた時は「この仲間と劇ができてよかった。」と心から思うことができた。この劇をすることによっていろんな意味で自分自身成長したと思います。

チームワークが命の演劇班

日本大学藤沢高校二年 鈴木 淳子

私は演劇班の班長、役の上でも委員長という大役で、当日までの約三ヶ月は本当に高文連一色になっていた気がします。うまくみんなを、まとめていけなかったり、責任の大きさにプレッシャーを感じて悩んだこともありました。なかなか人数が集まらなくて一日基礎練習をしていた日もありました。けれど、これじゃいけないと思い、みんなで練習後に自主的反省会をしたり、休日を集まって外練習をしたりしました(秋の山下公園は寒かった)。そして本番一週間前に始めて劇が規定時間の二十分にまとまったときは本当にうれしかったです。

当日私は第三部の司会も務めることになっていたのでパニック寸前の忙しさでしたが、心配していた衣装チェンジもなんとかうまくでき、よく間違えていたセリフもうまく言えました。劇全体では特に失敗した人もなく、お客さんのウケもよくて私たちは大喜びでした。

チームワークが命の演劇班、いろいろなことがあったけれど、そのおかげでみんなとの交流も深まり、それぞれの個性も引き出せたと思います。来年もぜひ参加したいです。



みんな、お疲れさま。

県立岡津高校二年 沖 由貴

私は、スタッフだったから他の人と違って舞台上に上がることにはなかつた。それでも音響係として演劇班の発表を支えられたことは嬉しく思っている。

練習の時、誰かが言ってくれました。「キャストとスタッフがそろって始めて劇になるんだ。」と。嬉しかった。もつとやる気が出た。

本番。皆の劇が始まると私もドキドキした。まるで子供の時の発表会の前のように。それは終わってからも同じだった。自分もがんばったけど、それよりもみんなに早く「お疲れさま。」って言いたかった。

いろんな高校からいろんな人たちが来て、一つのを創る。それはとても素晴らしいことだとすごく実感した。



フィナーレに感激

県立外語短期大学付属高校二年 竹内 陽介

一体高文連という団体がいかような団体か全く知らされずに、つれてこられた演劇班。こんなに楽しく終われたことに、驚いています。思いおこせばまじめな方向ではなかったはずなのに、海の砂だの、真夏の果実だの、美保子だの、なんなんだ！しかも温泉たまごにけんちゃん汁に、しゅうまいのぬいぐるみに美女と野獣にエレベーター……。つかれました。でもけっこう楽しかったです。これもみんなのおかげかな。感謝です。フィナーレは感激しました。

生徒実行委員会の活動をふりかえって

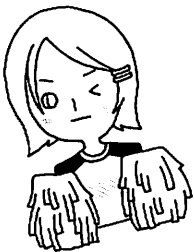
県立白山高校三年 山北 典子

今年度は、私にとって最後の活動だったので、始めから「自分からどんだけ積極的に動いていこう。」と決めていました。昨年は意見もうまく言えず、仕事も分担されるのを待っているだけで、私自身あまり楽しめなかつたからです。それが自主的に動くことでこんなにも違うのかと驚くほど、本当に充実したものに変わりました。

生徒委員会も、今年には「全国高等学校総合文化祭・神奈川大会」を次年度に控え、名称も生徒実行委員会となつて、例年になく内容の濃いものになりました。八月には日韓高校生文化交流事業というのがある、韓国の安山女子情報産業高校の皆さんとの国際交流に始まり、十月には全高総文祭かながわ2002のプレ総合開会式に出演したり貴重な経験ばかりでした。

人数も今年には約百人に増えて、班ごとの活動もそれぞれ主体的になり、組織的な面でも充実してきたように思います。そういうなかで、生徒実行委員会のいいところは「全員が同じ意見でいよう。」ではなく、「全員が一つの目標に向かって協力し合おう。」というスタイルです。そんなところが高文連らしさなのかなと思います。八月は、いよいよ「神奈川大会」本番として、生徒の組織力がさらに求められるでしょう。と同時に、一人一人がそれぞれの視野を広げ、また集団の中での個人の重みを実感してほしいと思います。そして、みんなで一つのことを実行する強さをもって神奈川大会を成功させてほしいと期待しています。

二年間、生徒実行委員会の活動に参加できて本当によかったです。皆さん、ありがとうございました。



生徒実行委員会活動報告

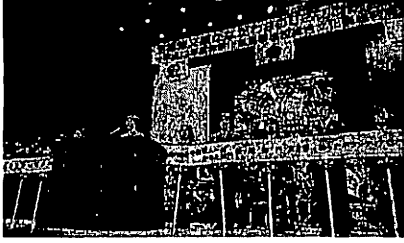
- 第1回生徒実行委員会 6月2日(土) 県立青少年センター
- 第2回生徒実行委員会 6月16日(土) 県立横浜平沼高等学校
- 第3回生徒実行委員会 7月23日(月) 県立横浜平沼高等学校
- 第4回生徒実行委員会 7月24日(火) 西地区センター
- 第5回生徒実行委員会 7月25日(水) 西地区センター
全高総文祭・福岡大会 派遣激励会・運営補助
生徒新聞「かなぶん」第5号発行
- 第6回生徒実行委員会 7月30日(月) 県立横浜平沼高等学校
- 第7回生徒実行委員会 7月31日(火) 西地区センター
日韓高校生文化交流事業参加
8月1日(水) 8月8日(水)
福岡市、横浜市、都内周辺
- 第25回全高総文祭・福岡大会参加、視察
8月2日(木) 8月7日(火)
福岡市周辺
- 第8回生徒実行委員会 8月23日(木) 県立横浜平沼高等学校
- 第9回生徒実行委員会 8月24日(金) 県立横浜平沼高等学校
- 第10回生徒実行委員会 8月27日(月) 県立横浜平沼高等学校
- 第11回生徒実行委員会 8月28日(火) 県立横浜平沼高等学校
- 第12回生徒実行委員会 9月8日(土) 県立横浜平沼高等学校
- 第13回生徒実行委員会 9月29日(土) 県立横浜平沼高等学校
- 第14回生徒実行委員会 10月8日(月) 県立新羽高等学校

- 第15回生徒実行委員会 10月13日(土) 県立横浜平沼高等学校
- 第16回生徒実行委員会 10月14日(日) 県立横浜平沼高等学校
- 第17回生徒実行委員会 10月20日(土) 県立大船高等学校
- 第18回生徒実行委員会 10月27日(土) パシフィック横浜 国立大ホール
- 第19回生徒実行委員会 10月28日(日) パシフィック横浜 国立大ホール
平成13年度神奈川県高等学校総合文化祭 総合開会式
(全高総文祭かながわ2002 プレ総合開会式)
運営補助、全高総文祭報告、創作劇、総文祭MAP作成、総合案内所、PR活動など
- 第20回生徒実行委員会 12月15日(土) 県立横浜平沼高等学校
- 第21回生徒実行委員会 1月19日(土) 西地区センター ホール
平成13年度神奈川県高等学校総合文化祭 総合開会式・運営補助
全高総文祭紹介、生徒新聞「かなぶん」第6号発行
- 第22回生徒実行委員会 2月2日(土) 県立横浜平沼高等学校
- 第23回生徒実行委員会 3月16日(土) 県立神奈川県総合高等学校
- 第24回生徒実行委員会 3月17日(日) ランドマークプラザ
全高総文祭かながわ2002 カウントダウンイベント
- 第25回生徒実行委員会 3月27日(水) センター南駅コンコース
全高総文祭かながわ2002 カウントダウンイベント
- 第26回生徒実行委員会 3月30日(土) 相模大野駅頭
全高総文祭かながわ2002 カウントダウンイベント
- 第27回生徒実行委員会 3月31日(日) ランドマークプラザ
全高総文祭かながわ2002 カウントダウンイベント

神奈川新聞記事より

2001年(平成13年)10月29日(月)

「輝く心を表現したい」



県高校総合文化祭開会式でステージに飾る美しい生徒実行委員の「パシフィコ横浜国立大ホール」

県高校総合文化祭が開幕 来年1月まで多彩に

横浜

「輝く心を表現したい」という思いを込めて、県高校総合文化祭の開会式が二十八日、横浜市のパシフィコ横浜国立大ホールで開催された。約五千名が参加し、会場は活気にあふれた。

開会式は、県内の高校生ら約七千人が参加し、

「今年も多くの高校生が参加し、多彩な文化祭が展開される。今年も、各校の個性が光る文化祭となることを期待している」と、開会式で挨拶した。

開会式は、県内の高校生ら約七千人が参加し、

2001年(平成13年)7月26日 木曜日

「自信と自覚持つて」

縣文化振興 縣代表生徒の激励会

「自信と自覚を持つて」という激励の言葉を、県文化振興課主催の「縣代表生徒の激励会」で聞いた。県内の高校生ら約五十人が参加し、激励の言葉を聞いた。



「県代表生徒の激励会」の様子。県文化振興課主催。

「自信と自覚を持つて」という激励の言葉を、県文化振興課主催の「縣代表生徒の激励会」で聞いた。

全高総文祭へ意気込み

2002(H14) 1.20(日) 文化祭総合 280校、4万人が参加

県内の高校生ら約四万人が参加する「全高総文祭」が、今年も開催される。各校の個性が光る文化祭となることを期待している。



全高総文祭が、今年も開催される。各校の個性が光る文化祭となることを期待している。

神奈川県高等学校総合文化祭
生徒作品集



目次

第二十回	高等学校文芸コンクール(文芸専門部会)	61
	小説の部	
	詩の部	
	短歌・俳句の部	
第十三回	高校生ボランティアコンクール(ボランティア専門部会)	67
第七回	高等学校社会科研究発表大会(社会科専門部会)	70
第七回	高等学校社会提言作文コンクール(弁論専門部会)	71
第五十三回	県下高等学校弁論大会(弁論専門部会)	72

第二十回 高等学校文芸コンクール入賞作品

入選者一覧

文芸専門部会

小説の部 富岡 幸一郎 選

- 〔教育長賞〕(優秀)
 「小さな処理機能の言葉は二千年度版」
 吉田 玲美 日本女子大学附属高校 二年
 〈高文連会長賞〉(優良)
 「冬の飛行士たち」
 福崎亜由美 県立港北高校 一年
 「名もなきものは笑わない」
 柳澤絵梨奈 日本女子大学附属高校 三年
 〈高文連会長賞〉(佳作一席)
 「The Last Summer」
 関 瑤子 日本女子大学附属高校 三年
 「BLACK」
 岡嶋 愛 日本女子大学附属高校 二年
 「蟬時雨の降った日に」
 福井 理恵 日本女子大学附属高校 三年
 〈高文連会長賞〉(佳作二席)
 「私へ」
 鈴木はるこ 県立厚木西高校 一年
 「光の森」
 北村 友美 清泉女学院高校 二年
 「青いバラが咲く庭」
 伊藤 志野 清泉女学院高校 二年
 「飛翔」

大橋業津美 清泉女学院高校 二年

「僕は誰？」

遠藤 令美 清泉女学院高校 二年

「オオクワガタ」

盛 智子 フェリス女学院高校 二年

「転校生」

芳賀 直美 県立藤沢西高校 一年

「遊び魚」

鍵渡 慶子 日本女子大学附属高校 三年

「きっかけ」

水原万樹子 日本女子大学附属高校 三年

「黄河」

森田眞有子 日本女子大学附属高校 三年

詩の部

新川 和江 選

〈教育長賞〉(優秀)

「この世界は——二〇〇一年九月十一日」

中川 麻衣 県立川崎高校(定) 一年

〈高文連会長賞〉(優秀)

「エルダリー」

盛 智子 フェリス女学院高校 二年

「いのちは」

堀中 亜理 県立氷取沢高校 二年

「私の大切なもの」

足立さらら 市立川崎総合科学高校 一年

「意味と私を教えてください」

江角 惇 県立藤沢西高校 一年

〈高文連会長賞〉(優良)

「あじさいのひと」

桐木ゆかり 県立鶴嶺高校 三年

「水」

梅田 篤子 県立藤沢西高校 二年

「みせかけ」

佐藤真貴恵 県立鶴嶺高校 二年

「静寂の鎖」

三村あさな 市立川崎総合科学高校 二年

「海」

上岡 加奈 県立衛生短大二俣川高校 二年

「夏魚」

小島 尚子 横浜雙葉高校 二年

「陽炎」

塩沢 夏希 日本女子大学附属高校 三年

「THE DEATH(XIII)」

古藤田瑠奈 県立港南台高校 三年

「さみしい花」

鈴木 美紗 日本女子大学附属高校 一年

「金の稲穂」

児島 桃子 県立川和高校 二年

〈佳作〉

「傘あそび」

佐藤真貴恵 県立鶴嶺高校 二年

「大切なモノ」

横山 夕紀 麻布大学附属測野辺高校 一年

「洗濯板」

古沢 佐保 県立藤沢西高校 二年

〔背中〕
 山本 一成 県立横浜緑ヶ丘高校 二年
 〔つばさ〕
 上村 知世 県立鶴嶺高校 一年
 〔記憶〕
 清水 貴絵 県立清水ヶ丘高校 二年
 〔旅〕
 富田 紗世 県立西湘高校 一年
 〔模倣〕
 吉川 里奈 県立横須賀高校 二年
 〔幸せになれ〕
 村越 美保 市立川崎総合科学高校 二年
 〔ヒガンバナ〕
 益子乃里子 県立元石川高校 二年
 〔星くず〕
 小渕 希美 県立大磯高校 一年
 〔二番目の夢〕
 土屋 実穂 県立厚木高校 三年
 〔聖夜のひととき〕
 金塚 知子 県立海老名高校 一年
 〔海原の月へ〕
 洪井麻希子 県立元石川高校 三年
 〔バイオリン弾き〕
 小島 尚子 横浜雙葉高校 二年
 〔水〕
 林 誠二 県立清水ヶ丘高校 三年
 〔熱帯魚の森〕
 山口真由美 捜真女学校高等部 二年
 〔英霊〕
 中嶋 千織 県立逗葉高校 二年
 〔箱庭〕
 岡野 萌夏 県立霧が丘高校 一年
 〔台風〕

土屋 香葉 県立西湘高校 二年
 〔結末〕
 橋本 千鶴 県立西湘高校 一年
 〔小さい山と大きな山〕
 岡部 桃子 県立西湘高校 一年
 〔衰退〕
 剣持 誠 県立西湘高校 二年
 〔願〕
 畔柳 圭甫 横浜高校 二年
 〔光〕
 石井 友美 麻布大学附属測野辺高校 一年
 短歌の部 谷岡 亜紀 選
 〔教育長賞〕(優秀)
 富田 理緒 県立深沢高校 二年
 〔高文連会長賞〕(優秀)
 鈴木 美香 横浜雙葉高校 二年
 山口 裕己 柏木学園高校 三年
 中原 慎吾 県立横浜翠嵐高校 二年
 川島枝里子 日本女子大学附属高校 一年
 〔高文連会長賞〕(優良)
 中屋 啓太 県立大磯高校 一年
 安部 和央 県立川崎高校(定) 四年
 五十嵐瑠子 県立清水ヶ丘高校 二年
 松沼さと美 県立大和南高校 二年
 飯田 知子 川崎市立高津高校 三年
 福士 美幸 県立藤沢西高校 一年
 大木 美輝 県立西湘高校 一年
 城所知恵子 県立西湘高校 一年
 大樂 亜実 県立平塚商業高校 二年
 岩本 明菜 県立平塚商業高校 三年

〔佳作〕
 小島 尚子 横浜雙葉高校 二年
 太田 麻子 森村学園高等部 一年
 水野 洋子 山手学院高校 三年
 萩原令美奈 県立藤沢高校 三年
 平尾 愛那 関東学院高校 一年
 冠 亜衣子 県立大磯高校 一年
 石崎 菜美 県立川崎高校(定) 一年
 臼井 優香 県立清水ヶ丘高校 一年
 加藤恵理子 県立清水ヶ丘高校 二年
 立川絵梨花 県立汲沢高校 三年
 道川 隆浩 川崎市立高津高校 三年
 熊谷 りえ 市立川崎総合科学高校 一年
 七海えりか 県立藤沢西高校 二年
 柳本亜由美 県立藤沢西高校 二年
 笹原 梓沙 県立西湘高校 二年
 加藤 里奈 県立西湘高校 二年
 大木 美輝 県立西湘高校 一年
 小田 悠介 県立西湘高校 一年
 小田 悠介 県立西湘高校 一年
 石田めぐみ 県立西湘高校 一年
 松田 祐一 県立平塚商業高校 二年
 中茎 有 県立平塚商業高校 二年
 関野 礼子 県立平塚商業高校 二年
 三浦愛沙美 県立平塚商業高校 二年
 萱野 圭介 県立平塚商業高校 三年
 七海えりか 県立藤沢西高校 二年
 俳句の部 清水 基吉 選
 〔教育長賞〕(優秀)
 青木 友美 横浜国際女学院翠陵高校 三年
 〔高文連会長賞〕(優秀)

北林 麻香	県立生田東高校	三年
木村 安秀	県立藤沢西高校	二年
佐藤 正樹	県立愛川高校	一年
《高文連会長賞》(優良)		
圓道 新吾	県立港南台高校	一年
佐藤 由紀	県立湘南台高校	二年
藤間 大樹	県立秦野高校	一年
江田 綾加	県立愛川高校	一年
谷 かをる	県立大和南高校	一年
大塚祐美子	県立藤沢西高校	一年
平岡 早苗	県立生田東高校	三年
木内 健雄	県立西湘高校	一年
大野 智弘	県立西湘高校	二年
小瀬 正幸	県立西湘高校	二年
《佳作》		
金井さや香	森村学園高等部	二年
福澤 諭志	県立港南台高校	一年
阿部真理子	県立弥栄東高校	二年
廣田 智子	県立湘南台高校	二年
磯前 陽介	県立横浜翠嵐高校	二年
藤巻 みき	横浜国際女子学院翠陵高校	三年
鈴木 未来	県立藤沢高校	三年
市川 貴史	県立秦野高校	一年
長谷山裕美	関東学院高校	一年
藤井 雄之	県立清水ヶ丘高校	一年
宝福 愛梨	県立愛川高校	一年
二見 晴子	県立鶴嶺高校	三年
川崎 陽介	県立鶴嶺高校	二年
岩城亜弥子	市立川崎総合科学高校	二年
石井 勇気	県立氷取沢高校	一年
水野 雄太	県立氷取沢高校	一年
荻野 七生	県立藤沢西高校	一年
七海えりか	県立藤沢西高校	二年

佐竹 りさ	川崎市立高津高校	三年
原田めぐみ	県立大原高校	三年
和田百合子	県立大原高校	二年
小山 美緒	県立生田東高校	三年
中野 悦子	県立生田東高校	三年
岩本 諭	県立西湘高校	二年
鈴木 星子	県立西湘高校	二年

《選後評》

▼小説の部 新しいスタイルを

富岡 幸一郎

コンピュータ、ケイタイ、IT革命。二十一世紀の人間のコミュニケーションは、情報社会の中で、多様化し、大きな変化を示しつつある。若い世代は、そんな社会の変化を、当り前のこととして受けとめるだろう。

しかし、どんなに情報機器が進化しても、生身の私たち人間の、そのコミュニケーションは変わらない部分が、当然のことだがある。不易流行という言葉がある。時代を通して変わらぬものと、変化していくもの。文学のコトバは、そのふたつの狭間を捉えなければならぬ。

吉田玲美「小さな処理機能の言葉は二千年度版」は、まさにパソコンが日常生活の中に入っている世代の作品である。しかし、そのコトバの断片をつなげていくと、そこには現代の若者のコミュニケーションへの思いが、あざやかに浮かびあがる。「クラスの誰をつなごうか」「ぴー。ぴー。きゆるきゆる。ぶつ

ん。」^{スタイル}文体もいい。無駄のない短篇としての味わいもある。文句なしに、優秀作として推したい。

福崎亜由美「冬空の飛行士たち」もよく描けていて、友人のオブジェの庭園と最後の飛行機を飛ばしに行くシーンは、実に印象的だ。文章もしっかりしていて、構成力もある。十六歳の作品としては抜群の水準だろう。そして何よりも、ここにあるコミュニケーションへの渴望。

柳澤絵梨奈「名もなきものは笑わない」も、同性への思いを通して、このコミュニケーションの新しいスタイルを模索した作品として読める。「私」と「僕」の使い分けがいい。この二作は優良作として十分な作品だと思う。

関瑤子「The Last Summer」も今の若者の友情関係を描いて説得力があった。優良作としてもよかった。岡嶋愛「BLACK」も、福井理恵「蟬時雨の降った日に」も、個性的な文体でよく描けている。ただ、文章として冗長な所があったり、やや不自然な言い回しが気になった。この三作を、佳作一席としたい。

▼詩の部 柔軟な感性、のびのびとした精神

新川 和江

全体的におとなしく、前衛性に乏しい、という辛口の批評をすることもできますが、新奇を銜ったものは、書くそばから古びてゆきます。私は意匠よりも、内容の深さのほうに重点を置きます。

優秀作五点は、詩としてはいずれも優劣つ

けがたい出来映えなのですが、私の心につよく響いた順に、寸評をのべます。

中川麻衣さんの「この世界は」。日常頻繁に使われて手垢にまみれている筈の「きれい」が、字画の多い漢字で表記されて作中に据えられると、こんなにも毅然とした輝きを放つものかと瞠目しました。特記された日付は、世界中を震撼させた米中樞同時テロの行われた日ですが、たとえどのような人間がいて、どのような事が起ろうと、「この世界は綺麗」なのだと思うという、世界に対する作者の基本的姿勢に、打たれました。絶望をうたうことは易しい。ほんとうの優しさを持つ人だけが、このように沈着な語り口で、つよい詩を書けるのでしょうか。

盛智子さんの「エルダリー」。しゃれた構想の詩。(「そろそろ来るんだよ」は、お迎えの死の車がそろそろ来るんだよ、の意。お年寄りを見る目は、むしろ、若い人たちのほうに、備わっているのかもしれない)。

堀中亜理さんの「いのちは」。いのちの意味、生きて存在することの意味が、しつとりとした情感をもつて描き出され、うたい出されていきます。

足立さらさんの「私の大切なもの」。感覚的な表現が美しい。一連は、詩だけに許される非科学。こんな出会いがしたいですね。

江角惇さんの「意味と私を教えてください」。題名には一考を要しますが、静かな美しい寓意的作品。ことに何十年かののち、「誰か」が自分の生涯を回想する場面がよく、終行がみごとです。

▼短歌の部 今日を生きる手触り

谷岡 亜紀

今年もまた選考を通じて良い歌にたくさん出会え、たいへん嬉しく思いました。良い歌とは、必ずしも形の整った歌という意味ではありません。もちろん短歌には形式があるので、それから全く外れては困りますが、逆に言う形式があるからこそ、内容については型通りではなく、自由さ、その人らしさが大切なのです。つまりオリジナリティと鮮度。われわれは誰でも、幸か不幸か「自分」から逃れることはできません。その「自分」が生きている現在の、手触りと鮮度のある歌こそが、つまりは良い歌だと言えます。

富田理緒さんの「この小窓わたしの心のぞく窓木の葉時雨をずっと見ていた」。私が私に出会い、折々の心を見つめるための、小さな「窓」。ファンタジックでありつつ、切実な思いがよく伝わります。「木の葉時雨」は、葉の散る様子をしぐれに例えた言葉で、古典和歌にも登場します。そうした美しい言葉を用いて季節感を出しながら、作者の今の思いをイメージ豊かに象徴して、秀逸な表現になっています。鈴木美香さんの「太陽のするどい視線打ち返し今日の私の一步踏み出す」。「打ち返し」「踏み出す」という動詞を中心に、勢いのある言葉を重ねて、今日を生きる意志がヴィヴィッドに伝わります。山口裕己さんの「風は今あおい地球の上をふく生きてる感じ忘れたくない」。上句の大きく爽やかなイメージと、下句の命の実感と。情景と心情とがう

まく付け合わされ、青春の息吹が感じられる歌です。中原慎吾さんの「液晶に写し出したるこの言葉流せよ電子遠くの友に」。「液晶」「電子」という硬い用語と、友達へのナイーブな思いと。「流せよ」という語も所を得ていて、たいへんうまい。川嶋枝里子さんの「竹富の貸自転車のおばさんに今年ももう黒糖の飴」。「貸自転車のおばさん」「黒糖の飴」。沖縄・竹富島の風物、風土性を取り入れておおらかに歌い、旅のエピソードが楽しい歌です。

▼俳句の部 季語のはたらき

清水 基吉

俳句には「十七文字」「季語」という約束があり、何をうたうにしても、その約束にしばられます。また「うた」の性格があり、散文(日記や作文の文章)と違って、スッキリとした「しらべ」で表現します。やさしいけれど、むずかしいといわれるのは、そんな性格が、俳句にはあるからです。

今回もたくさん応募がありました。

最優秀作の青木さんの「青春のごとき線香花火かな」が、「そのとおり」と読者を納得(なっとく)させるのは、「線香花火」という季語の持つさまざまな性格が、いかにもと、「青春」をイメージアップさせて、読者の膝を打つからです。

おなじことは佐藤さんの「春深し」。江田さんの「風光る」にも、あてはまります。何千という応募作品の、すべての句に「季

「語」は使われて、それなりの働きをしていません。その一つ一つの句の「季語」を、改めて読み直してみてください。そこに俳句を作る「たのしさ」「むずかしさ」のあることを承知して、これからも、たくさん句を見せて下さい。

■ 小説の部 ■

〈教育長賞〉(優秀)

小さな処理機能の言葉は二千年度版 (冒頭部)

日本女子大学附属高校 二年 吉田 玲美

私の記憶を詰めた黒いボール。晴れた空に放り投げる。ラジコン飛行機が飛ぶ高さ。はじける。黒丸の粒々。花火。吸い込まれる。青空。青空。

商店街は混雑している。飛び交う不穏な声。安いよ。そっち行っちゃ駄目。一パツク。これをおうちに。

私の前をのんびり歩く太り気味の中年女性。スカートのポケットからカッターナイフ。後ろ首を切りつけられる女性。何事か起こった背後を振り返って倒れる。血が道にほとばしって落ちる。噴水。彼女を見ないで歩く私。彼女を気にしない混雑。

プリンタが歯軋りのような音を立てて文字を印刷している。夜中の二時半、明日も学校

がある。

プリンタが音を止める。私はパソコン画面の文章をデリートする。それから紙に印刷されたその文章を読む。終えてファイルにとじる。気まぐれでファイルの中身を読んでみる。気持ち悪くなる。

これを他の人が見たら。私は考える。私の見方を百度位変えるか。私は泥の頭を振ってみる。どろどろ。百八十度も変えない。面倒。

父親に三百円のコーンスープをぶっかける私。図書館の本を片端から落としていく私。通行の邪魔だった女を殺す私。

私の細切れの妄想。その場その場で思いつく空想。できない想像。

それをパソコンに打ち出して印刷する。私はそれを消して読む。安心する。次の日を迎える。

通学路でカラスと目が合う。カラスはギロのような声をあげて飛びかかる。腕に刺さる黒いくちばし。肉が削り取られる。ああ脂肪。爪。爪。痛い。鳴き声。うるさい。鳴き声。私はくちばしをつかむ。コンクリートブロックにカラスを叩きつける。ぎゃあ。少しためらった。も一度。遠心力。ぎゃあ。

割れた頭。血と脳髄でべたべたの手。一般的な嫌悪感。手を離す。無造作に落ちる黒い鳥。同じ制服が群がる。

そうだ、保健室に行こう。

暑い。ねっとり歩くと歩く。下駄箱。友達。おっはー(フリつき)。笑う。教室。私の机に

座る子。重いかばん。受け取るマンガ。しゃべる。始業。休み時間。始業。

黒板の白い字を書き写す私の真上から、黒い男が降ってくる。突き刺される。ナイフの先が私から出る。

今の妄想のいくつかのパターン。首を跳ねられる。腕を切り落とされる。頭から真つ二つ。まるで健康法。自殺はできない。自殺は嫌い。でも自殺願望?

カラオケに行こう。このCDがね。宿題どこ。昨日バイトで。私は楽しい。今楽しい友人を中華包丁で解体する夢。その友人は嫌いなわけではない。

私の記憶を詰めた黒いボール。晴れた空に放り投げる。ラジコン飛行機が飛ぶ高さ。はじける。黒丸の粒々。花火。吸い込まれる。青空。青空。

友人にXという人がいる。Xが仲がいいのは彼女に興味を持つ人間。精神年齢が高い。博識。お祭騒ぎが嫌い。そういう自分が好き。私もそういう彼女が好き。

あの日のX。

「年を取る前に死にたい。三十歳位で自殺」不可能だと思ったその日の私。今死ねないなら三十歳でも死ねない。その日の私は極めて普通。Xの志望は作家。Xの前で私は馬鹿になる。「文豪X謎の死? 学生時代親しかった友人Aは私で。彼女は、こう言っていました?」Xにも私にもできないこと。純粹にかっこいい。絶対にできないこと。

クラスの誰をつなごうか。あの子、その子、この子、おまけ。

精神をシユウチュウ。透明な細い糸。ネンリキ。彼女たちをつなぐ。こめかみを通す。いつせいに跳ねてしゃべりだす。ざわつく周囲の中に私。力を込めて糸を上へ引き上げる。頭の数珠つなぎ。くるりくるり。ぴー。ぴー。きゅるきゅる。ぷつん。

■ 詩 の 部 ■

〈教育長賞〉 (優秀)

この世界は——二〇〇一年九月十一日

中川 麻衣

この世界は綺麗です
たとえ

すべてが悲しみの青に覆われていようと
たとえ

自分の痛みには敏感なくせに
他人の痛みには鈍感な人間がいようと

人間を血の紅で染めようと
人間がいようと

その人間に少しでも優しい心があるのなら
希望を込めて

この世界は綺麗です

この世界は綺麗です

空には星が輝き その空を鳥は翔び

地には水が流れ 動物が駆け回り慈しみあい

花が咲き 散り行く花とともに蝶が舞い遊び

それを見て美しいと思う人間がいる
ならば

この世界は綺麗です
世界は綺麗です

■ 短歌 の 部 ■

〈教育長賞〉 (優秀)

この小窓わたしの心のぞく窓
木の葉時雨をずっと見ていた

富田 理緒

〈高文連会長賞〉 (優秀)

太陽のするどい視線打ち返し

今日の私の一歩踏み出す 鈴木 美香

風は今あおい地球の上をふく

生きてる感じ忘れたくない 山口 裕己

液晶に写し出したるこの言葉

流せよ電子遠くの友に 中原 慎吾

竹富の貸自転車のおばさんに

今年ももらう黒糖の飴 川島枝里子

〈高文連会長賞〉 (優良)

淋しくてメール送れど返事なし

わが心にはひぐらしが鳴く 中屋 啓太

雨の中傘も差さずに立ち尽くす

今の自分の愚かさが染む 安部 和央

ひきだしは迷い込む程ぐちゃぐちゃで

私の心誰か探して 五十嵐瑠子

夏の空かんかん照りの太陽に

やかれた君の青い自転車 松沼さと美

必要な時はいつも見つからない

私のめがねと世界の真実 飯田 知子

今日あった嬉しい出来事噛み締める

こんな「ひとり」があってもいいね

もう少しみんなといたい夏の夜
福士 美幸

頑張れ頑張れ線香花火
大木 美輝

りんご飴はおばりながら花火見る
口の周りを真っ赤に染めて 城所知恵子

川辺にていつも絵を描くあの人の
後ろ姿が私の風景 大樂 亜実

ケンカして仰ぐ真昼の空に在る
飾らぬ月に揺らぐ強がり 岩本 明菜

■ 俳句 の 部 ■

〈教育長賞〉 (優秀)

青春のごとき線香花火かな
青木 友美

ペンだこを我が誇りとす夏休み
北林 麻香

釣宿の海より青き蚊帳に入る
木村 安秀

髪のをセットしたあとと春深し
佐藤 正樹

〈高文連会長賞〉 (優良)

鮎落ちて深山の川も淋しけれ
圓道 新吾

夜祭りに行く心が踊り出す
佐藤 由紀

鉛筆を削れば木の香新学期
藤間 大樹

鏡見て寝癖なおして風光る
江田 綾加

風鈴のさりげなき音愛しけり
谷 かをる

日傘さし日傘の列に並びけり
大塚祐美子

ひまわりの大きな柄の浴衣着る

川風のほしいままなる鮎料理
平岡 早苗

青春や全力で鳴く油蟬
木内 健雄

朝方の眠り花野に遊ぶ夢
大野 智弘

小瀬 正幸

第十三回 高校生ボランティアコンクール作文の部入賞作品

ボランティア専門部会

〈教育長賞〉

「ころろが伝わる喜ぶ」

県立横浜日野高校 二年 西脇 綾子

「ボランティアとは、ただ相手のために援助活動をするのではない。」

これは今年の夏の手話講習会で学んだ言葉で、私にとって忘れられない衝撃となった。

先日の家庭科の授業で、盲目の福祉コーディネーターの方が自身の体験を話してくださった。大学で昼食を摂ろうとしたら、ある女性から「一人で食べられますか？」と聞かれたという。大人なんだから食事くらい一人でできる。彼女は親切で声を掛けてくれたのだが、僕にとつてはおせっかいになっちゃうんだ。分かるでしょう。でもこんなことを言ったら、みんなはボランティアができなくなっちゃうかな、と笑っていた。少し厳しい言葉だったけれど、私にはよく理解できた。

私がボランティア活動に興味をもち始めたのは小学校六年生の時。学校では月に一度近くの公民館で「交流会」を行なっていて、一人暮らしのお年寄りからお手玉やおはじきを教わって、そのお札に私達が歌と手紙をプレゼントするのであった。得意気に教えてくれるお

年寄りの笑顔は輝いている。今考えると一人暮らしほどさみしいものはない。でも「さみしい」と言わず、「今日は楽しかった。」と優しい笑顔で言ってくれたことに、人のために何かするっていいなと思った。私達もうれしかったから。

中学の福祉委員会では、障害をもった方やお年寄りと交流する機会は殆どなかった。老人ホームに行つて車椅子を洗ったり、掃除をするくらいで、直接話をしたり笑顔が見られないことが不満だった。地味な活動しかしていない福祉委員会を何とかして変えたいと考え、三年生の時に決心して委員長に立候補した。まずはみんなに興味をもつてもらおうと、ユニセフ募金に取り組んでみた。毎朝早く登校しては昇降口の前で大声で呼びかけた。「たった百円でも飢餓で苦しんでいる子ども達を助けられるんだよ。」「命を救うことができるんだよ。」すると活動時間外の廊下ですれ違った私に百円玉を握り締めた手を差し出し、私にも協力できるんだと言う人が増えてきた。そんな反響が私には嬉しかった。募金は前年の倍のほり、担当の先生も驚いた笑顔だった。しばらくして先生から一枚の紙を渡された。ユニセフからのお礼状だった。英文で内容は十分には分からなかったが、募

金に感謝し、これにより病氣や飢餓で苦しんでいる多くの子ども達が救われると書いてあった。確かな手ごたえも嬉しかったが、私には多くの生徒達が関心を持ち、笑顔で協力してくれた方がもっと嬉しかった。誰でも何か人の役にたつ活動がしたいのだと分かった。

私が手話を始めたのは高校一年の文化祭だった。普段から交流のある地域作業所の皆さんがいらつしやって、輪になって歌いながら手話をした。「君と、君と、お話したいな!」向かい合つて相手を指さす。ただ歌うだけよりよほど楽しかった。となりにいた障害をもつ男の子が何も言わずに私の手を引いた。表情で「一緒にやろう」という心が伝わった。手話つて楽しい。もつとやってみたいと思ひ、高校総合文化祭の開会式・閉会式にも出演して「高文連の歌」を手話コーラスした。満員の観衆の前で歌いながら大きく揃った手話をしたら、心が震えた。大拍手を聞いて、やったなと自分が誇らしくなった。

今年の夏、手話講習会に参加した。手話はちゃんと勉強すると予想以上に難しい。手だけでなく、口の動きも同時にね、との先生の言葉は理解できるのだが、つい手の動きに神経が集中してしまい、口の動きを忘れてしま

う。「手話は表情が大切。楽しいなら楽しそうにやらきゃ。」いきなり笑ってと言われてもできないのと同じように、嬉しいという手話をして嬉しいう表情が自然にはでてこなくて、ぎこちない。けれど二日間の講習で私は調子に乗ってしまうほど上達できた。

その時の中谷先生の話。「ボランティアとは相手のために何かをすることだけではなく、自分ができる範囲で相手が望む手助けをすることよ。自己満足で終わらせないで。」この言葉は私の心の奥底にずっしりと響きわたった。今までの自分の活動は、相手に何かしてあげたという達成感だけだったのかな。この大切なことに気付いた今、自分にできることは何だろうと、ずっと考えている。

ある時障害をもった子ども達を介護する仕事についている伯母から、「音楽療法」って知っている？と尋ねられた。聞いたこともなかった。「ピアノを弾いて、障害をもった子ども達と歌ったり、音楽を聞かせてあげるの。そうすることで子ども達は気持ちが変わっていく、楽しい気持ちになるの。」あつ、文化祭の時の手話コーラスと同じだと気付いた。私はピアノもボランティアも大好き。大好きな二つを同時にできたらどんなにすてきだろう。私にぴったりだし、中谷先生の言葉にも合う、と思った。今はその時に弾く曲を練習しつつ、手話では歌詞をどう表現して伝えるのだろうかと考えています。

〈教育長賞〉

「ひとりひとりを大切に」

県立高浜高校 三年 齋藤 久美子

みすずさんは、こんな詩を読んでいます。

「私が両手をひろげても、お空はちつとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面（じべた）を速く走れない。

私からだをゆすつても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のようにたくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがつて、みんないい。」

私はこの言葉が好きです。

この言葉には、違うことのすばらしさ、ひとりひとりを認め合うことの大切さが溢れていると思います。そして、これはボランティア活動にも言えると思います。

私は、募金活動や老人ホームの掃除、機能回復訓練のお手伝い、障害をもつ子どもたちと一緒に旅行するボランティアをしてきました。募金活動では、募金してくださる方々から、「がんばってね」という声援に対し、心から「ありがとうございます」と言える喜びを感じました。老人ホームでも、「いつもきれいにしてくれて、ありがとうございます」と言ってもらい、笑みがこぼれます。機能回復訓練では、親が子どもにそそぐ深い愛情を感じました。子どもたちとの小旅行では、ひとりひとりを

思いやる心、人にやさしくすることで、自分もやさしくなれるということを教えてくれました。

ボランティアときくと、何かすごいことをしなくてはいけないのかなと思うかもしれませんが、そんなことは決してないのです。町の中に落ちていたゴミを拾うことだって立派なボランティアなのです。指一本でできるボランティアだってあります。背伸びせず、自分のできる身近なところから、ボランティアの心は広がっていくでしょう。

ボランティアで学んだことは、身構えて何かをするとか、やってあげるのではなく、それぞれの持ち味を生かし、自然体であるべきだということ、そして、ひとりひとりの個性を認めるということでしょう。これは、ボランティアに限ったことではなく、これからいろいろな人と出会ったときも、個性を認め合い、ひとりひとりを大切にすること、とても大事だと思います。

私も友達や周りの人たちに、「ありがとうございます、一緒にいると元気がでるよ」と言われたことがあります。自分が少し人の役に立っていると思えたときのうれしさは、言葉では表せない、何か暖かい大きなものをもたらしたような気がします。みなさんも、こんなことってありますよね。

ひとりひとは、パズルのピースのようになくってはならない大切な存在なのです。

「みんなちがってみんないい」
 私が今まで出会った、ひとりひとり、これから出会う、ひとりひとり。

ひとりひとりを大切にしていきたいです。そして、この言葉がもっている意味をかみしめながら、ボランティア活動を続けていきたいと思えます。

〈県私立中学高等学校協会理事長賞〉

『今、私にできること』

富士見丘高等学校 一年 中谷 琴美

高校に入り、私は部活の選択に悩みました。でも、沢山ある部活の中で私が魅かれた部、それがJRC部でした。前から、人の役に立てる奉仕活動に興味があり、又、子供が好きなので、施設を訪問する機会もあるという事で、とても理想的でした。そしてなにより、一つのコミュニケーションの方法であり、”手話”を学びたく思っていたからです。

私は、以前、町で聴覚障害者の方を見かけて、話にしか聞いた事のない手話を見ました。そして、手話というものはその方達にとつて、日頃の会話や感情を表すのに欠かすことの出来ない、とても大切なものだということが判りました。手話をなるべく多くの人が理解できるようになり、障害の壁がすこしも薄くなることを願います。そして今、私もその手話を学べていることがうれしいです。

す。さらに手話を学ぼうちに、今まで知らなかった色々な事を詳しく知ることができました。

例えば、手話以外に、聴覚障害をもつ方と会話をする方法があることです。「口話」という口の形で言葉を読みとる方法や、「空書」という空中に文字を書く方法、紙に言葉を書く「筆談」、指で五十音をつくり組み表す「指文字」、そしてそのまま相手に伝える「ボディランゲージ」といわれる方法です。手話ができないとコミュニケーションがとれないと思っている人も少なくないのでないでしょうか。手話を含め、六つの方法をあげましたが、これだけ多くの方法があれば、難しく考えず、相手に伝えたい気持ちを持つて思いきって接することによって、会話は可能になると思えます。

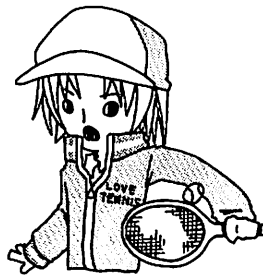
つい恥ずかしくなってしまうがちですが、失敗を恐れるよりも挑戦して慣れることが大事なのだと思えます。

また、手話の単語の成り立ちを聞くと、私たちが今使っている言葉のイメージと異なる事があります。それは、その単語が昔の形で表現されているからです。歴史が少し見えてくるようで、おもしろいです。

その他、勉強して、JRCとして出来ることがさらにあることを、新たに知りました。救急法を学び実践に備える事や、募金を集める事、古切手を集める等です。又、盲導犬に

ついても学び、これらの事を多くの人々に知らせ、協力をお願いすることです。

今、高校生の私に、何が出来るのか現実にはわかりません。時間的にも、体力的にも、行動範囲をも考えると、どうしても難しい面もありますが、少しずつ、自分にできる事、自分にしかできない事をみつけて、行動していきたいと思えます。



第七回 高等学校社会科学科研究発表大会

「川崎(ヤマトウ)のなかの沖繩(ウチナー)

『豊かな居場所を求めた人たち』

法政大学第二高校 社会科学研究部

二一世紀における「歴史と人権」のあり方を、沖繩に焦点をあて、私たち高校生が問題意識をもち、調べ、考え、悩み、また調べるという取り組みから得た「視点」を発信したいと考えました。

一、琉球人と沖繩人の間で

一四九二年からの沖繩史の区分を考え、なかでも一八七九年の琉球の廃藩置県、「琉球処分」が行われた年以降、自分は琉球の人だと思っていたら、いきなり沖繩人になった、というより自分の意志ではなく変えられてしまったという状況がつけられ、戦後アメリカ軍の占領とともに、日本人意識を除去するためか、琉球という呼び名へ戻されます。沖繩の人たちは、「自分はだれ?」「ここはどこ?」という問いを絶えず持ち続けることなしにいられない気持ちが生み出されていきます。

二、「文明化」と「日本化」が生み出したもの

琉球処分により沖繩県は一番あとから県になったため、国としては、一番あとからきた県に日本人だという意識を注入するため、二つの政策、「文明化」と「日本化」の政策がとられました。沖繩県庁は、言葉を変えたりという政策を最初に着手します。その具体化として学校をつくります。税制や徴兵制はそのあ

とでした。日本語を共通語として使うよう指導するなかで、問題が起こってきます。それは「一言札」というもので、子どもたちの心を傷つけ、言葉に、そして内地(ヤマトウ)に気後れする気持ちをつくることになりました。

三、沖繩人に勇気を与えた沖繩学と伊波普猷

猷

伊波は苦勞を重ね東大に入り、言語学を専攻します。それはなぜでしょう。沖繩の元氣を回復するため、沖繩人に自信と希望を生み出すためでした。琉球は日本と同じ祖先から出ているという「日琉同祖論」を主張していますが、そうだからといって日本に同一化する必要はなく、必要なのはむしろそれぞれの特徴、持ち味を出すことである、と言っています。沖繩の個性の主張といつてよいでしょう。こうした学問を、のちに伊波は、「沖繩学」と名づけました。沖繩学は、精神的に自信を失いかけた沖繩の人々に勇気と自信を与えました。

四、川崎(ヤマトウ)のなかの沖繩人(ウチナーンチュ)

チ

京阪神から京浜へ、一九二〇年代に入ると京浜地域、なかでも川崎に出稼ぎ紡績女工たちが来ることになりました。その理由は富士瓦斯紡績株式会社川崎工場があり、また南部地域には日本鋼管製鉄所が労働者を求めている事情がありました。同じ村の先輩や知人を頼って関西に、関東に、そして川崎に出てきた沖繩の人々は同郷人組織(いわゆる県人会

など)をつくり、互いに生活を支え合いながら生き、独自の文化も次の世代へ伝えていきます。夏休みの活動ではそうした体験者の方から聞き取りをすることができました。

五、唯一の学童疎開被害者であるウチナーンチュの子弟米須清治君

十五年戦争の末期、神奈川県北部の大山町へ疎開していた沖繩出身者の子弟が、五月そこへ爆弾を落とされ、犠牲になってしまいました。川崎市の子童疎開全体を通じて唯一の犠牲者が、沖繩出身の子弟であったことは、沖繩の人々の深い悲しみをさそったといえます。

六、川崎沖繩県人会の結成と戦後の「本土就職」

川崎に同郷組織が結成されたのは一九二四年、いまから七十年前。川崎における沖繩芸能の出発でもありました。組織は、はじめ「沖繩連盟」、それから「沖繩協会」、そして今日の「沖繩県人会」へと名称を変えていきました。沖繩戦での甚大な被害の余韻さめやらぬ五〇年代後半から、基地依存の経済構造を背景に、雇用機会の少ない沖繩から「本土就職」として、多くの若者がヤマトウへ送り出されました。「白雲丸」「白龍丸」「白山丸」が、東京の芝浦、横浜の高島、両横橋に船体をみせていました。上京した人々は、親戚・知人・なかには居候を頼りました。そのため一種の中継基地的な賑わいをみせる沖繩の人々も多かったようです。高度経済成長は一層の若い労働力を沖繩にも求めました。

七、川崎のなかの沖繩が生んだ神奈川県無形文化財第一号「沖繩芸能」

沖繩女工や出稼ぎ沖繩青年たちの望郷の念

第七回 高等学校社会提言作文コンクール

最優秀 (教育長賞)

文化芸術に対する見直し

日本大学藤沢高校二年 高橋 真未

が強まり、他方で沖縄人への無理解、偏見として差別が厳然と存在するなかで、沖縄人としてのアイデンティティを求めて、ウチナーに在るときにはあまり関心を持たなかった沖縄の文化に大きな関心をしめし、取り組むことが一つの流れになってきました。二十七年、「阿波連郷土舞踊同好会」の看板が出され、川崎沖縄芸能の本格的なスタートとなりました。戦後、五二年、川崎市は「沖縄芸能」を無形文化財として全国で最初に指定します。五四年には神奈川県が無形文化財として「川崎沖縄芸能」を指定しました。

八、沖縄と川崎の文化の橋渡しと沖縄から

学んだ文化人

詩人で作詞家の佐藤惣之助と陶芸家の濱田庄司の二人の「沖縄からの学び」を考えて、それがヤマトウ、川崎の文化にどのような影響を与えたかをみました。

おわりに

沖縄とウチナー、川崎とヤマトウに生きる沖縄の人々が現在も問い続ける「沖縄とは何か」「沖縄人にとって川崎とヤマトウとは」を、沖縄の歴史と文化、そして沖縄と川崎とヤマトウにあつて考え、悩み、希望をもつて行動する沖縄人を通じて考えてみました。川崎とヤマトウに生きる沖縄人の歴史と人権との対話を通じて、私たちが生きる現代の意味に迫りたいと考えました。問題は絶えず考え、意見をのべ、より良くするためにみんなと行動することです。異質な他者との対話をひらき、それぞれの歴史的人権が、平和的生存権のなかで生かされる時代の主人公に私たちはなりたいたい、と考えています。

(文責 二年 高瀬直樹)

先日、私は新聞でこんな記事を見つけました。オーストラリアにあるウィーン国立歌劇場は第二次世界大戦の空襲をうけて焼け落ちたが、この歌劇場は広く市民の精神のよりどころとなり深く文化意識を育んできたため、その存在が灰燼に帰した時には市民は「パンよりもオペラを！」と叫んだ、という話です。またアメリカでは、かつてルーズベルト大統領は文化芸術分野の人材育成に積極的な投資を行い、それが現在のハリウッドを含む文化芸術産業全体の隆盛につながったそうです。どちらの話も危機的な状況のなかで、文化芸術は人々の心の支えとなっていたのです。私はこれらの記事を見て、改めて文化芸術のもつ力のすごさを確認しました。

今、私達の生活には文化芸術はあふれています。街を歩けば必ず音楽がかかっているし、美術館にだつて行こうと思えばいつでも行けます。でも教育の現場ではどうでしょうか。受験戦争の熱は未だ冷めきらず数学や英語ばかりが重視されています。受験に必要な音楽や美術、書道の授業時間はとても少なく、あまり熱心に授業が行われているとは思えません。学校関係者や生徒達は文化芸術を軽視しているのではないのでしょうか。学校には不登校や学級崩壊などの問題があります。その原因の一つに、生徒が芸術授業で十

分に心を休められないことが挙げられると思います。

ところで私は高校生になってから自分の進路を考えるようになりました。そして世の中にはどんな仕事があるのかと調べていくうちに、「音楽療法士」という職業を知りました。心身障害児や老人、心とストレスに悩む人たちに、音楽療法で安らぎを与えるという仕事です。私は小さい頃からピアノを習っていて音楽も大好きですし、音楽の力で人を癒すなんてとても魅力的な仕事だと思っています。私は理科系の研究職に就きたいという夢もあるので、音楽療法士になるかは分かりませんが、でもたとえならなかったとしても、ボランティアか何かで音楽療法の活動はしていきたいと考えています。

まだ文明の力が届いていない地域で生活している人は、日本のようなハイテクの国から見ればただ遅れている人というイメージがあるかもしれません。しかしそこには必ず民族音楽があり、客が来れば歌をうたつて歓迎します。自分たちに誇りを持ち生きること喜びを感じていると思います。それとは対照的に日本は物資は豊かであるのに多くの問題が乱立し、残念ながら自ら命を絶つてしまう人も少なくありません。きっと、もっと文化芸術に触れる機会を多くすれば心にゆとりができ、少しは状況は良くなるだろうと私は考えます。民族や言葉の違いを越え、人の心を奮立たすことのできる素晴らしい文化芸術に対する関心が、より高くなれば良いと思います。

第五十三回 県下高等学校弁論大会

最優秀（知事賞）

生きた日本を

日本大学藤沢高校二年 新美 安紀

「日本について、色々話してくれませんか？」IES国際理解の意見交換の時の事、アメリカ人の女の子がにこにこ私に尋ねてきました。この質問を予想していた私は、早速勉強した日本文化、そして折りづるの作り方を外国の人々に教えました。しかし、とても喜んで楽しそうにおる彼らとは対照的に、私に質問してきた女の子は、少し残念そうな顔をしているのです。私は会が終わった後も、その時の彼女の顔が頭から離れませんでした。「日本について質問してきたのは彼女なのに、どうして私の話を楽しくそうに聞いてくれなかったのだろうか。何か失礼なことを言ってしまったのだろうか。」と。しかし数日後、図書館でファン・ヴォルガという人のエッセイを読んでいた私はハッとしました。その本には、

「日本について聞くと、日本人は皆、伝統文化を語るけど、本当の実生活を話してくれることは少ない。だから僕はアルゼンチンにいた頃、日本人は皆、〇しから学生まで、毎日お花を生けるものだと思いきんでいた。」と書かれていたのです。私は、あの時の彼女の表情の意味が初めて分かりました。と同時に自分自身がとても恥ずかしくなりました。私は「本当の日本」を彼らに伝えていません。私がああ時、必死でつめこんだ日本文化を語ったのは、エキゾチックなものは外国の人の受けがいいからという理由でした。言葉のよく分からない私にとって、これ程手取り早く、便利な日本の伝え方はありません。そんな

な私に彼女はがっかりしたのでしよう。うわべだけの国際交流をする私に。アメリカ人である彼女は私達の本当の姿を知りたかったに違いありません。ふつうの高校生である私達を。日本の高校生は今、何に一番興味を持っているのだろうか、好きな人はいるのだろうか、将来の夢は何だろうか、世界をどのように見ているのだろうか。それなのに、あの時の私は、よく知りもしない日本文化を話すことしかできませんでした。将来、通訳になりたいという夢のために、今まで私が経験してきた国際交流は一体何だったのだろうか、と泣き出した気分になりました。私は一人の日本人として自分の考えを主張する大切さをこの時、初めて痛感したのでした。私はよく、みんなの意見に反対の時でも、話がまとまりそうであれば黙ってすませてしまうことがあります。私だけでなく一般的に日本人はよく、「自分の意見をもたない」と言われます。一体何故でしょうか。私はイギリス人のマヤ先生に尋ねてみました。すると先生は、

「西洋は個人主義を大事にする国だけれど日本人は協調性を大切に、相手を傷つけまいとするからよ」と話してくれました。マヤ先生の言葉に、私は日本人の心理を少しでも理解してもらえたようで、とてもうれしく思いました。もし自分の意見をはっきり言ってしまうと、口論になるかもしれない。そして相手が傷ついてしまうと思うと、怖くてつい、黙ったり、曖昧な表現を使ってしまう。これが私たち日本人です。つまり、人にストレートに感情を表現し、摩擦を起こすことを避けようとするのです。しかし、この様な日本の考え方で本当に相互の理解が得られるのでしょうか。世界

には数えきれない程多くの文化や思想が存在します。一人一人の価値観でさえ異なり、時には対立するのですから、これらの文化や思想が異なり、対立するのは、もはや当然と言えるのかも知れません。そんな人々と共存し二十一世紀という新しい社会を築き上げていく上で、今までの日本の様に、ただニコニコと微笑んでいるだけではいけないと思います。対立を恐れずしんから語り合うことが必要なのです。そのためには例えば、自由課題の様な、私達が問題を見つけ、考え、自分の意見を確立していける様な教育、もしくは、様々な意見交換の場が必要でです。地域において、もしくは学校のホームルームや道徳の時間において。二十一世紀は「心の時代」と言われています。もし世界中の人間が本音で語り合うことができたなら、争いのない、素晴らしい世の中になるはずでです。

今、私は通訳を目指して英語の勉強を続けています。しかし、成績が一向にのびなかったり、ムダなことをしているのかもしれないと思ったり、競争率の高さに挫折しそうになった時、ふとIESで知り合ったアメリカ人のあの女の子のことを思い出します。そして私が通訳という仕事に就いて、外国の人々と接する時のことを考えるのです。

「うわべだけの日本ではなく、私がこの国に對する誇りと愛情をもって、彼らに本当の日本を伝えよう」と。するとまた、不思議なことに勉強に對する意欲が湧いてくるのです。

私は彼女から、たくさん大切なことを学びました。だから来年、私はもう一度、IESのボランティアに参加し、あのアメリカ人の女の子に会おうと思います。そして今度こそ日本に對する自分の考え、日本のファッション、ミュージシャン、高校生活など、「生きた日本」について私なりに話したいと思えます。彼女と、友だちになれるように。

平成十三年度 神奈川県高等学校文化連盟 編集委員会

田澤	高橋	改木	高村	佐藤	小宮	古泉	花田	松川	細田	白鳥	樋口	藤野	二ノ宮	室井	渡辺	岩瀬	井上	金子	芝山	金子	有澤	笹川	寺岡	中島	川崎	田邊	鈴木
昇	敬久	紘和	隆幸	公彦	まゆみ	純一	直子	智典	孝充	真弓	一孝	敬子	哲夫	真理子	和敏	博文	新一	利久	明弘	英樹	猛	譲	稔	真木子	千苗	公一	夏美
事務局員	事務局員	事務局員	副理事長	理事	社長	弁論	茶道	アマチュア無線	新劇	演劇	理科	郷土芸能	吟詠剣詩舞	日本音楽	鉄道研究	かゝるた	ポランテイア	将棋	囲碁	放送・情報	文芸	写真	書道	美術・工芸	器楽・管弦楽	吹奏楽	合唱
			(県立港南台高等学校)	(県立生田高等学校)	(県立瀬谷高等学校)	(横浜英和女学院高等学校)	(県立都岡高等学校)	(県立港南台高等学校)	(県立横須賀工業高等学校)	(横浜英和女学院高等学校)	(県立生田高等学校)	(県立高浜高等学校)	(県立川崎南高等学校)	(県立弥栄西高等学校)	(県立長後高等学校)	(県立藤沢西高等学校)	(県立有馬高等学校)	(県立田奈高等学校)	(県立横浜翠嵐高等学校)	(県立大船工業技術高等学校)	(公文国際学園高等部)	(県立麻溝台高等学校)	(県立川和高等学校)	(県立希望ヶ丘高等学校)	(県立鎌倉高等学校)	(県立青少年センター)	(県立大船高等学校)

編集後記

「翔」第十三号をお届けします。この第一号が編集された頃は、まだ編集委員という独立した委員はなく、実行委員が原稿の作成や編集を担当しておりました。事務局が県立教育センターにあつて、編集小委員会と称して四、五人で集まり、写真の選定を行ったのを覚えています。他の専門部会の活動がとて新鮮に感じられ、さまざまなことに思いを馳せながら作業をしていきました。当時十一だった専門部会も今では二十三に増え、その高文連の活動が十三年の積み重ねを経て、今年八月にいよいよ全高総文祭・神奈川大会を迎えます。県高校生の自由で豊かな感性を全国に向かつてアピールする絶好の機会です。「翔」第十四号がさらに充実したことになることを期待し、また高校生が精一杯日頃の活動の成果を実現できるように、全高総文祭かながわ2002の成功を祈念しています。(丁)

平成十三年度 「翔」(はばたき) かながわ高文連十三号
 平成十四年三月三十一日

発行者 神奈川県高等学校文化連盟
 〒220 0073 神奈川県高等学校文化連盟事務局
 神奈川県横浜市西区岡野一―五―八
 電話 〇四五(三三〇) 一〇五三
 FAX 〇四五(三三〇) 一〇二三

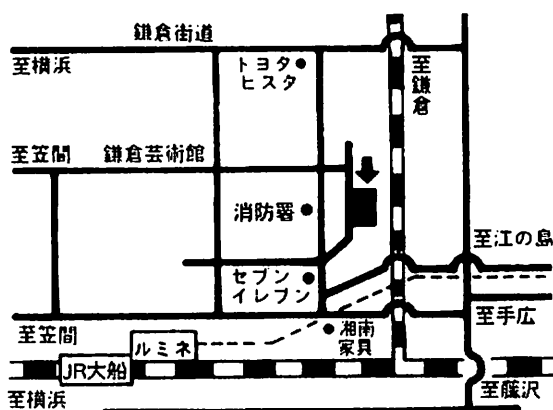
印刷 株式会社 柏苑社
 電話 〇四五(七一) 五六〇〇代

21世紀への 美術教育を応援します。

美術教材（絵画・デザイン・工芸・陶芸）
（授業資料・鑑賞資料）

美術関連設備・機械

額縁（洋画・日本画・デッサン用）



入札参加資格(神奈川県・横浜市・東京都)

年中無休、駐車場完備、営業時間10:00~18:00

株式会社 **アートフレーム**

〒247-0055 鎌倉市小袋谷1-8-13

TEL 0467 (45) 6331

FAX 0467 (45) 6308

入学願書受付中

演劇俳優科/舞台俳優コース

演劇俳優科/声優コース
演劇声優科

演劇・声優業界へ
行くなら
日本工学院。

演劇俳優科/舞台俳優コース

演劇スタッフ科

感動をプロデュース

- メディアクリエイター系 マルチメディア科(ゲームソフト/コンピュータグラフィックス/デジタルクリエイターコース)/マルチメディア科三年制★/総合アニメーション科/マルチメディアアート科(デザイン/アートコース)
- 放送メディア系 デジタル映像科(ミュージックプロモーション/CM・特撮コース)★/放送メディア科/放送芸術科
 - 音楽・音響系 コンサート・イベント科/コンピュータミュージック科/音響芸術科
 - ミュージックエンタテインメント科(アーティストプロデュース/ミュージックライターコース)
 - 演劇・声優系 演劇俳優科(声優/舞台俳優コース)/演劇声優科/演劇スタッフ科
 - 情報システム系 情報処理科三年制/情報処理科※/情報ビジネス科
 - 情報ネットワーク系 ITネットワーク科★/パソコン・ネットワーク科/インターネット科
 - エンジニアリング系 電子工学科/ロボット科/
CAD設計製図科/電気工学科/環境科学科/建築設計科
 - テクノロジー系 自動車整備科/音響技術科/電気工事科/土木建設科
 - 医療系 理学療法学科/作業療法学科/臨床工学科[三年制]/臨床工学専攻科(夜間)
 - スポーツ系 健康スポーツ科学科(スポーツトレーナー/フィットネスデザイン/テニスコース)

(★は新設 ※は日本工学院専門学校にて夜間部も設置)

●4省(総務・経済産業・厚生労働・国土交通省)資格認定校



日本工学院専門学校校舎全景

2002年4月開設



鍼灸科
柔道整復科



日本工学院八王子専門学校
東京工科大学キャンパス全景

日本工学院専門学校

〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 ☎0120-123-351

日本工学院八王子専門学校

〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1 ☎0120-444-700

姉妹校 日本工学院北海道専門学校

〒059-8601 北海道登別市札内町184-3
☎0120-666-965

併設校 東京工科大学

〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
Tel. 0426-37-2111代

日本工学院を卒業後、併設校の東京工科大学へ有利に編入できる制度が設けられています。

●PC & mobile URL <http://www.neec.ac.jp/> ●Eメールアドレス info@neec.ac.jp



早くからの入試対策が、現役合格の決め手です。



美大合格者数 神奈川No.1

合格実績
2001年
総数

現役合格者
444 210名
名合格!!

デザイン系 340名 合格者
ファインアート系 104名 合格者

東京芸術大学	7	名合格
多摩美術大学	92	名合格
武蔵野美術大学	117	名合格
東京造形大学	68	名合格
女子美術大学	61	名合格

KAMAKURA
湘南美術学院
YOKOHAMA
港北美術学院

●設置科：油画科/デザイン・工芸科/日本画科/彫刻科/建築科/基礎科
日曜受験デッサンコース/学科セミナー

TEL.0467-46-1338 〒247-0056 神奈川県鎌倉市大船2-18-28
E-mail:sas@art-shonan-kohoku.jp

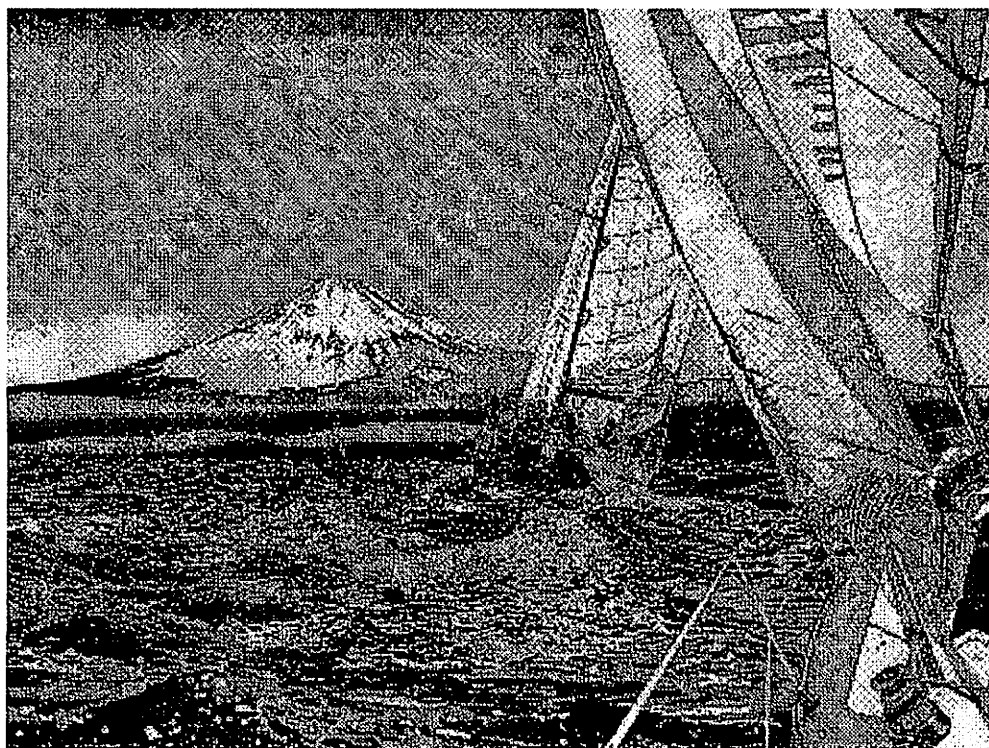
●設置科：デザイン・工芸科/基礎科/学科セミナー

TEL.045-985-0675 〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台2-32
E-mail:kas@art-shonan-kohoku.jp

<http://www.art-shonan-kohoku.jp>

湘南しんきんのキャッシュコーナーは

365日・年中無休



© Eizin Suzuki

SHONAN
湘南しんきん

WA! いいね!



- 三松まちだ東急店 東急町田7階 TEL.042-728-2335
- 三松古淵店 イトーヨーカドー2階 TEL.042-768-4776
- 三松大和鶴間店 イトーヨーカドー2階 TEL.046-200-0236

きもの



<http://www.mimatsu-group.co.jp/>

For Your Travel & Life
世界をつなぐ旅と心

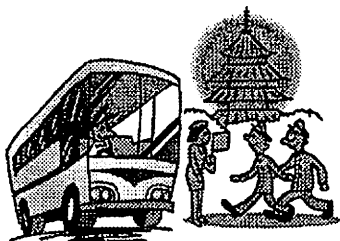


旅、こころ

修学旅行、卒業旅行、遠足から林間学校、ホームステイなど
JTBはあらゆる学校の旅行のお手伝いをさせていただきます。

さらに、個人の旅行でも、お客様のニーズにお応えした
オリジナルの旅まで、旅のことならなんでも承ります。
私たちは旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。

旅する人の気持ちで.....JTB.



お問合せ・お申込は.....

JTB教育旅行横浜支店

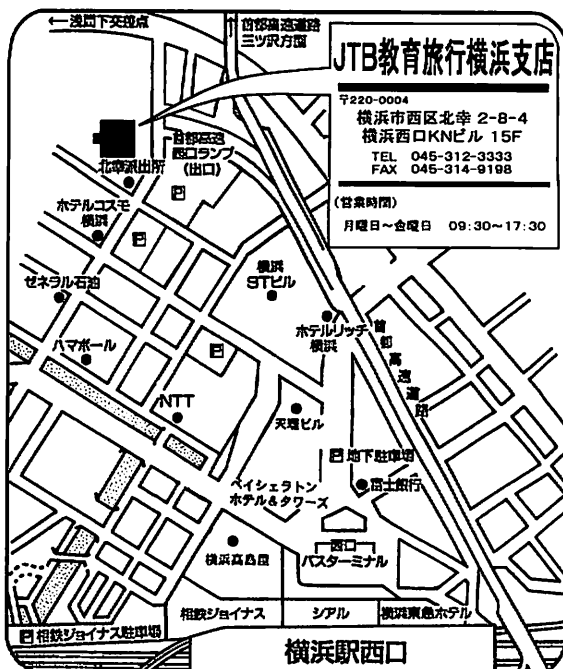
まで

TEL:045-312-3333

FAX:045-314-9198

支店ホームページ

<http://www.jtb.co.jp/kyoyoko/>



一人ひとりの学ぶ心に応える教育を。

河合塾は、幼児から社会人にわたる多彩な教育事業を展開しています。
「すべては、一人ひとりの生徒のために」を基本理念に、
私たちは、これからも時代の求める教育に挑戦しつづけます。

<進学教育>

- 大学受験科
- 高校グリーンコース
- 中高一貫東大現役進学塾・MEPILLO®
- 中学グリーンコース
- 河合家庭教師派遣
- 海外大学進学・海外高校体験
- 海外帰国生コース
- 河合出版

<進学関連事業>

- 河合サテライト講座
- 芸大進学コース
- K会
- 大検コースCOSMO
- 幼児・社会人教育
- トルトンスクール
- 河合ライセンススクール
- <教育関連事業>
- 河合文化教育研究所
- 生きるもから工房

駒場校 千駄ヶ谷校 池袋校 立川校
町田校 松戸校 横浜校 大宮校
津田沼校 金沢現役館 厚木現役館 藤沢現役館
川越現役館 千葉現役館
家庭教師派遣センター 美術研究所 K 会
河合塾ホームページアドレス <http://www.kawai-juku.ac.jp>

河合塾

●1958年創立●

ひたすら対象を凝視。

第一線の写真家・批評家が、独自のカリキュラムで指導する少数精鋭の創造空間。

■募集課程

学 科	人 員	修業年限	授業日・時間
写真芸術 第1学科	140名	3年	月～土曜日 9:00～16:10
写真芸術 第2学科	100名	2年	月～土曜日 18:00～21:10

東京総合写真専門学校

学校法人 写真学園

(専修学校/専門課程)

■資料請求先

〒223-0051 横浜市港北区箕輪町 2-2-32 Free. 0120-06-3077

<http://www.tcp.ac.jp/>

<http://www.tcp.ac.jp/i>

各イベント、バザール会場をはじめ公共スペースにも使用されております

プロの仕上がり感

We'z COLOR

ウィスカラー

水溶性 600 ml ¥2,500~
全20色 2リットル ¥7,500~

水溶性(蛍光色) 600 ml ¥4,200
全9色 2リットル ¥13,000

※ブラックライトを当てると抜群の発光が得られます

Be'z COLOR

ヒースカラー(蛍光色)

特徴

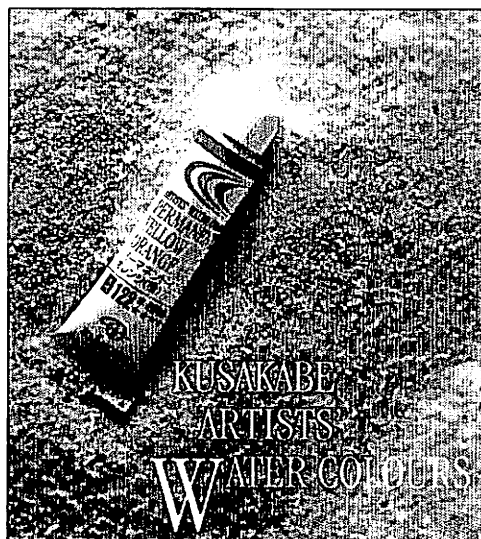
- 耐水性。室内外を問わずあらゆる素材に塗れます
- 耐侯性試験2,000時間(約5年)クリアー

用途

- 壁画描写に最適。外壁面から室内壁までカバー
- モルタル・コンクリート・プラスチック・金属・ビニール
木製品・紙・ガラス・キャンバス・布など

 **NICKER** ニッカー絵具製造所
E-mail nicker.colour@eagle.ocn.ne.jp

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-7-24
TEL. 03(3502)0955 (代) FAX. 03(3902)3895



 KUSAKABE

環境へのやさしさ、
色の鮮やかさと使いやすさをチューブに詰めました。

クサカベ専門家用水彩絵具 全90色

人と環境にやさしい製品づくりを追求し、カドミウム、コバルトなどの顔料を使わず、高耐光性の有機顔料を使用。明るく鮮やかな色調を豊富にするなど、いろいろな表現におこたえできる、さらに使いやすくなった水彩絵具です。90色すべてに日本画で使う色名も併記しました。やさしくなる、もっと使いやすいとなった新・クサカベ水彩絵具。ぜひご愛用ください。

株式会社 クサカベ
〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町3-3-8
TEL.048-465-6661(代表) FAX.048-465-7756
<http://www.kusakabe-enogu.co.jp>

文字・画像情報処理

企画／デザイン／制作／印刷／製本



HAKUENSHA Inc.
INFORMATION
DESIGN CENTER

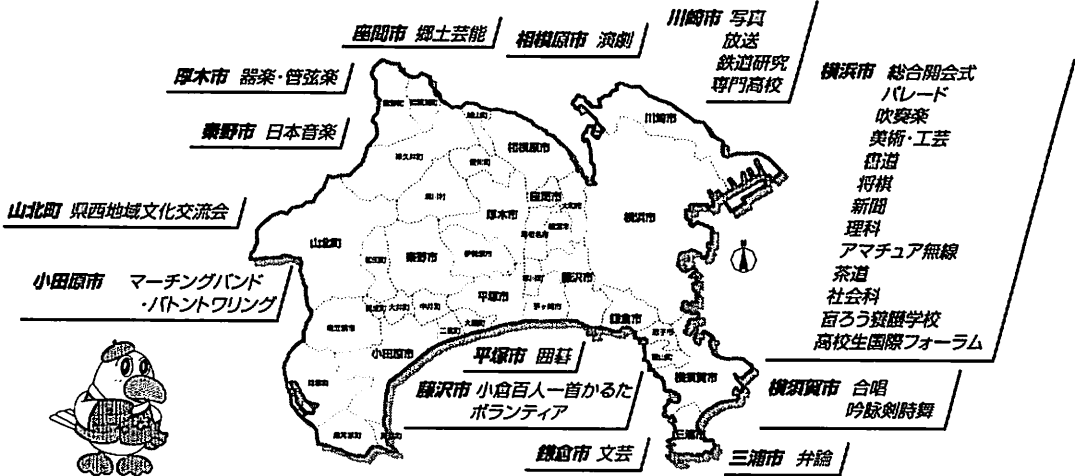
株式会社 柏苑社

〒232-0056 横浜市南区通町1-6
TEL(045)711-5600
FAX(045)721-5530
E-mail : hak@hakuensha.co.jp

第26回全国高等学校総合文化祭・神奈川大会

全高総文祭かながわ2002

平成14年8月7日(水)～11日(日)



部 門	主 会 場	開催市町	日 程				
			第1日	第2日	第3日	第4日	第5日
			8/7(水)	8/8(木)	8/9(金)	8/10(土)	8/11(日)
総合開会式	横浜国立大学大ホール	横浜市	○				
パレード	西区みなとみらい21地区	横浜市	○				
演劇	クリエーションホール相模大野	相模原市			○	○	○
合唱	まてながわ芸術劇場	横須賀市			○		
吹奏楽	神奈川県立川崎市民会館	横浜市		○	○		
器楽・管弦楽	厚木市文化会館	厚木市					○
日本音楽	秦野市文化会館	秦野市			○	○	
吟詠・劇詩	横須賀市文化会館	横須賀市				○	
郷土芸能	八景三景芸術ホール座間	座間市				○	○
マーチングバンド・パトントワリング	小田原市市民会館	小田原市			○		
美術	神奈川県立川崎市民会館	横浜市	○	○	○	○	○
書道	横浜市民会館ラフォーレ	横浜市	○	○	○	○	○
写真	かながわワイエススパーク	川崎市	○	○	○	○	○
放送	川崎市教育文化会館	川崎市					○
将棋	平塚市総合体育館	平塚市			○	○	
弁論	神奈川県立かながわホール	横浜市		○	○	○	○
小倉百人一首かるた	藤沢市伏見宮記念体育館	藤沢市			○	○	
新聞	横浜新聞社記念会館	横浜市	○	○	○	○	○
文芸	鎌倉市文化会館	鎌倉市	○	○	○		
ホウシツライア	神奈川県立かながわ女子学院	藤沢市	○	○	○		
鉄道研究	新百合トラインステーション	川崎市			○	○	
理科	横浜市立(谷沢)高等学校	横浜市		○	○	○	
アマチュア無線	神奈川県立青少年センター	横浜市	○	○	○	○	○
茶道	大佛次郎記念会館	横浜市他			○	○	
社会科	各会場	横浜市他	○	○	○	○	○
養護学校	横浜英和女子学院高等学校	横浜市		○	○		
百ろう養護学校	かながわワイエススパーク	川崎市	○	○	○	○	
高校生国際フォーラム	神奈川県立地球市民かながわホール	横浜市	○	○	○	○	○
県西地域文化交流会	山北町中央公民館	山北町			○		

部 門	主 会 場	開催市町	第1日	第2日	第3日	第4日	第5日
高校生国際フォーラム	神奈川県立地球市民かながわホール	横浜市		○			
県西地域文化交流会	山北町中央公民館	山北町			○		

●第26回全国高等学校総合文化祭神奈川県実行委員会事務局 ●URL : <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokokyoiku/kobunsai/index.htm>
 TEL 045-290-6472~4
 ●E-Mail : zksbunka.92@pref.kanagawa.jp
 FAX 045-290-6474

全高総文祭かながわ2002イメージソング

「地球からの贈り物」

作詞 柴田 美里

作曲 石川 亮太



1. あい を はくくむこのちきゅうわたしたちは生きている - たい
2. ゆめ を はくくむこのちきゅうわたしたちは生きている - あお



よう がくれたか が やきはいつの日かゆめになる
ぞら がくれたひろがり はいつの日かきぼうになる



どこまでもは - てな - くつつく このみちを
お おぞら を



あふれる - おも い ころろ に みた - し
あらたな - みら い ころろ に えが - き



- いまを - しんじて あるい - てゆこ
- あすを - しんじて はばた - きゆこ



う - さあひかりのドアを - たたいてみよう -
う - さあひかりの



(間奏)

ドアを - ひらいてみよう -

